

かたろう平和

ふれあい京都

58.11.10~13.

文集編



埼玉県立越谷北高等学校

かたろう平和

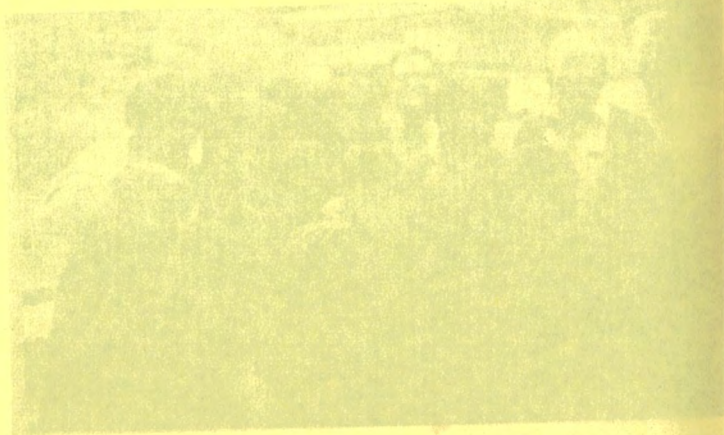
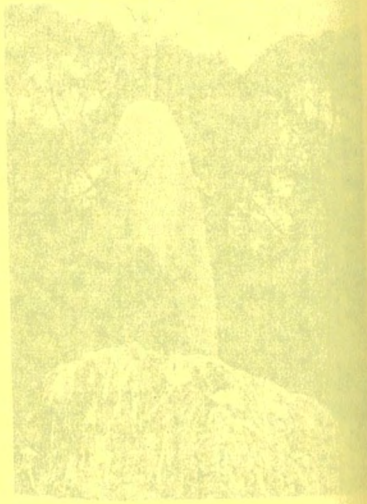
ふれあい京都

S58.11.10~13.

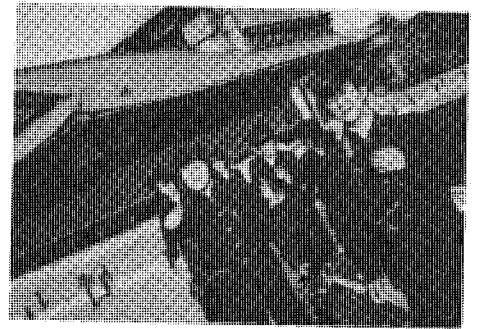
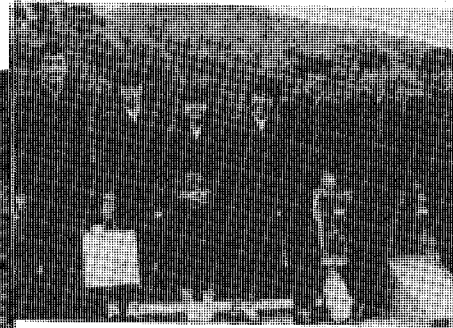
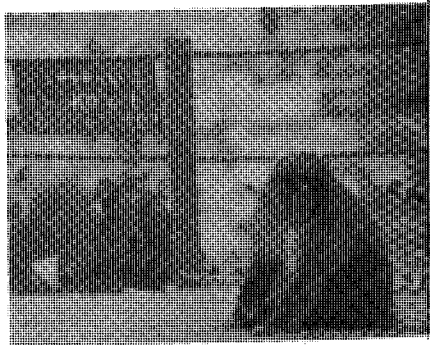
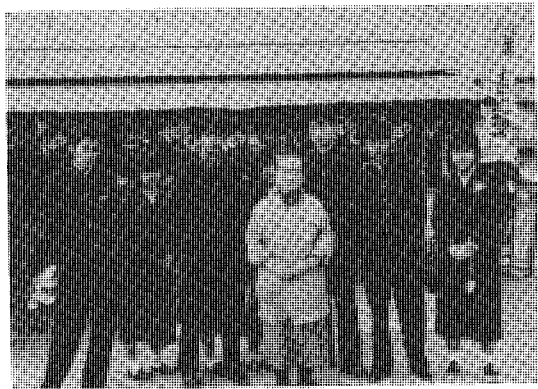
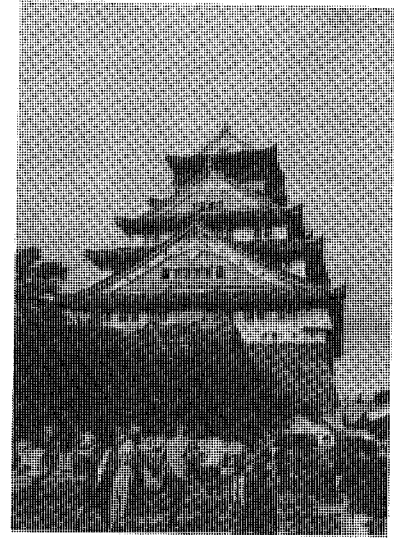
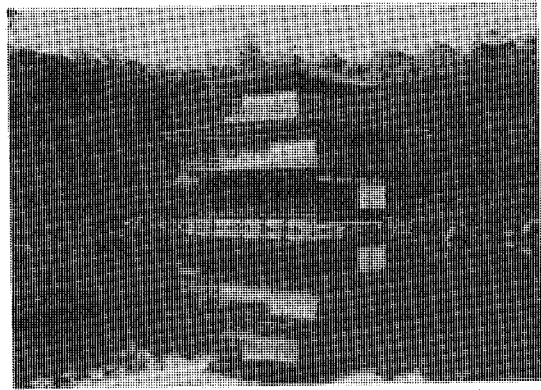
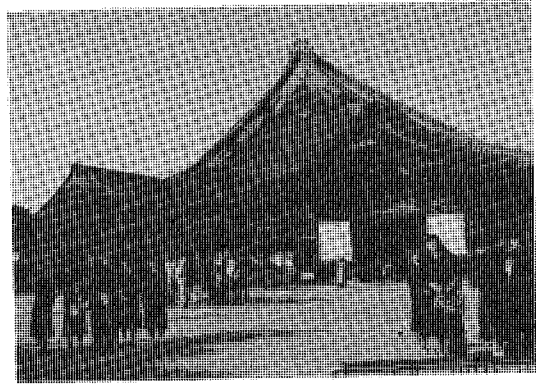
文集編

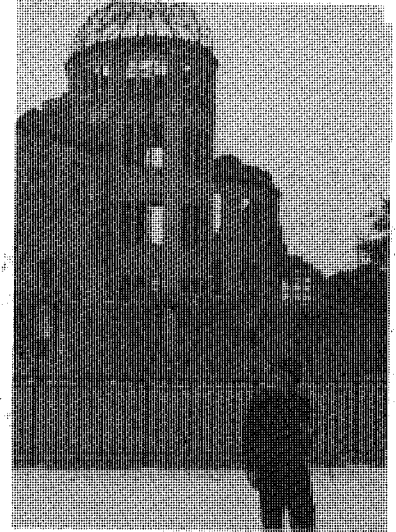
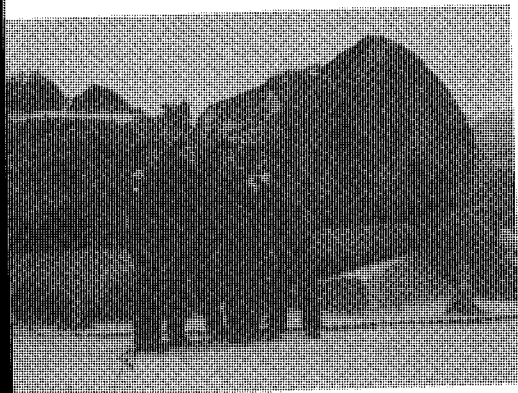
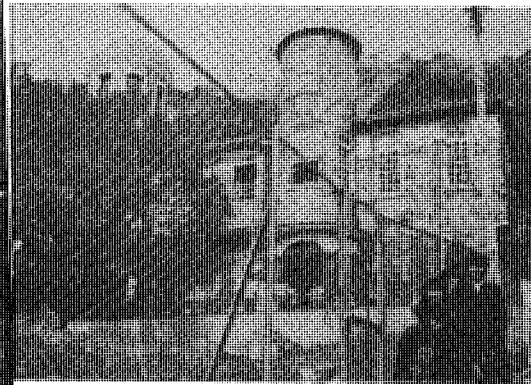
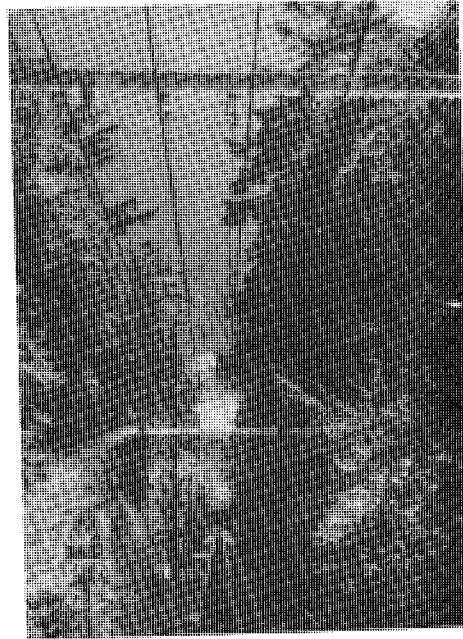
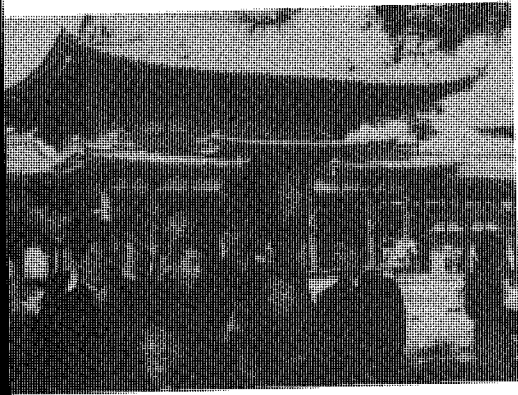
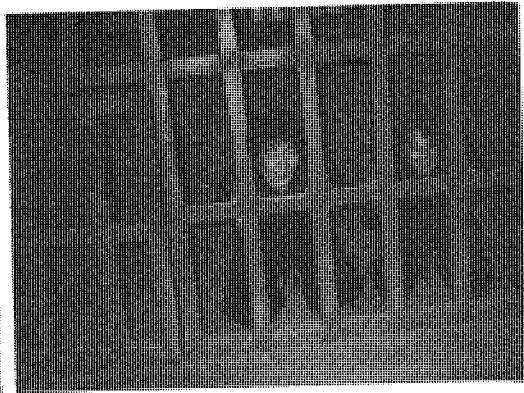
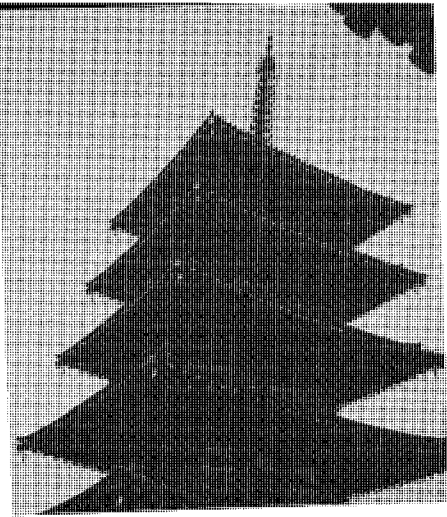


埼玉県立越谷北高等学校

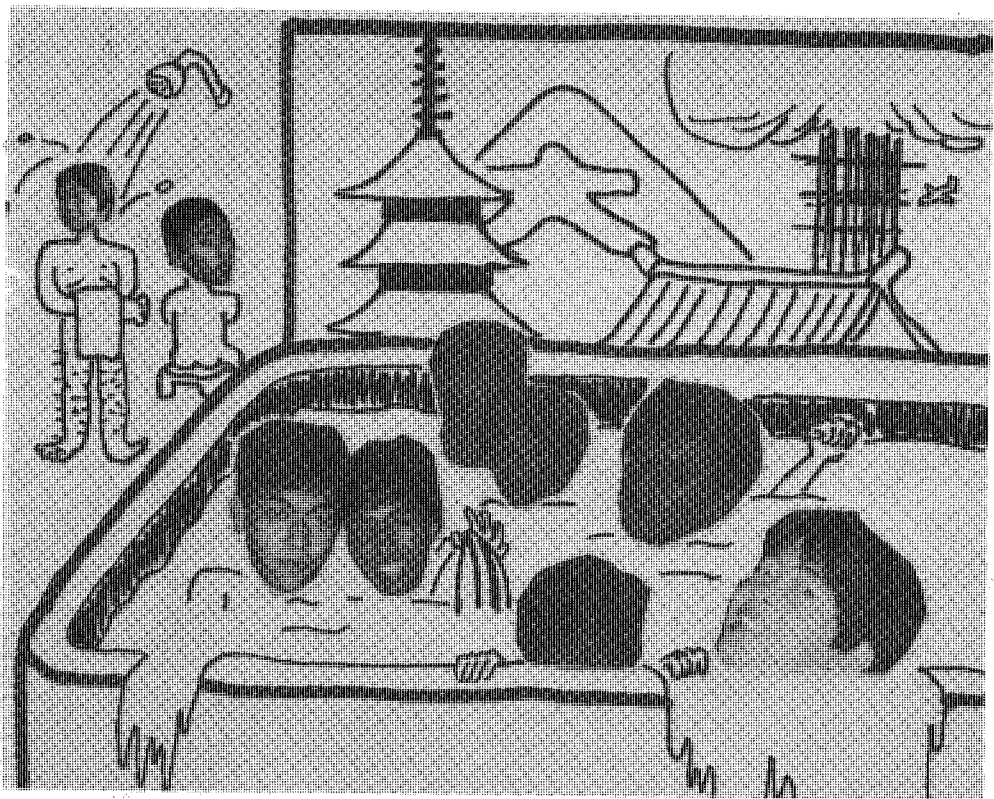








石巻



修学旅行を終えて

学校長 大木 義 夫

学校にとって最も大きな行事の一つである修学旅行を無事果たすことができ、大変嬉しく思っています。諸君にとってこの修学旅行は一生の楽しい思い出になることと思います。出発に先だって、この修学旅行を楽しいものにする第一は全員無事であることと申しました。四三三人の生徒諸君病氣らしい病人も出ず、また宿泊先の旅館では越北高の生徒さんは大変行儀がよいとほめてくれました。これも生徒諸君の努力と先生方のお骨折りのたまものと有難く思っております。

旅を楽しむ第二は、事前によく旅先の事を研究しておくことだと申しました。これは修学旅行に限ったことではありません。旅先の事また途中の経路のことについて事前に研究しておくこと、旅を二倍も三倍にも楽しくすることが出来ます。十五年程前に修学旅行無用論が新聞紙上でにぎわった事がありました。その理由は、沢山の費用と暇をかけて、それだけの価値がないのではないかという事と、アメリカ等では修学旅行のようなものはないということからでした。日本の奈良・京都には世界に誇る文化遺産があります。またそれぞれの文化遺産には諸君が学んだ歴史的背景があります。修学旅行の菜(しおり)の中の見学テーマを見て、私も胸が踊ってまいりました。「大和路探訪」「山の辺の道を歩く」「古都を探る」「嵯



峨の古寺を訪ねる」……。きつと歴史で学んだ事がしっかりと胸の中に刻まれたことと思います。広島原爆資料館を尋ねたのは、私は今年が三度目でした。最初尋ねた時は涙があふれて、暫く出て来られませんでした。今年もあの時の感動がそのままよみがえり、再びこの悲惨な戦争を繰返してはならないと心に誓いました。旅を楽しむ第三は、事後の整理をよくしておくことです。尋ねた順番に写真をアルバムにはっていく時は、再び訪れる思いがして楽しいものです。私が尋ねた大原の里はすばらしい紅葉でした。建礼門院が佛門に入り、壇の浦で散った平家一門の冥福を祈った頃は、遠い山奥だったに違いありません。もう一度静かな時に一人で尋ねてみたい。『平家物語』・『源平盛衰記』などゆっくり読んでみたいと思いました。諸君もそれぞれ見学した場所をもう一度ゆっくり見たいと思つた事でしょう。今は忙しいと思えますので、大学に入ってから、社会人になってから尋ねてみて下さい。その時はこの修学旅行が美しい思い出となってよみがえってくださると思います。最後にこの修学旅行の計画を一学年次よりすすめてこられた先生方ならびに生徒旅行委員の皆さんの労をねぎらい、深く感謝いたします。

修学旅行を終えて

修学旅行団長(学校長)

大木 義男

クラスのページ

1 <み

..... 2

2 <み

..... 17

Teacher's space

..... 野沢 武雄

..... 32

3 <み

..... 33

4 <み

..... 49

Teacher's space
Teacher's space

..... 猪瀬 洋一
..... 吉澤 順子

..... 65

5 <み

..... 67

6 <み

..... 83

Teacher's space

..... 渡辺 文弥

..... 99

7 <み

..... 101

8 <み

..... 117

Teacher's space

..... 佐藤 昭子

..... 133

9 <み

..... 135

10 <み

..... 151

Teacher's space
Teacher's space
Teacher's space

..... 星 睦夫
..... 深澤 千代子
..... 福島 千代子

..... 167

不参加者のページ

Teacher's space

..... 岡島 正幸

..... 179

Teacher's space

..... 宗村 武雄

..... 179

修学旅行旅程表

『語ろう平和 ふれあい京都』

旅行委員会発行

..... 182

編集後記

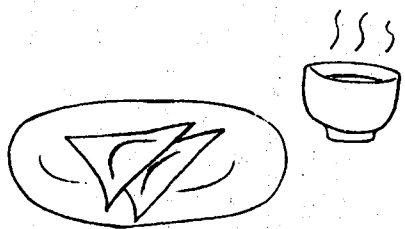
..... 原 千雪

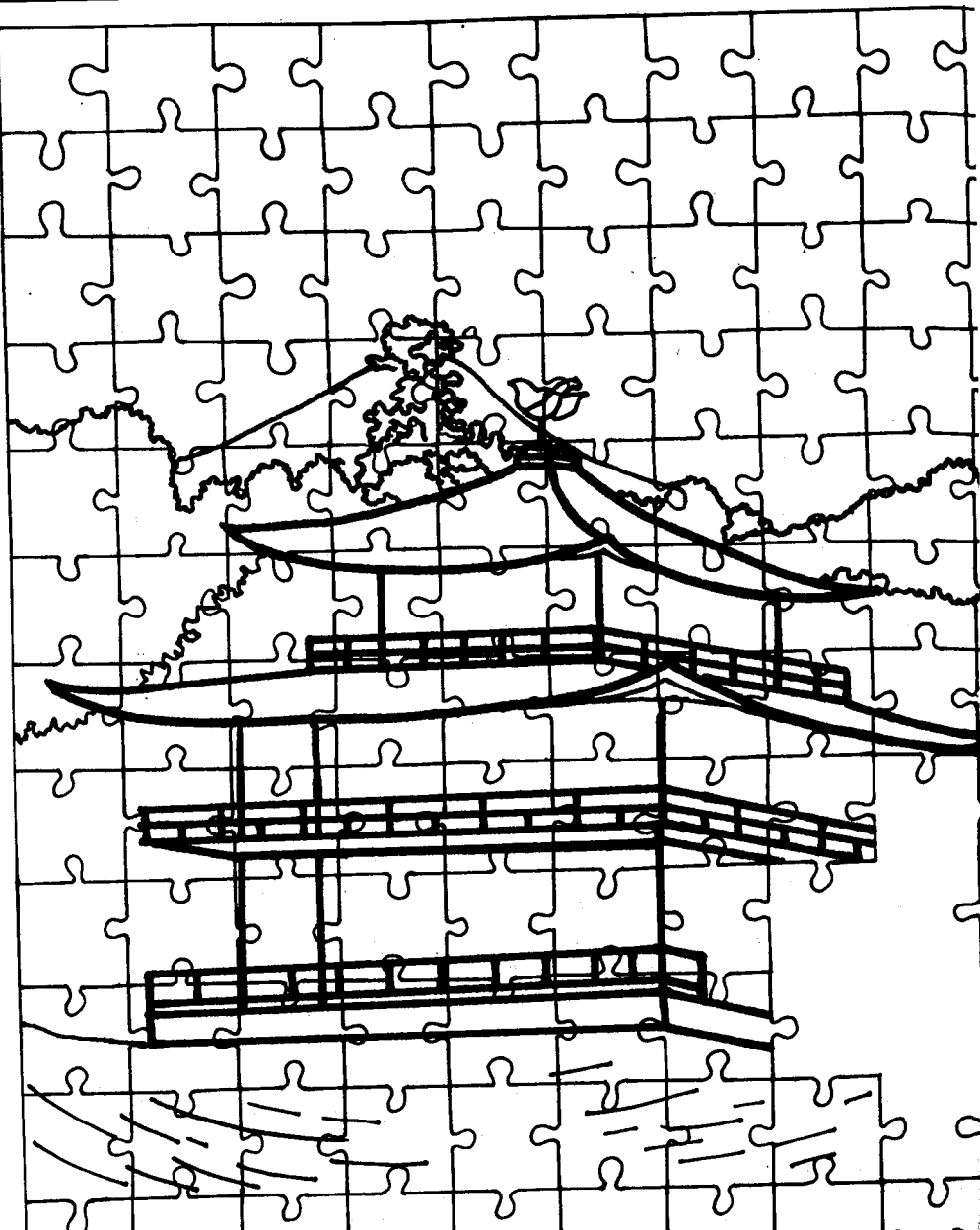
..... 186

すてぜりふ

.....

..... 186





2年1組

班の感想

のコーナーだよ!

★ 一班

我々男子三人は、一日目の班行動で昨晚「大人になる計画」が失敗してしまつたため今晚こそと思い、その計画を練り直しながら見学したので印象に残つたことは全くない。ところで「大人になる計画」とは、修学旅行生男子のだれもが考える、夜の危険な遊びである。この計画は女子の協力がとても重要であり、我々がいくら張り切っても実現は困難である。もし、女子の協力がなく、一方的に強行した場合、大きな問題となるであろう。ちなみにこの日は金閣寺と大徳寺を見学した。

二日目は宇治と奈良へ行つた。まずは、宇治の平等院へ…。京都駅から乗った奈良線は、汚くてうるさい。付近の住民がかわいそうだとつくづく思った。

平等院は、庭がきれいだった。あとはとぼして……。帰りに、名物である宇治茶を買つた。一人の金銭感覚のない少女が百五十グラム三千八百円もするお茶を真つ先に買いました。これを、俗に衝動買いという。それに気遅れした少女約二名は、帰りぎわにひんしゅくを買いながら、百五十グラム千五百円のお茶を買つた。そのお店にいた若い娘さんが、男子約一名を気に入らしく、突然お茶の説明をはじめた。横目で見ている男子約二名、あく楽しい

楽しい。お茶も飲んだし、お菓子も食べたし、さあ、奈良へ行こう。次の唐招提寺には駅からタクシーを使って行つた。途中から雨が降ってきて何となく空がどんより。うう。

着いてからすぐ写真をとって少し見学して出ると、もう少しお屋を過ぎていて、それから近くのレストラン（と書いてあったけどお食事処のふんいきだった）に入って食事をした。少女約一名の天ぷらうどんの中になんと虫が入っていて彼女の顔は思わすひきつた。可哀相な彼女……。それから、時間が残り少なくなつたので、当初予定していた法隆寺は行かないことに決め、薬師寺に行つた。着くと、同じクラスの他のグループもちょうど来ていて、そのグループの女子と共に写真をとつた。できたその写真には約一名うしろを向いている少女が……。その後、我々一班女子四名は三百円のお抹茶を飲んだ。ぜひ飲みたいと思つていたので大満足だった。（翌日飲んだ天龍寺のお抹茶よりおいしかった。）

一方我々男子は、旅館内である臭いを消すためと言つて線香を求めさまよい歩いてた。しかし一時間以上歩いたあげく、八千円以下のそれは全く見あたらなかったのであきらめた。そして我々は薬師寺を後にし、帰る途中の酒屋で飲み物を買つた。（これは後に風呂で飲んだ。やはり先生の目のとどかぬ所で飲むのは最高だった。）そのせいかその夜は三人ともよく寝た。

この修学旅行で我々は、やりたいことを全てやった。だが一つ、やり残したことがあつた。それは『女遊び』だった。これは一生悔いに残るであろう。我々三人はまた目的を達成できなかったが、我々はこの試練に耐え、目的を達成するため努力しようと思つたのであつた。

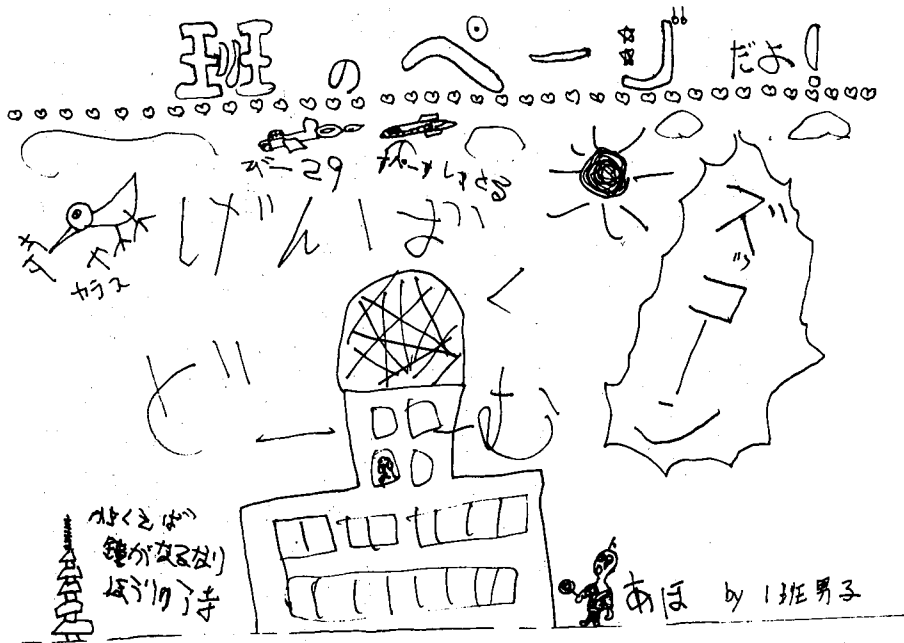
★ 二班

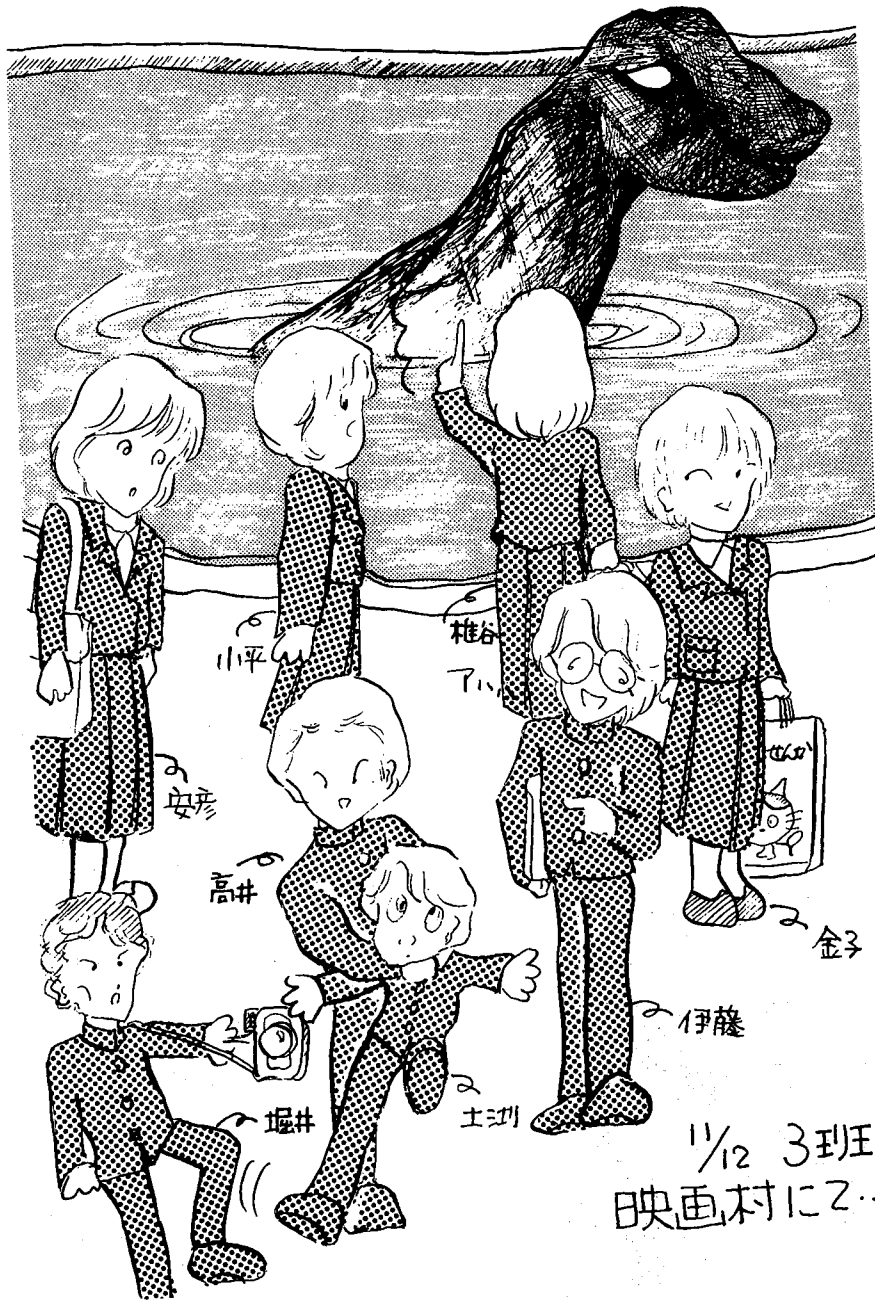
(岩永) 修学旅行で楽しかったことはやはり、グループ見学でした。伏見桃山城では、時計とにらめっこしながらバスを待ち、5分遅れたため見事、電車を逃し、奈良公園では着いたとたんに空から雨が降ってきたり。また、隣の駅まで虹を見ながら田舎道をてくてく歩いたりもした。いろいろな事があつた。また行きたい。

(海野) 修学旅行第一日目の広島、この地を日本人として生まれた限り、一度は踏むべきだと思う。なにかも破壊されてしまつた広島。それに対して何年もの年月を経て今に至る京都・奈良の寺々、時の流れの中に消えていった何人も人が、私と同じ様にこの寺を見たのかと思うと、不思議な気がした。

何といつても、嵯峨野がよかった。中学の時にも行ったことがあつたので、あまり行きたいとは思っていなかったけど、あの頃とは、全く違つた感じだった。秋の京都の落ちついた雰囲気と、中学の思い出が混じつて、なんとなく、しみじみとしてしまった。ああ修学旅行、もう一回行きたいよお!

(森野) 印象に残つたことは、北野天満宮で一生懸命に走つたこと?。唐招提寺からの帰り道、雨上がりの空にうすらと、虹が出ていたこと。それから、清水寺に行ったのに、音羽の滝にたどりつけなくて、歩き回つたこと。でも木々に囲まれた静かな道は気持ちよかつたこと。その他いろいろです。





11/12 3班
映画村に2...

(沢田) 印象に残ったことは、広島では、原爆ドームと相生橋
京都では、念願の伏見桃山城。奈良では唐招提寺に行
った帰りに見た古墳、そして班行動ができた事、夜に新京極、京都
タワーに行けた事、夜にクラスでやったカラオケ大会に部屋でやっ
たトランプだった。修学旅行って本当にいいものですね。

(堀池) 四日なんてすぐたっしてしまっった。広島もよかつたけれ
ど、京都は何度行ってもいい。特に今回は嵯峨野を歩
けたし、北野天満宮にも行けたし、思い出もいろいろできたし、修
学旅行って本当によかつたなと感じられた充実した旅行だった。で
も何といっても家にいるのが一番おちついていられるのは人間の真
理かな。

(松井) わずか4日間の修学旅行だったけど、とても充実した
ものになった。2度目の京都でいろいろと落ち着いて
見学ができた。中でも班行動で行った三十三間堂、伏見桃山城は印
象的でいい思い出になったと思う。また行ってみたいと思えるよう
なすばらしい所だった。

(小森) 修学旅行、短い期間だったけど、とても充実してい
ても楽しい時だった。また見学地すべてが印象的だ
ったが、中でも、広島は平和公園、美しい伏見桃山城、木々が紅葉
した清水寺は特によかつた。またいつか、京都を訪れる機会があっ
たら、今度は、京都のすべてを見て回りたい。



by 2班

★三班

たとえば修学旅行というと、なんとなく堅苦しい響きを想像するが、私たちの修学旅行は自由時間が多かったせい、リラックスした気分が京都を訪れることができました。

一番印象に残ったのは、七条から三条まで乗った京阪電車で、なんとこの電車、バスみたいな補助席がついていたのです。あまりにもめずらしかったので、席があいていたにもかかわらず、私たちのほとんどは補助席に座ってしまいました……なまじい。

二番目に印象に残ったのは、映画村の近くのバス停でにわか雨に降られたことです。映画村を見終って、ほっと一息ついた時に降られたので、フイをつかれたという感じでした。でも、さすがに、朝から天気がよくなかったせい、みんな傘を持ってきていたようです。すぐにやんで晴れたのですが、すごく多量に降ったので、ちょっとでも傘をさし遅れると、制服がびちゃりというあり様でした。三番目に印象に残ったのは、金閣寺の紅葉です。金閣寺に太陽があたって光り輝き、その上にもみじの紅……。美しさを表現する言葉はたくさんあるけれど、言葉にできないほどの美しさであるものなんです。

四番目に印象に残ったのは、映画村です。江戸時代のオープンセットはテレビでおなじみで、親しみを感じてしまうのです。そうそう、私達のクラスではやった風車は私たちの班員のひとりが映画村で買ったことが原因みたいですね。

★四班

我々四班の修学旅行を語るのならば、あまりにもいそがしすぎた京都での半日行動について述べなくてはならないだろう。

まず、我々の計画を紹介しよう。京都駅―清水寺―平安神宮―二条城―大徳寺―旅館「銀閣」と、半日にしては、あまりに盛りだくさんなスケジュールであるのだが我々は、この無謀とも言える計画にあえて挑戦した。なぜならば、当時の我々には、この程度の日程なら、こなすことができるだけの若さと勇気があったからである。

我々の出発は、走ることから始まった。我々は、「銀閣」を出発するとき、すでに遅れをとっていたのである。我々は、駅のバスターミナルを目指して走り走った。階段を駆け降り、さくを飛び越え、スパーマンの如き体力をもってバスに飛び乗ったのである。だが、我々にはバスが発車した後、一つの疑問が生じた「はたしてこのバスは、清水寺に行くのだろうか？」

我々の疑問は、バスが清水道に停車したときに消失したが、そこから清水寺までは、長い長い道なのであった。我々は、拝観料百円を支払い、そして、形ばかりの記念撮影をして、寺を去ることにした。

清水寺を離れて、しばらくは静かな道を歩いていたのだが、我々は、再び急がなければならなくなった。このままでは、平安神宮を見ることはできないのである。もともとデタラメに作った計画なの

五番目に印象に残ったのは、三十三間堂です。広い堂内はお線香の香りがただよい、静寂を保っていました。そして、通し矢をやる場所を見ていたら、いったいどのようにして矢をはなつのか見てみたくなりました。

六番目に印象に残ったのは、新京極です。新京極はまるで浅草仲見世のようでした。いろいろな地方の人がおみやげを見ているのです。もしかしたら埼玉県人もいたのでは……。

思い出はいっぱいありすぎて言葉に表現できないけれど、青春時代のよき思い出としていつまでも心の中に残ることでしよう。



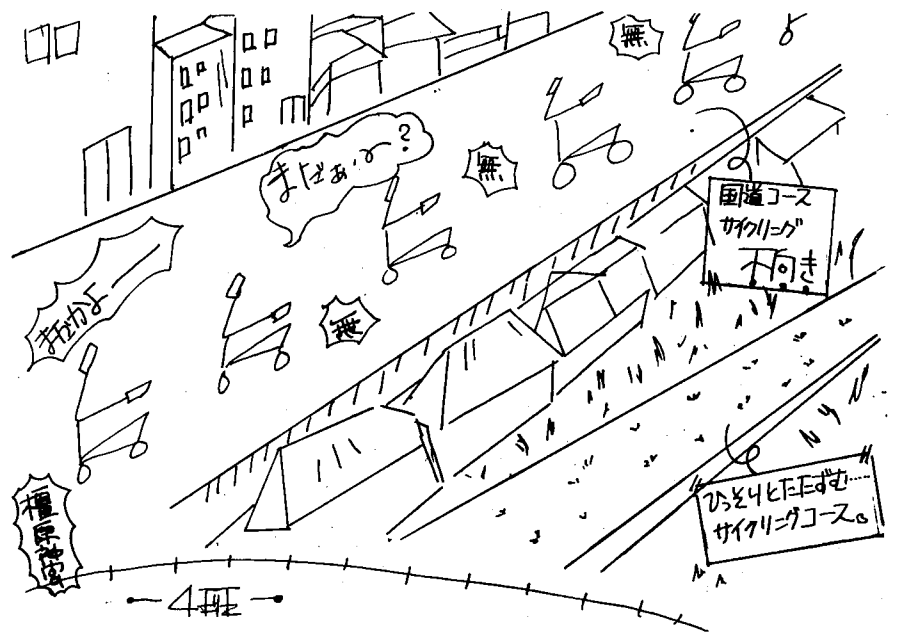
だが、いざ、その立場になると、どうしてよいかわからなくなってしまふのである。しかし、我々は、「平安神宮を省略してしまおう」という画期的なアイデアを採用し、二条城までタクシーをとばすことになったのである。

二条城での見学も前途多難なところがあった。清水寺での遅れがあまりに大きすぎたこともあり、まだまだ遅れていた。予定のバスに乗るため、多少時間に制限がついてしまったのだが、それでも、我々は、二条城を全部見るつもりでいた。しかし、外国人観光客とのかたこと英会話のせいもある、結局バスには乗れず、ここでもタクシーという物の存在を、神に感謝しなければならなかったのである。

我々の半日自由行動も、いよいよ大詰めを迎え、若さと勇気にあふれる我々にも、微かながら疲れが見えはじめていた。だが、その疲れも、大徳寺に到着すると同時に、消えていったのである。それは、「あぶりもち」のためである。「あぶりもち」とは、その名のとおり、あぶったもちであるが(全然、説明になっていない)、なかなかいけるのである。しかも、一皿三百円也とお徳なお値段なので、筆者も、機会があれば、是非もう一度と、思っているのである。

我々、四班の京都見学は、これで終わりである。時間にして、四時間余りであるが、何と忙しかったことであろう。京都を駆けずり回るのは、実に疲れると、班員一同、せつにせつに、申し上げる次第であります。

★五班



(嶋田) 修学旅行でいろいろなものを得たと思う。自分は京都より西は生まれて一度もいったことがなかったのでもううれしかった。姫路城や山や川などを見られてとても満足している。他にもいろいろな思い出がある。これらの思い出を大切に心の奥にしまってこれから何事にもがんばっていききたい。

(永池) 広島は、以前からとても行きたかった所なので広島に着いた時は、とてもうれしかった。特に平和公園はとてもよい所だった。資料館を見ると思わず目をそむけてしまうような写真などがたくさんあった。今の時代に生きている自分達には想像のつかないような光景ばかりであった。しかし、広島の人々はそのような状態から、今の広島までにしてきたのである。広島は、一生に一度は必ず行かなくてはならない場所だと思った。

(萩原) 全体的に物足りないものだった。しかし、唯一話題になった物がある。旅館「立花」である。本当に来たなかった。部屋の中は暗くて、ゴミ箱もなく、本当にお化けの出てきそうな所だった。風呂も小さく、みんなで入れなかったのが残念だった。一晩だけだったのが救いだった。それにしても燃えられない旅行だった。期待が大きすぎたのかも知れない。

(池田) 何と言っても短かった。あつという間に三泊四日は過ぎていった。自由行動の時間も時計の針ばかり気にしていた。せっかく名所に行ったのに、充分楽しめなかった。私達

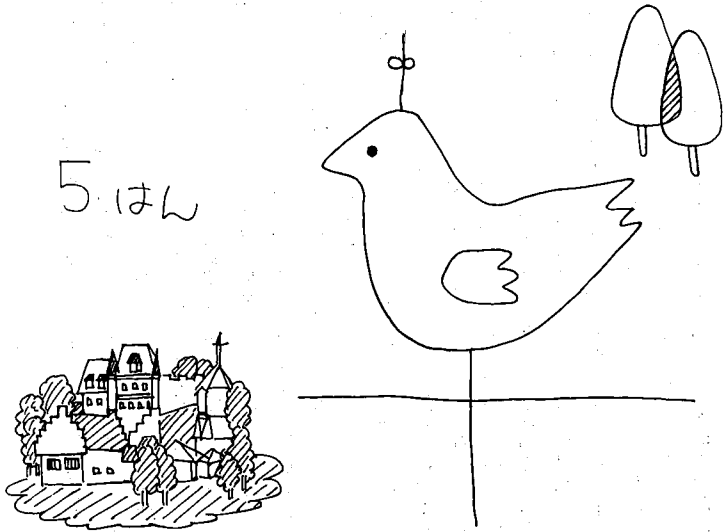
の班は神戸に行った。ポートアイランド、異人館、三ノ宮などへ行ってきたけど、とても、とても良かった。もう少しここにいたいと思うような所ばかりだったので、また一人で行って、ゆっくり見回りた。

(保田) 三泊したけれど、一泊めの広島での夜が一番楽しかったです。けどちょっと旅館に不満ありノだってゴミ箱はないし、おフロは狭くてもうほとんどパニックだったし、電気は暗いし、洋服ダンスの底は抜けてるし、壁は崩れ落ちてくるし……でも、そんな旅館「立花」での夜が一番楽しかったんですヨネ。

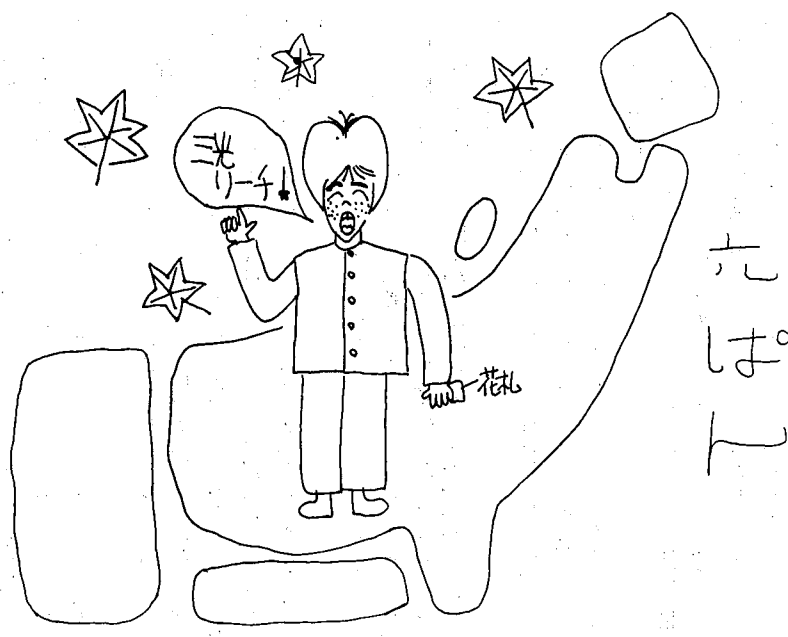
(堀川) 三泊四日はとても短く「あつ」という間だった。京都の紅葉はとても趣があった。初めて行った神戸はめずらしい物だらけだった。それにしても「旅館立花」は最高だった。お風呂は大きいし、ご飯はおいしいし、壁は崩れてこないし……。また行きたい。

(矢口) あつという間に三泊四日の修学旅行は、終わった。覚えていることは、夜、ほかの人の部屋に侵入して先生にみつかったこと、新京極の電気風呂などである。まあ、それにしても有意義に過ごすことができたと思う。

ぼくたちは、神戸へ行った。京都・奈良とは違って、異国情緒があふれていた。そこにいると自然にメルヘンチックになってしまうほど素敵なおとろけであった。将来、恋人ができたら、一緒に行ってみたいなあーなんてくだらないことを考えているのでR。



★六班



たはし

植物園の入口に通じる道は、落葉のジュータンが敷きつめられていた。そんな秋を思わせる道を通りぬけ植物園に入ると、華やかなピンク色の花が目についた。そこだけ春のようだった。ここ植物園では、噴水（S君いわくシャワー）の前で写真を撮った。

六角堂の思い出といえば、記念撮影だと思ふ。縁結びの立て札を3人で押んでいるもの、一人勇ましい姿で写っているものなど、作なものばかりである。どれもその人の個性がよく出ていると思う。疲れていたせいかエサを食べているハトを見て「なぜ首の骨が折れないのか。」と変な事を言った人もいた。

西本願寺に入るとなにもなかった。あったのは、菊だけだった。寺に入ると中には、誰れもなく静かだった。思わず倒立をしようとしたがやめた。周りを見るとオルガンがあった。何に使われるのだろうか？ この誰もいない中に一つオルガンがあるのは、異様な気がした。映画村の中に入ると、下は土で、今私達の周りの道は全てコンクリートというのとは全く違ってよかったです。あちこちにセットの家々が並び屋号などが出ていました。でも家々の中は暗くて雑然としていてあまりきれいではありませんでした。牢屋などもあり、そこで写真を撮った人もいました。とても自然だったとか、大きな岩を一人でもちあげた人や、弓矢を真下に放った人もいました。けれど、役者の人（？）とも一緒に写真も撮ったし楽しい一時でした。

二条城の中には、うぐいす張りの廊下がある。この廊下は、その名の通り、歩くとうぐいすが鳴くような音がするのだ。あの仕組みにはおどろいた。板一枚一枚にピストンがくっついているのだ。今からだいたい古い時代なのだから、やはり、手作りなのだろう。よくあのような細かい所まで手を加えたものである。あの城を造った人々は、歩けなかったかもしれないが、城の中にいた人々は、心地よく歩けたことだろう。

清水寺には、とにかく外人が多かった。さすが国際的な観光地だなあとあらためて清水寺を見直した。とく名希のS君の国際交流にも笑ったが特に城壁にへばりついていていた変質者にもおどろいた。うわさによると清水寺の舞台には、あと数年でのれなくなるそう、で、一步一步感動をかみしめながら清水寺をあとにした。

修学旅行全体を通してよかったことは、のんびりとまわれたことである。歩くことが多く、それもあまり時間に追われることがなく見学できた。計画をたてた当初は、京都近郊ばかりでありあきるのでないかと思ったが、充分に秋の京都を満喫できた。また時間に余裕があったということで写真がかなり撮れた。それがなかなかのユモラスで楽しかった。グループには、まとまりがあつて和やかなムードで見学できてよかつたと思う。



ひろしま

クラスのみんなが、書いた広島の記事を紹介しよう。この企画を進行するうえで、何人もの人の力が働いた。その人達にお礼を申し上げる次第です。Many thanks.

松井俊哉

広島についてのことは幼ない頃から原爆のことで教えられてきていてある程度その時の惨事についても知っていた。

今の広島の前並みからでは三十年前にそんなことがあったことなどは知るよしもない。講演では被爆者自身の話で、その状況は細かく知ることができた。その場ですぐ死んでしまった者もいれば、わけも分からずただけを負ってとまどいさまよう。これほどまでに多くの人を死に追いやらなければ戦争は終わらなかったのだろうか。広島と長崎に落とされた原爆はこの世に人間が生まれてから今までのうちで最も大きな過ちだったろう。その時に即死してしまっただけの人はまだいいかもしれない。今まで原爆の暗い影を背負いながら生きていく人は世間から被爆者だと差別を受け、いつ白血病に襲われるか分からず不安の毎日でも思い出すことだろう。

たとえどんな人間であっても他人の命をうばう権利はない。そして戦争に結末をつけるために、二発の爆弾が落とされた。このことはただの戦争で死んだ人の墓標でしかなかったかのように、今ではあ

小池純子

今まで広島に行ったことのない私にとって今回の修学旅行の広島での体験は大きなものだった。語り部での話は、確かに原爆の恐怖を感じさせたが、リアル感がなかった。しかし、平和公園の資料館では、原爆・戦争の恐ろしさをまざまざと見せつけられた。まさに、「百聞は一見にしかず」である。中には、思わず目をそむけてしまふものもあった。特に当時の写真は、原爆の恐怖というより、悲惨さを物語っている。いや訴えていると思う。そして、それ以上に原爆ドームは、悲しみと憎しみの入り混ざった物で包まれているような気がした。広島に知った人がいるわけではない私には、広島をおとずれるのは、これが最初で最後になるかもしれない。一生に一度あるかないかでは大きく違ったと思われするような貴重な体験であった。

戸井永 八重子

広島へ行ったのは初めてでした。駅から離れたとき、あたりを見まわしました。そのとき思ったことは、親しみやまけて、人情深そうだということです。チンチン電車がとてかわいらしく思えました。原爆については、小学校の時から先生に話を聞かされているので、悲惨さは、よくわかっているつもりでした。が、語り部での話

らゆる国が核を持ち、軍隊を持ってその力を争っている。世界中の人が平和公園に行って資料館に入ったら、今のようにならぬように軍拡一途ではなくなるだろう。この被爆国の日本でさえ核のおそろしさについて充分知っている人は少ない。しかし現状ではこれだけ核が増えてしまつてもどうにも手のつけようがないようにも思われる。一発の核が落とされれば、後は誘発的に落とされて人類は滅亡してしまうことだろう。もう落とされてしまったものは仕方ないので、これからどれだけ良い方向に向かうか、過ちをくり返さないかということが大切で、そのきっかけとなるのは広島と長崎の他にはない。これからの平和は世界中でどれだけ危機を感じ、今の平和を実感するかどうか。

土淵 守

広島へ着いてすぐに、平和公園を訪れたのだが、事前授業もあって、そんなに驚きはなかった。それに、「平和」という文字が至る所にあり、なにかおしつけがましくも感じた。それに、「広島へきた」という感じがせず、「修学旅行」という感じではなかった。

平和公園は、見るだけで、そんなにもしろくはなかったが、広島の前、校長先生が、「修学旅行をとりやめにしていく学校が増えてきた」とおっしゃっていたが、なぜそんな無意味なことするのか

をきいているとき思わずゾッとしてしまいました。温度が一万度にもなったなんて、想像を絶するどころか、思いがけぬ高温でした。きのう私はオープンで小さいけれど、やけどをしました。そのオープンは一八〇度でしたが、とても熱かったです。資料館では、まともに目を向けることができませんでした。今考えると、亡くなった方に、失礼なことをしてしまつたと後悔します。でも、「百聞は一見に如ず」という言葉に始めて出会つたような気がします。

人間の手で原爆を作つたのなら、人間の手で、原爆をなくすることができるとは思いません。平和はともすればらしいことだとあらためて実感しました。

永池陽一

広島は、ここ数年間で一番行ってみたいところであった。なぜなら、12歳頃に長崎の原爆資料館を見たことよって、ある程度、戦争の恐ろしさ、原爆の恐ろしさがわかると、実際に原爆を受けて、今なお残っている広島の前で見たときから、ただでさだから今回、修学旅行で広島に行くときまたときから、ただでさえ、待ち遠しい修学旅行がよけい待ち遠しいものになつてしまつた。広島の前で初めて思ったことはやはり、「ここに原爆が落とされたのか」ということであつた。それだけ見ただけでは、決してわからないくらい、どこにもあるような都市になつていた。しかし、講演を聞いてもわかつたが、原爆を受けた人々の心には、決してな

眼の力が弱く
目がぼやけてる!!

"心身一致"
(M.T)
行くと見れば
古瀬の秋

奈良駅前
山登り
おいらららら
おいららららららららら

春は心に
大いにか
一歩

アージュン一筋16年よろしく。
(M.T)

立花のおふくはとせ ○○○○だいたい(K.K.23)
新京極の電気風呂はとせ かいかん だ。 (T.Y.23)

気分は東京
by 2022...

We want to be adult soon.
(我が1班33同)

発見!! 我が奈良の秘境に古都の秋とみに。

玉砂利を昔をのびて一歩踏み
by?

痛手-ガン 痛手-ガン 痛手
痛手-パノドロー フォアハンドして
痛手のアクトバス-は回転式で
奈良の街。なぐでやりたいスモーク

4/27- 風呂? ALFA Japanese
杉戸町民
謎の
おはさん。ありがとう。
(M.T)

70しん、74、70しかん

宿せん

「瑞玉のおいさん。はよう起き〜」と言われたのはおぼろげです。
ハナコセ-後二年が経た!

映画村にいた新探組のころは
ハンサムなお兄さま。もう一度
お会いしたい
(Reio)
京都 2023.9.30

立花 立花
何をしたいの? by H.S

めいけんしゅう

京都にはもうしんが
行きたい
たいていワキスもえい
by 74.

名言集

ハナコセ-後二年が経た!
真由にばさる教育がたて!
by 74.
ハナコセ
ハナコセ

立花の口- (N)
立花サイコー (Y.I.)
立花サイコー (F.K.)
立花サイコー (M.H.)
抱いて行きたい

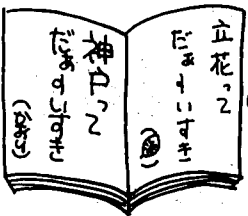
大坂屋
大坂屋
城壁のそば (S.S)

左門殿しお〜よ
別よばらたかひらびら
立花の2
立花の2
立花の2
立花の2

もう春行来
秋の季節は
モチモチ
歩きにたかた...
(Mon) 2/10-2/10 テスロ強

Spring... Spring...
春の季節に...
BY 23.2.23

春はもうすぐ...
来日したつな
by 23.4.10
6月1日 修学旅行へ行きたい!
3年生に1日1日CT (K.A.1)



茨城のあんちゃん写真送る?

ハナコセ-後二年が経た!
真由にばさる教育がたて!
by 74.

秋は秋
心は真冬 (17) by 42

秋の香りが...
おはさん...
(E)



編集後記

発行 2年1組
編集 (I am the Editor)
矢口輝明
高橋ひびき
岩松みどり

期末テストもあきらめて、この文集に
すべてをかけたのでR。ギョウだせーと
言いたくなる。残ったのは「疲れ」と「ヒトツタ
のテスト用紙」だけだった。バカヤロー(編集長)

2月14日 3月
苦労話なんかを思い出
書きたんだけ
なんでもつたわ ねえ
なんでも書かないでね。
これは知編集長に
のちがひをありがとう
知編集長に感謝!

We are Night Ranger

うぐ

何かはねえ自分か
編集長に成程か悪かEALF
なせに? うが?
T. Itat

おはよう

小森正実
篠原文彦

I am the Editor (20の文集のラストページは ほとんどの場合)

矢口編集長 さんごさまでした。
何にもやらない子で、アメンナカ
みんなの矢口編集長に
「おつかひさま」をうりました。

名言集

— 一班 —

アルバムで 自分を探す カメラマン
みんなで楽しく襲撃だ

すきやきに砂糖を入れたのは俺だ でも尚が悪い

すきやきでなぜだかのこる タマネギの山

おしょう油とおそすが意味不明

京都にて寄り道したいが計画表

京人形 首折りそうで宅急便

— 二班 —

枕なげ 夜も休めぬ生き地獄

— 三班 —

先生の足音聞こえ電気消す

紅葉に気とられる龍安寺

ちくしょ。修学旅行が終わっちゃったよ

風呂場で転んだ傷が痛い

京都の夜 広島と比べりゃ月とすっぱん

— 四班 —

修学旅行 帰った教室うんちだらけ

人の心を傷つけることをした奴はゆるせないし
自分もしたくない

トラの子は迷い迷いて天竜寺

菊池 晴也

山本 尚

村田 泰一

山本 博

秋山 恭彦

山崎 忠信

吉田 勝彦

高柳 誓之

野村 毅彦

石井 隆

神崎 康敏

小田切希芳

伊藤 幸雄

角 浩二

濱中 美樹

斉藤 正也

ホテル銀閣のおばさんぼくも少し悪かったけど
あそこまでメタクソ言うことはないでしょ。

広島の旅館のおじさん枕を切ってゴメンなさい。
広島の旅館のおばさんご飯を盛ってくれて
ありがとう。なにげない感動が大切です。

金閣の池におちいるもみじの葉

嵐山 まわりの山々紅葉かな

高山 謙二

大竹 卓也

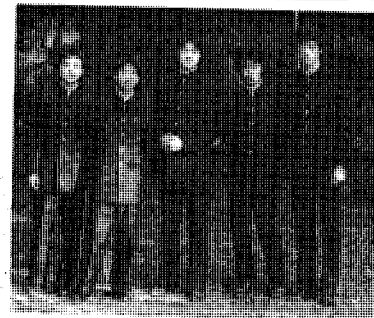
佐藤 圭司

蓮見 博文

1 班



2 班



嵐山のバス停のまわりのことなら僕に聞いて
下さい。3時間も見てまわりましたからね。
ねっ、村上くん。

僕が悪いんです。ウッソ

そのとーり。

トラノ青春をかえせノ

いやーたのしかったです。

みんな行けたらもっとよかったです。

守屋 英貴

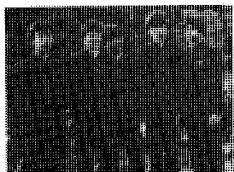
村上 政幸

吉田 竹伸

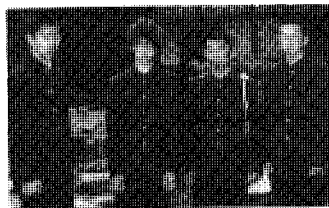
長谷川桂一

穂積 康範

3 班



4 班



— 五班 —

飛鳥へと行くのは明日か 待ちどろしい
飛鳥寺のくそ坊主 たのみもしねーのに
つまねー話しやがって このタコ

本家八ッ橋は最高ノ

銀閣のメシのまずさは超一流

NO MORE ASUKADERA

飛鳥路の風の首にも古き声

人人人 一乙 清水寺

腹へって 昼飯食った坂乃茶屋
レンズが割れた 雨の岡寺

修学旅行 宿の飯では京を味わえず

飛鳥路や ちりゆく紅葉秋風に

行田 和博

石黒 茂樹

田村 好伸

青木 繁治

小島 英夫

戸田 敏貴

岸岡 伸和

川端 文博

細野 博志

大野 哲史

— 六班 —

広島ってきたない街だなあ。
富士山きれいだった。

追撃ノ トラブル ドーム

人間辛抱だ!!

それは、修学旅行、ただひたすら眠い

石塚 長武

小川 和夫

小川 泰弘

島田 毅昭

松嶋 由雅

5 班



6 班



工場で働いていたという女学生の母にあてた手紙を見た時、ああ
本当に自分達と同じ年代の人も苦しんだのだなあと思った。「私も
とうとう十七才になってしまった。お母様は元気でいらっしやいま
すか。この間妹が会いに来てくれてうれしい……。」という文だと覚
えている。

— 山崎 忠信

原爆ドームが意外に小さかったのにはおどろいた。ケロイドの写
真には胸をうたれた。

— 吉田 勝彦

平和な日本に生まれ育った私達にできることは、原爆記念日のと
きだけ、かわいそうだと思うのではなく常に戦争の恐ろしさを頭の中
にえがいておかなければならないと思う。まして核兵器を競い合っ
て造っている国がある今ではよけいそうだと思う。

— 大竹 卓也

僕は資料館を見てもそんなに驚かなかったし、被爆した人々がか
わいそうだと思うより、自分がそうならやだなあと少し冷た
いがそう思ってしまった。

— 野村 毅彦

もう二度とこの立派な街をこんな姿にしてほしくない。米やソ連
も戦争だけはしないほしい。何故か日本語で広島と発音すると何
ってことないのだが、英語で HIROSHIMA と発音すると怖い
ようになってしまった。

— 神崎 康敏

資料館を出るとあたりはうす暗くなっていて、ビルの灯とネオン

広島

今までは核を落としたアメリカを憎む気持ちがとても強かった。し
かし真珠湾攻撃などをした罪は重いということと、やられたのは自
分たちだけでないと知った今、アメリカだけを憎むわけにはいかな
い。自分達の責任だ。天に向かつてつばをはいたのと同じことだと
思う。我々は被爆国の国民として永遠に平和を訴えていかなければ
いけないと思う。

— 菊池 晴也

はっきり言ってとてもこの世のものとは思えないような悲惨なも
のだった。死んだ人はまだいい。原爆で生き残った人たちはあのあ
とどういう気持で生きていたのだろう……。

— 山本 尚

広島は三十数年たって大きく立ち直った。でも人々の心の中には
大きな爪跡を残しているのである。戦争を二度とくり返さぬように
努力しなければならぬと思う。まだ早いかもしれないが次の世代
の人々に地球の大地を残してやりたいと思う。

— 村田 泰一

何よりも印象に残っている物は八時十五分で止まっている時計だ。
悪夢ともいふべき時計が今でも憎しみと悲しみを含んだまま残され
ているのだ。

— 秋山 恭彦

がやけに目立った。三十数年前にもし僕があの場合に生まれ育ってあ
の原爆をうけていたら……。

——伊藤 幸雄

原爆の恐さをまざまざと見せられて、今、この時代がこわくなっ
た。それにこの現実に対して具体的に自分がなにをすべきかほとん
どわからなかった。しかしこの経験は今後の自分ができる行動にヒン
トを与えてくれると思う。

——村上 政幸

原爆ドームの前で写真を撮影するとき、笑ってにこにこするべき
か否か、少しの間迷ったが、みんな同じ気持ちらしく手を合わせた。
やっぱり人間なんだなあって思った。

——穂積 康範

原爆の悲惨さを見て、すごいと思ったが、自分のことじゃないか
ら関係ないなどと人間らしからぬ態度であったが、今になって、悲
しい、かわいそうという気持が生まれてきた。

——長谷川桂一

二度と同じことが起こらぬようにするとともに、今も原爆におか
されて苦しんでいる人達が幸せに暮らせるようにと思う。

——斉藤 正也

広島市の平和公園がとても綺麗だったがこの場所であの悲惨な光景
が、と思うとあの青い空が緑の木もそのように見えてきた。自分
の身にもいつ同じ様な事がふりかかってくるかわからない。誰かを
悲しませる戦いは極力さけるべきであり、また自分たちの心にも刻
み込むべきである。

——浜中 美樹

広島——四つの顔——

——杉嶋 由雅

私達のクラス二年二組の乗ったバスが平和公園の駐車場に入って
行った時、正面に原爆資料館の建物が見えた。私は、遂に来たのだ
と思うとますます暗鬱な気分になってきた。まだ原爆資料館に入る
まで一時間程あったので、私は原爆ドームの方へ平和公園を横切っ
て歩き始めた。見るもの全てが不思議な落ち着きを持っていた。全
て静かで美しく、おだやかな輝きを持っていた。時々笑い声が聞こ
え、次第に私の心もなごんできた。——平和とはこういうことを言
うのだろうか？——私はそう思った。しばらく歩いているうちに原
爆ドームが見えた。それは、絵に書いた家のように、平面的に見え
る、四面のうちほとんど一面しか残っていないような建物だった。
私はしばらくそれを眺めた後、被爆者の慰霊塔らしきものを見に行
った。その慰霊塔のまわりに、教室の中にいる生徒の浮き彫りと男
女の若者が学徒動員で工場で働かされている姿の浮き彫りがされて
いる石碑が三つほどあった。その石碑に彫ってある人々は全く無表
情だった。私は思った、これを彫った人は表情をつけることができ
なかったのだと。——原爆のつくりだした地獄の悲惨さを思えば、
どんな表情も無意味なものにしてしまう——そう思ったのではない
だろうか。私は思いを巡らし、少しの間、石碑を見ていた。そして、
慰霊塔の前にある、鳥の羽をつけた仏像（おそらく仏像だろう）の
前へまわって、その仏像を少し離れて見た。やはりこの仏像も無表
情だったが、近づいて見ると口もとが微笑んでいた。そして、驚い
たことに、私にはその仏像の目が怒りを表わしているかのように思
えたのだ。私はこの石碑と仏像に三つの広島『顔色』を見ること

広島市の平和公園には世界中のできるだけ多くの人々が一度は行っ
て悲惨さを感じてほしいと思った。

——小川 和夫

今も軍拡は行われています。アメリカやソ連の首脳は核の恐しさ
をしないのでしょうか。日本でも年々軍事がふやされいつ戦争が
起こってもおかしくないのでしょうか。しかし、反核運動なども行わ
れていて核の恐しさを訴える人たちもたくさんいます。もう二度と
こんなことはおこらぬように平和な世界にしたいと思います。

——小川 泰弘

戦争をおこさせないようにするには人類の「良心」にかかってい
るが、人間はしよせん感情を理性でもってねじふせることが困難で
あるためにいつも暴力と隣り合わせに生きている。だから、戦争と
いうものは決して起こしてはいけないものだが、人間がこの世に二
人以上生きている限りなくならないと思う。

——島田 毅昭

綺麗な公園と爆心地。つながらないんですね、イメージが。そし
て相生橋を渡って、原爆ドーム。今思うとすごく残酷な気がします
ね。あんな格好を38年余りもさらしているなんて、それだけじゃな
くて周りがすべて新しいビルでよけいみすばらしさがでてしまうの
も残酷です。原爆ドームに対して、確かに原爆の恐しさを世界中に
知らせようとする考えには反対しませんが、綺麗な公園と哀
しき原爆ドームと新しき建物と爆心地、なんかちがうんですね。ちぐ
はぐに感じるんですね。戦争を知らない私としては……。

——石塚 長武

ができた。平和を象徴する微笑、こんなことを二度と繰り返しては
ならないと戒める怒り、そして、表情をつけても、それを無意味に
してしまうほどの悲惨さゆえの無表情、この三つである。しかし、
広島『顔』はこの三つだけではなかった。恥ずかしいことだが、
原爆資料館に入るまで、もう一つの『顔』を忘れていたのだ。私は
資料館の中の被爆者の写真はほとんど無表情の写真だった。だがど
うだろう、あの顔は、あの体は、あの足は、——そうだ、彼らは自
分を喪失しているために表情がないだけで、苦しくないわけはない
のだ。——そうだ、広島のもう一つの『顔』は『苦しみ』だったのだ。
——そんな思いが急に私の心を突き刺した。私は今思う。『笑い』、
『怒り』、『無表情』、そして『苦しみ』という四つの顔が、広島
の全てであり、広島そのものであると。



修学旅行その他いろいろ

「迷子」

謝ってすむこととは思いませんが、ごめんさい。

十一月十三日、グループ見学二日目僕はこともあろうに迷子になってしまいました。映画村を見学し終り、次の見学地嵐山へ向うため出口の大きなおみやげ売り場を通り抜けようとした時ふと北高生ではない友達に話しかけられ、ほんの二十秒程度話をしただけなのですが、いっしょにいたスナフ（穂積君）らしき人物が十五メートル程度前方に行ってしまう、それでも目ざとく見つけ後ろをくっついて行ったまでは良かったのですが、出口の二、三メートル手前でそれがスナフでないことを知った僕は愕然としました。出口で待つこと十分、だれも来ません。そうかオレのことを探してくれているのかと思った僕は急いではじからはじまで探したのですがだれもいません。場内アナウンスに注意しながら探すこと一時間、遂に最後の手段、旅館に電話をしました。聞きなれた鳥村先生の声、

「あー村上君か。みんなは三時まで嵐山駅で待っている。」
「すぐ行くように。」

信じられない言葉と最も恐れていた言葉、その両方を浴びせられた僕は冷静さを失い全力でバス停まで走っていったのですが、いくらかけ足が速くてもどうにもなりません。バスは二十分以上来ないのです。急いでタクシーをつかまえたのはいいのですが道が混んでい

てちっとも前に進みません。

「早くしてくれませんか。」

と運転手さんに言いました。そのとたんに車がわり込んできて、「アホーノ、どこ見て走ってんのや。」

という怒声。運転手さんとの会話を絶たれた僕はみんなのことが頭に浮かびました。守屋、長谷川が怒っているところに吉田がなだめている様子。浜中もマサも怒っているかな……？とても不安でした。するとバス停に長身の長谷川らしき人物を発見しました。急いでタクシーを降りてバス停に行ったのに長谷川らしき人物はもういませんでした。映画村でスナフを間違えてしまったので自信をなくしてしまい、あれも長谷川じゃないかと思いついた。結局、長谷川本人であった。電車の嵐山駅へ走ったのですが着いたのは嵯峨駅、結局嵐山駅に着いたのが三時五分嵐山駅にはだれもいませんでした。せっかくここまでできたのだから天竜寺だけは見て行こうと思いついた。彼ら（吉田、守屋、長谷川、浜中、角、穂積）はずっと交代でバス停で待っていてくれたそうです。そして、きつと気にしているから何も言わないでおこう、というところだったのですが僕一人天竜寺を見たということ、予想外の僕の明るさにたくさんの皮肉をいただきました。これは今でも続いています。みなさん本当に御迷惑をかけました。

——村上 政幸

今回の修学旅行は大変楽しかったが、一日短かったたので楽しさが半減してしまった。広島はあまりのしくなかったが、京都の二日目にいった大覚寺と、最後の日にいった延暦寺が印象に残っている。

まあ何にしても楽しい修学旅行だった。 ——山本 尚

今回の修学旅行は準備期間が長かったわりには、三泊四日と非常に短かったような気がする。あれだけの準備期間をとるならば、もう一泊ぐらい増やしてもいいのではないだろうか。

それはともかく、グループ行動を増やしたのは良かったと思う。全体で行動するよりも動きやすいし、ある程度個人の意見が取り上げられて計画される。このシステムはこれからも続けた方がよいと思う。初めは男子クラスでの修学旅行なんておもしろくないなあと思っていたが、いざ行ってみると男子だけでも結構楽しい旅行だった。もう、このような機会は一生ないと思うが、ぜひもう一度修学旅行へ行きたいと思う。 ——村田 泰一

今回の修学旅行ではかなりの時間的制限が色濃く示された。それはそれなりの理由があるにせよ説明しないで一方的就寝をおしつけるのは納得し難かった。

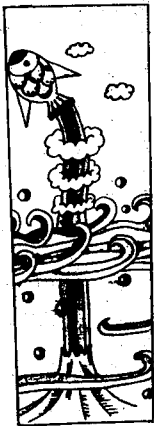
先生によっては、かなり自分の立場のみを考えた行動も見受けられ腹立つ面もしばしばあった。僕達としては、見学や本来の目的とされることは人によって違いはあるものの一通りすませてきたが、何か今一つ物足りないといった気持である。

見学では、それぞれその美しさや、またそうしたものの基本的

な要素としての紅葉の美しさはなかなかのものであった。毎年訪れている嵐山方面には、春、夏、秋と、三シーズン、その季節折々の風情が伝ってくる。また時間的にもかなり余裕のあるものであったので修学旅行としては、かなり歩くことができた。

しかし、土曜であることや修学旅行シーズンであるためか、人があまりにも多くあふれているといった感じであった。本来なら静かなひっそりとした道にも客を乗せたタクシーが、クラクションを鳴らして通って行くのもかなり目についた。やはり歩き以外にその様子を感ずるのは困難であろう。歩いているとたびたび心が洗われるような素直な気持になることさえあるのである。自然との対話をもっと大切にしたらと思ったのである。夜の時間に関する制限には少々不満を残すものの、それなりの修学旅行であったと思う。つまり、計画をたて、それに従って見学する。その中で色々な良さを感じとったために自分としては楽しんだ旅行となったようである。

——高柳 誓之



とうとう修学旅行が終わってしまっただ。今、思い返すと、数多くの楽しかった思い出が次々と浮かび上がってくる。準備期間が長い長いと思っていただけで、当日の四日間なんてほんとあっという間の出来事に思える。部活の早朝ランニングも出発前は、「なんでこんなことしなきゃいけないんだ」と思っていたが今ではとても素敵な思い出である。京都タワーから見た京都の夜景は僕の目に焼きつくぐらいいすばらしかった。とくに京都駅での列車の出入は鉄道模型を見ているようで最高だった。

そんな思い出を筆頭に数々の素晴らしい思い出を一生忘れることはないと思う。

— 吉田 勝彦

広島が最高につまらなかった。お好み焼きを食べたかった。京都の夜もつまらなかった。先生たちのバカみたいな見回りのせいだ。中学のときよりひどい。もっと楽しい修学旅行を期待していたのに……。

— 小田切希芳

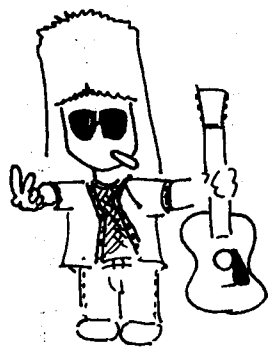
〔広島〕
川越しに原爆ドームを眺むなり
永遠の平和を改めて願ふ

〔飛鳥〕
亀石はぼつんと田んぼに置かれけり
今日も子らとたはむるなり

今回の修学旅行では広島と飛鳥の両方楽しみだったので、わりと行く前からとても期待していた。原爆ドームなんか写真ではなく

一つの閃光がたちまち暗雲に変わり透きとおる大空を隠した
地上では限らない数の人が倒れ体から赤い涙を流していた
その赤い涙は大地に染み込みやがて海底にも染み込んだ
地球を赤い星と思わせるかのようにそれは塗料となって地球を包んだ
人はその廃墟の大地の上に再びコンクリートやアスファルトを積み重ねていった
ああ、しかし、アスファルトやコンクリートは赤くなった大地をおおい隠すことはできても
その泣き呻く声までは消せはしない
彼らの魂は決して鎮められはしないのだ
だから私は願おう
これ以上大地が赤くならないことを

— 榎嶋 由雅



実際にこの目で見たかった。思っていたより大きかったことを記憶している。京都はというところ、今回行ったところは、中学の時行ったところばかりなので気がすまなかった。唯一平安神宮はできたばかりのよう、朱色と緑のコントラストがすごかった。最後に飛鳥だが、あの田舎風景を期待していったところ、だいたい埼玉県の田舎の辺りのようだった。一番見てみたかったのは、石舞台古墳で、色々作り方が考えられているらしく、すごいなあと思った。やはり期待どおり飛鳥が一番おもしろかった。飛鳥と広島は、また訪れてみたいと思う。

— 小島 英夫

行く前は楽しみだった
終ってしまふとあつけないもんだ
ほんの瞬間の夢をみていたみたいだ
現実に戻ったときの寂しさが
いつになく身にしてみた
人生もこんなものだろうか
そんなことあまり考えたくないね
まあいいや

— 神崎 康敏

京都の初夜はつまらなかった。
— 角 浩二

十月十日(木)広島の旅館で「ザ・ベストテン」を見て早見優ちゃんのバ○ティーを見て、三日はできる、と言ったのは彼だけであらうか。

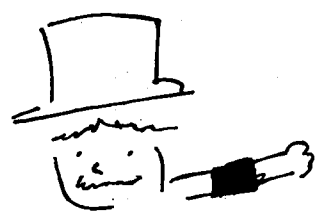
修学旅行に行けなかった人たち

修学旅行に行けなかったことは残念の一語に尽きることは
まちがいありません。
ただただ涙がこみあげてくる次第です。

— 啓具

— サッカー部 入倉 健二

— 陸上部 茂呂 宏幸



A おや、B先生、浮かない顔してますね。どうしました。
 B 事後報告書の提出が思わしくないらしいんだ。
 A 第二計画書のときもそんなこと言ってたんじゃないですか。パ
 ワーの二組らしくもない。

B 実行力はあるんだけどね。計画は苦手らしい。
 A グループ見学なんて土台無理なんじゃないですか。
 B そんなことはない。現にトラブルは一件だけだよ。
 A これは失礼。でも虎振るって駄洒落ですか。二組でもうけない
 でしょう。計画書が全てじゃない。

B そうとばかりはいえないと思うけど。
 A いえいえ。計画ということでは、何もグループ見学に限り
 ませんよ。たとえば自由時間とか車中とかのすこし方…。
 B 一寸待ってくださいよ。そんなのその場で決めてこそ面白いじゃ
 ないの。

A ま、そういう考え方もありますけど、騒ぐなら、そのための下
 準備とした方がいいに決ってますよ。それに行く前にいろいろ
 準備するのが楽しいんですけどね。

B 面倒だね。準備なんて前日荷物を造って、それで行けばいいの
 さ。

A そんなこと言ってるから、二組の生徒が迷惑するんですよ。昔
 は修学旅行と言ったって、幕の内弁当みたいに最大公約数のとこ
 ろを回ってくるだけ。今はグループ見学、クラス別見学と、バラ
 エティーに富んでる。それだけに選択や事前の学習が必要なんじ

編集後記

二年二組 旅行委員

伊藤 幸雄

小田切希芳

二年生のはじめ、各委員会を決めるとき、ぼくらの名前があがり
 “やらされる”というかんじでなった旅行委員。五月の遠足も終
 わって、修学旅行となった。第一計画書からはじまってこの文集ま
 で、たくさんの仕事があった。

最初の第一計画書からとても苦労した。まあ2組だから多少の苦
 労は覚悟していたが想像以上のものだった。旅行委員会では、いつ
 も先生たちから、「二組はまだ出ていないのか。もっとしっかりし
 ろ。」などと何回も言われた。そんな二組も授業をつぶしてもらって
 なんとか第一計画書を出すことができた。

そんなふうにして修学旅行も終わり、事後報告書も期限ギリギリ
 に出た。そしてこの文集製作となった。期末考査中ということもあ
 り、他のクラスとは違って僕たち二人だけでこの十五ページを作る
 ことにした。というものの十五ページはあまりにも多すぎて全然は
 かどらなかつた。原稿が思い浮かばなくてとても苦労した。名言集
 でだいたいページをかせいで、裏表紙というすばらしいアイデアが浮
 かんてなんとか十五ページ書き終えることができた。これで旅行委
 員のすべての仕事が終わった。

今、ふり返ってみると、旅行委員をやったよかつたような気もす

やないですか。

B そんなもんかね。

A 事前の準備と事後の総括、必要ですよ。

B うーん。そういえば、今回はじめて曼殊院行ったと思っただけど、
 前に行ったことある気がするなあ。

A ほらほら準備不足。たよりないなあ。

B でも、事後の記録は確かだよ。帰って来てから、大覚寺のパン
 フレットのまちがいを見つけたし。

A ま、それは御専門ですから。反省しているらしいところがいい。
 B よく言うよ。他に言いたいことはあるかい。

A 他にねえ…。あ、食堂に行かなくちゃ。Aランチ売切れると困
 るから。あとはよく生徒のことを聴いとくんですね。それで
 は失礼します。

B 参考になった。有難う。あ、食堂ならいっしょに行こう。



る。修学旅行を他の人より身近に感じたのは確かだと思ふ。自分た
 ちで考えた内容、自分たちで考えた文章、自分たちで考えた表紙、
 これらが集まって自分たちのしおりができた。他の人たちがとはし
 て見るような所もぼくは全部読んだ。そういう所こそ書くのにとて
 も苦労したのだ。文集もそうだ。こんな所読む人は少ないだろう
 でも苦労してやっと出来上がった文集。ぼくはこの文集を大切に
 っておくと思ふ。



裡 派 苑 華



THE END

Faded background text from the left page, including '修学旅行は...' and 'THE END'.

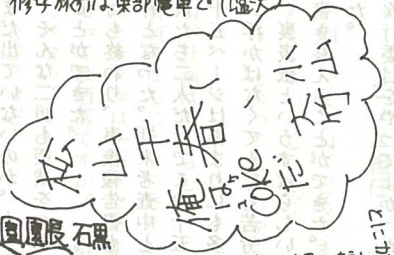
修学旅行は... (Vertical text at the top left of page 30)

(エ・イ) ... (Horizontal text)



修学旅行は奥野電車で(塩沢)

おはようございます... (Vertical text)



運動物心園園限石



よせがき

SEIKO 山崎

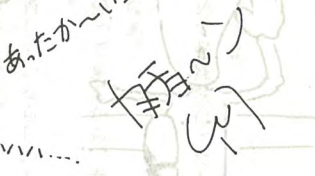
美女熱愛

Off course 大好き! はなくそにも なるぬやめ!!

旅行は色んな人にある (横に業) あん

風林火山!! KINGKONG BRUISER 田村

スキーがしたい!!



Mr. PEACE II

破裏拳 YAS

野沢茂雄

一寸早めに来たつもりだったが、集合場所にはかなりの生徒が集まっていた。校内では何とも思わないが、同じ制服を着た人間がこれだけいると異様な迫力があるものだ。日本の子供は、ある年令に達すると皆兵学校に入るのか、と聞いた外国人がいたが、この詰襟の一团を見るとそう思うのは無理もない。などと思いつつ近づいて行き、見慣れた生徒達の嬉しそうな顔を見たら、途端にそんな考えは無くなってしまった。

我が二年一組は総勢四十五名、一人も欠けることなく参加出来た事は担任として喜ばしい。どうか全員無事で帰れますように、とまづは心の中で合掌。

新幹線の席が一般と同じだった為もあり、騒ぐ事も出来ず二時間もすると皆飽きてきたようだった。あと何時間で広島に着くか、と同じ質問を次々としてくる。

「昔の人を覚えてみる。東京から広島までは何日もかかる旅をしたんだ。これくらい我慢出来ないでどうするんだ。まるで昨日そういう旅から帰って来たばかりです、という顔をして話してやると、しぶしぶ席に帰って行った。こんな目茶苦茶な話をよくおとなしく聞き分けたものだ。相手にしても仕方ないと思っただけに違いない。実は私も先程から或る事で憂うつになっていたところだった。座り疲れたせいではない。思えば前日のLHRの事だった。

出発を翌日に控えて、クラス全員がインフルエンザにかかって四十度の熱でもあるかの様な紅潮した頬をして騒いでいた。いささか

危惧の念を抱いた私は我知らず叫んでいた。

「修学旅行は遊びではない。浮かれる気持ちは理解出来ぬ訳ではないが、校規を逸脱する様な行動は断じて許さない。私もこの三泊四日は好きな酒を一切口にしないと誓おう。諸君も誘惑に駆られることなく、高校生らしく行動しろ。」

魔が差したとしか思えない。すぐに後悔したが遅かった。私の酒好きは生徒も良く知っているから、本当に出来るのか、という疑いの眼が一斉に向けられた。今さら後には引けなかった。

広島に着いてからの三日間の事は省略する。わずか二枚の原稿用紙では、あれもこれも書ける訳がない。

という訳で、早くも帰りの新幹線の中である。

生徒達は疲れているせいも皆おとなしい。眠っている者も多いようだ。私も疲れていたが、心は晴れていた。何事も無く皆無事に帰って来れた事が嬉しかったし、それにもまして今晚やっと一杯飲めるのが有難かった。

着は何にしようかと考えていると、前に座っていた外国人に富士山はいつ頃見えるでしょう、と聞かれた。名古屋を出て少したった頃だったので、あと一時間位で見えますよと答えたが、案の定一時間もすると夕陽に映えた富士が見えて来た。まるで自分の手柄の様に思えたのは我ながら馬鹿らしかった。

「ほら、あれが富士山です。見事なものでしょう。」と言おうとしたが、漱石に軽蔑されそうなので止しておいた。





広島に来て学んだこと

磯谷博史

バスが広島市内を労働会館へむけて走っている時、窓の外をみて僕は、この町が原子爆弾を投下された町にはとてもみえなかった。しかし労働会館での被爆者の話を聞き、原爆資料館、原爆ドームなどを見てやはりここは被爆地なんだとあらためて痛感した。

被爆者の写真を見たりすることはあったが、実際に会い話を聞くことなどめったにないことなので、僕は一種の期待を持って講演に望んだ。言葉は写真を見た惨劇をいっそう悲惨な感じにしてしまった。原爆の恐ろしさというものがいっそうよくわかったし、写真では学びとることのできにくい被爆者の苦しみ、悲しみがよくわかった。僕はいい経験をしたと思う。

次に訪れた平和公園、原爆資料館などは、TVでもたまに放送されることがあるので、それを見て一応のことは知っていたが、やはり一度は自分の目でじかに見る必要があると思っていた。資料はあまりなかったが、なかなか悲惨な光景をよく表していた。特にケロ

イドの皮膚などの標本はかわいそうというよりは、失礼だがとても気持ち悪かった。あの時写真を撮られた人は、どんな気持ちでいたのだろうか。被爆した者でなければ、その人の心の内を理解することは困難だろう。

資料館を後にして僕は原爆ドームを見に行った。鉄筋の露出したてっぺんが原子爆弾の威力を物語っているように見えた。その前を流れる川に、あの日、死体が水面一体に浮いていたと聞かされてきたが、実際の川は、そんな過去のことは忘れたよ、みたいにゆるやかに流れていた。ドームの反対側から聞こえる鐘の声はとても澄んでいてかえって悲しく感じられた。

僕たちはこの町に来て数々の新しい真実を知り、改めて原爆の悲惨さをよく理解したと思う。亡くなった被爆者全員の願いである。核兵器の廃絶、戦争のない平和な世界が一日も早く来るように僕達ができる範囲のことをしなければならぬのではないだろうか。

広島 of 感想

岸裕子

修学旅行第一日目。広島。ついさっき東京を後にしたと思ったら新幹線でビューッとあっという間に広島に行っていました。広島について、一番最初に感じたことは、「ここがあの原爆の落とされた所なの？」でした。ここでたくさんの人々が、道路なんかゴロゴロと石ころのようにころがっていたなんて信じられませんでした。

広島を訪れて

美勢康子

私の広島に関する知識と言えば、昔学校で習ったように原爆を受けた場所……それくらいのものでした。地図の上でながめてみても自分の住んでいる埼玉県とは遠いし、特に考えてみようとは思っていませんでした。修学旅行へ行く前に見た映画、先生の話、確かに以前よりは広島についての知識が広がりました。しかし知識と実感は違っていたのです。実際に広島を訪れ、被爆者の話を直接聞き、原爆資料館を見学した時にやっと広島を訪れた意味を知ったような気がします。

私は今こうして平和の中で生きています。それがあたりまえのようには……もうずっと前から平和があったかのように思っていました。原爆と言われても自分の住んでいるこの平和な世界には遠い話だなど本気で考えていたのです。しかし被爆した人々は今私達と同じ時代に生きているのです。

あの日、原爆によって即死した人はかえって幸せだったのではないかと思えるぐらいに被爆して生き残った人々は苦しみました。きれいだっただけは焼けただれ、放射線を受けた人は髪が抜けてしまいい、高熱に苦しみがら死んでいきました。何で自分の意志とは無関係に苦しまなくてはならないのでしょうか。とてもやりきれない気持ちです。そしてもう二度とあってはならないことです。

このことに気付いた人はまだ気付いていない人達に、早く分かってもらえるように頑張っているそうです。でも私のようにそれを知識としかとれなかったら気付いたとはいえないような気がします。日本国内にどれだけ気付いた人がいるかは分かりませんが、今後日本が同じあやまちを犯すことにならないようにしっかりとした意志を持って生きていきたいと思いました。

広島に行つて

栗田 敏明

広島に着いてすぐぼくたちは、労働会館に向かった。ぼくが考えていた広島のイメージとは全くちがっていた。こんなに都市化したとは。越谷よりも都会ではないか。それによくもここまで復活したものだと感じた。

労働会館に着いて、被爆者のおじいさんの話を聞いた。

おじいさんは被爆者であることを忘れさせるほど元氣な話し方であった。本当にこの人は被爆したのだろうかとも思い、疑いの目で見たら目があってしまった。

しかし、話を聞いているうちに、この人は本当に被爆して、恐ろしい目にあつたんだと、思いはじめた。彼は、

「悲惨ですよ。」

という言葉と、

「まさに、この世の生き地獄。」

今年の夏、広島と同じ被爆都市の長崎を訪れることが出来た。そこで写真で見た見ることの出来なかった被災者の焼けただれた服や持ち物を見ることが出来た。

「百聞は一見にしかず。」とはまさにこのことであろう。その遺品のひとつひとつが、核兵器の恐怖を暗示しているかのようであった。広島へ行って良かったと思つたことは、被爆者の生の声が聞けたことであつた。もちろん、博物館の展示物や原爆ドームなども、実物が見れたことがどんなに良かったか、知れない。しかし被爆者の方の声は、物を言わない展示物などよりも、よりリアルに原爆の恐ろしさを物語ってくれた。今でも被爆者の人々の胸には、被爆したときの体験が心に傷やしこりとして残っていることもわかつた。

このようなことから、今回の修学旅行で広島へ行つたことは、京都だけという受け身一方の修学旅行などにくらべれば、よかつたのではないかと思う。ただし、時間的余裕がなかつたためか、一般の観光客が行くような所にしか行けなかつたのも残念である。今回の修学旅行で学んだことはたいへん重要なことだと思つた。次の世代に原爆の恐ろしさを伝えるのは僕達自身であることも痛感した。学んだことは多かつたがまだ、被爆都市広島表面をなでたにすぎない。今後は、これ以上のことを学ぶために被爆都市広島を真剣に考えていくべきだと思つた。そのことが大きな意味で「平和」を考へることになると思う。

という言葉を、連発していた。この二つの言葉は、頭にこびりついてはなれない。話が終わり、帰りぎわに握手をしてくれた。おじいさんの手はとてまあたかかった。

次に、平和公園に行つた。写真をとつた後、資料館に入ったが、他の学校の生徒が笑いながら見ているので非常にむかついた。ここは時間がなくてあまりよく見れなかつた。今度行くときは、ゆっくり時間をかけて見学したいと思つた。

その後、原爆ドームへ行つた。思つたよりも小さかつた。なんか見ていたら放射能がまだ残っているような生々しさでこわかつたのでさっさと逃げてきた。

この広島という町は、原爆の傷跡と近代化された都市が隣あっている、なんとも不思議な町だと思つた。

被爆都市広島に行つて

武田 一成

確か一学期頃だつたと思うが修学旅行で広島へ行くと聞いた時、正直に言つてうれしいことではなかつた。広島へ行くとなれば話し合いやスライドを見たりしなければならぬ。本当の所は、させられると言つた感じだつた。そして最後に感想などを書かされ、決まつて書くのが「核兵器は恐ろしい」だ。小・中学校でも同じ様なことをしてきているのでマンネリさえ覚えた。一つの結論を導き出すのにこんなにまで一生懸命になる必要があるのかとさえ思つていた。

広島を見学して感じたこと

人見 啓子

広島へ着いてすぐ、私達はバスで市内を少し走つて、それから労働会館のかたいいすに座つて被爆者の講演を聞いた。原爆を体験した人の話を直接聞けるなんて、もう二度とないかもしれない貴重なことなのに、私は半分以上眠つてしまつた。なんだかとても悪いことをしてしまつた。でも、原爆が落とされた直後の話はよく覚えていた。道路いっぱいには転がっている死体、水をほしがっている人、鏡を思はず投げてしまつたほど変わり果てた顔、聞いているだけでも耳をふさぎたくなるのに、もしその場にいたとしたら……私だって、これは絶対夢なんだと思うだろうなあ。ついさっきまで楽しくいっしょにふざけていた友達が一瞬のうちに炭みたいになつてしまふなんて、現実として認めることはできるわけがない。そんな考えられないようなことを体験した人たちが、本当に気の毒だつて思うけれど、たぶん、私は、被爆者の方の苦勞や悲しみや、アメリカを憎む気持ちの半分もわかつていないと思う。私が考へている以上に一発の爆弾の起こした悲劇は大きいと思う。

あのステージで話して下さつた人は、今は幸せな毎日を送っていると言つていた。幸せだと感じるまでに、私達が今まで生きてきたのより、もっと長い年月を耐えてきたのだろう。この人たちが二度と同じ不幸に出会わないためにも、戦争反対！それに私も、こわい

思いするのはいやだから、絶対戦争はんたい！

資料館を見学した。ぱっと見ただけで、目に焼きついてなかなか忘れられない写真もたくさんある。はっきり言ってこれはひとこと「地獄」。今はその「地獄」もビルやアスファルトでかくされている。そんな中で、原爆ドームがとて痛々しかった。

戦争は、結局、人間の戦いじゃなくて兵器の戦いだと思う。これから戦争をやるのなら、核兵器はもちろんかみそり一本も使わないで、人間対人間でやるべきだ。野生の動物はみんな、そうやって生きているのだから、人間だってそうしなくてはいけないと思う。今でももっと大きな核兵器をつくっている人がいるけれど正気とは思えない。原爆をつくった人にしてもそうだけど、かわいそうな人達だな、こんなすごい物つくれる頭を持っているなら、もっとそれを平和のために生かしてくれればいいのに。

広島はこの先もきっと平和のすばらしさや戦争の醜さをこれから生まれてくる人たちに教えてくれるだろう。私は広島へもう二度行きたい。今度は戦争の影を見せない別の広島を見たいと思う。お好み焼きが食べたかったのに、どうとうそれはかなえられなかった。でも、もみじまんじゅうは最高！これを考えた人、心から尊敬してしまおう。原爆考えた人、心から大っぴらいだ。



修学旅行で広島に行つて……

広島に行つて……

修学旅行で広島に行つて、主に原爆について見たり、講演を聞いた。事前にクラスで原爆についての話し合いもした。ほとんどの人は「悲惨だ」とか「かわいそう」とかいう感想を持ったと思う。私だってそれ位のことばを感じた。しかし、いまいちもの足りない気がした。たったあれだけの説明でよかったのだろうか。

私は演劇部に籍を置いている。今年の文化祭・コンクールでやった劇にケロイドが関係していた。セリフの中にも、明らかにそれが原爆のためであることがわかるものがあった。そのセリフの印象が強すぎるのかもしれないし、私の想像が間違っているのかもしれないが、「被爆する」ということは、もっと生々しくて、ねばねばしたものではないだろうか。あんなふうに、ただ「こんなふうだったんだよ」とか、「原爆っていうのは、おそろしいものなんだよ」とか、「もう、二度とないようにしよう」とか、それでは、あんなまりにもさっぱりしすぎてやしないだろうか。まるできれいごと何もなかったようではないだろうか。

原爆はおそろしい。そのことが理解できれば、もう二度と繰り返すまいと思えば、私たちには、それで充分なのかもしれない。戦争すら知らない私たちが、それ以上のことを理解することは、無理なのかもしれない。たとえ、理解したとしても、結論は同じである

同じ不幸の出来事なのに、戦争反対、絶対戦争はんたい、このように、広島を訪ねて……

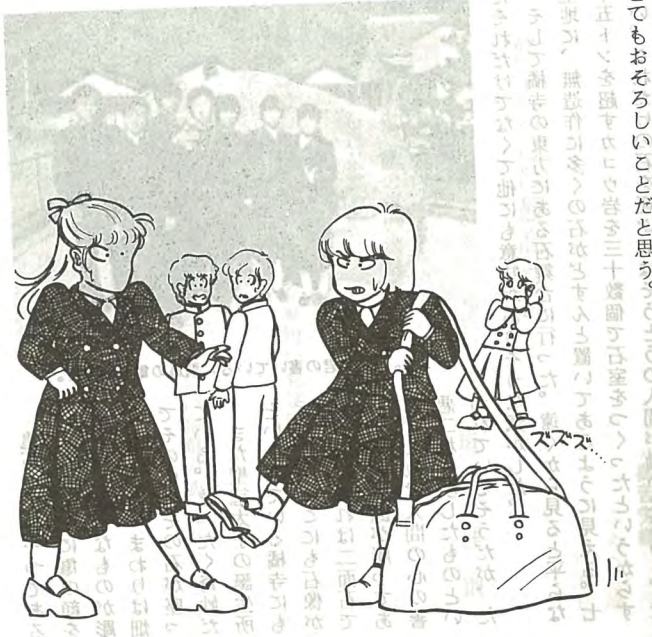
広島を訪ねて……

原爆については八月六日近くの新聞やいろいろなテレビ放送によってその悲惨さについての知識はある程度あったつもりだった。しかし、いざ、被爆者の体験談を聞いたり、原爆資料館を訪れたり、平和記念公園の原爆ドームを実際に見せたりすると、その悲しさや僕たち日本人、いや世界の人々の核に対する憤りを尚、二層強く感じたのだ。

ところで、広島の見学についてだが、僕は広島を見学するのに、修学旅行のように大勢で、わいわいがやがや見学するのは、どうだろうかと思う。広島といえば人類史上で初の核による恐ろしさを知ったところであるからだ。本当の恐ろしさを知らない僕たち高校生などがわいわいがやがや見学しても過去の誤ちをしみじみと考えることは無理だと思う。だから、僕は広島は一人で核、しいては戦争の恐ろしさを噛み締めながら見学すべき所だと思うのだ。

最後に、未来は僕達の世代が築き上げていかなければならないので、二度とこのような悲惨な戦争を起こさないように、それぞれがその恐ろしさを認識していかなければならないと思う。

う。戦争を知らずに一生を送れるなんて、私たちは幸せなのかもしれない。が、のちに大きな不幸を招きかねないと思う。そのうち、私たちが親となり、祖父母となる時、戦争の悲惨さを生々しく語れる人が、果たしているだろうか。そうなったとき、私たちの子孫の中で、戦争というものは、どういふものだと理解されるのだろうか。戦争反対を心から訴える人間が、いったい何人になるのだろうか。とてもおそろしいことだと思ふ。





奈良

風見博史

僕は自由行動の時に、飛鳥の周辺を見学した。少し雨が降りそうな感じのする天気だった。

まず最初に、玄武の発見とやらで話題になっていたキトラ古墳の近くの高松塚古墳へ行った。そして、有名な壁画の模写模型のある壁画館に入った。壁画館の中にあつたのは、壁画をはじめ副葬品や石槨、すべてが模型だったので、何となく物足りないような気がした。

次に欽明天皇陵へ行った。これは前方後円墳だそうだが、もちろん高い所からでも見なければこれはわからないだろうが、ところで陵内に畑があつたけれど、ばちがあたらないのだろうか。

次に吉備姫の墓。ここには猿石といわれている何となくグロテスクな石があつた。魔よけのために造つたのだらうか。とにかくこの辺りには、そのように何の目的で造られたかわからない石像がたくさんある。

一方なので、仕方なくこれを断念した。

修学旅行

第一日目。遅刻若干。車内騒乱。広島見物。特別早起。満員電車。全員集合。遅刻若干。車内騒乱。広島見物。記念写真。晩飯不足。食欲旺盛。風呂広々。全員元気。



2班。1日コース大阪城にて。

- 睡眠不足。朝食質素。
- 列車移動。昼食駅弁。
- 旅館窮屈。半日見学。
- 寺社見物。紅葉奇麗。
- 天気良好。時間厳守。
- 晩飯極少。全員空腹。
- 煎餅布団。二時就寝。
- 第三日目。
- 疲労若干。班別見学。
- 大阪見物。天気不良。
- 寺内静寂。女子空腹。
- 食事三回。人間大勢。
- 皆城見物。土産蛸焼。
- 風呂混雑。晩飯鍋物。



1班。(風見君の書いている)飛鳥の亀石前にて。

だそれだけでなく他にも意味がありそうな気がした。

そして橘寺の東方にある石舞台に行った。遠くから見ると平らな土地に、無造作に多くの石がどすんと置いてあるように見える。七十五トンを超すカコウ岩を三十数個で石室をつくつたというからすごい。これだけの石を運ぶにはそうとうの人間が働いただろう。造らせた人間も、たくさん人間をうごかすことができるような大きな権力をもっていたのだろう。また、玄室に入って上を見上げると石の重さがずつしりと伝わってきそうな感じがした。

全員満腹。夜景絶景。班長発情。室内興奮。抱腹絶倒。全員早寝。意気消沈。

第四日目。疲労増大。組別見学。洛東見物。気温低下。紅葉盛大。抹茶珍味。庭園奇麗。甘酒美味。昼食弁当。午後着京。無事着宅。体力減少。気力皆無。……旅行終了。

修学旅行は最高だ

朝早い集合、腰の痛い満員電車。修学旅行は最高だ。新幹線での五時間半、そのくせ短い見学時間。修学旅行は最高だ。とても親切な旅館の人、とてもおいしい旅館の飯。

いつでも彼は夜の鴨、カメラ片手に女さがし。修学旅行は最高だ。

土産代を必死にうかし、家に帰ってすいとられ。遠くまで。やっぱり修学旅行は最高だ！

修学旅行

鈴木 稔

今度の修学旅行は、計画通りいったし今まで一番おもしろい旅行だったと思う。広島では戦争というあやまちは二度とくり返してはいけないと教えられたし、京都では紅葉の美しさに目をひかれた。あれは、京都の平日行動のときであった。ぼく達は西本願寺に行ったのだが、西本願寺の隣の寺に入っているのと喜んでいてのことである。まったく仁和寺の法師である。本当の西本願寺をみつけたときはみんな笑ってしまった。それから思い出に残ったことと言えば、大覚寺で朝葉師丸ひろ子が里見八犬伝のロケをしていたという所に行ったことである。ひょっとして会えるかもしれないと期待していたのだけれども結局会えなかった。それが残念だった。嵯峨野では紅葉が大変印象深い。今度京都に来るときも



4班。天竜寺にて。
K君いわく「みんなできんちょうーしてやんの」

紅葉がきれいな時に来たいと思う。班長として、修学旅行が無事に終わって大変うれしく思う。

修学旅行のすべて

森川 雅也

当日それなりに起きた僕は、家の台所へと向かった。母が弁当を作っていた。僕は適当に朝めしを食べると弁当を受けとり、出かけようとした。母が一言、「お酒飲んで、どっかから落ちないでよ。」僕は無言のまま、出て行った。電車。松原団地、はつきり言って田舎である。そこから東武電車に乗り友達と車内で会うことになっていた。僕は国鉄に乗るため、秋葉原で降りた。国鉄のホームで電車を待ち、いざ電車に乗ろうとする時、人をかき分け、すばやく乗りこむものがあった。それは一人のおばあさんであった。ところが、そのおばあさんは、電車を間違えたらしく、ドアがしまる直前で、とび降りてしまった。なんと元気なおばあちゃんであろう。東京駅に着いているろあったが、たいしたことはなかったのてで省くことにする。新幹線の車中では、麻雀か、トランプか、ダベリングか、寝るのいずれかを行っていた。用するにひまだったわけである。最初は広島へ行くことになっていた。広島について書くところだが、原稿の都合上省くことにする。では、何を書くのか。京都での出来事について書くことにする。

修学旅行思い出話

小沢 里美



5班。異人館にて。
▼二条城▲
なっつかしいなあ。中学三年の修学旅行で、一番初めに来たのが、ここだったの。だから鮮明に覚えていて、驚張りの音は、心落ち着かせて聞いたというよりも、ドタバタと走り去ったという感じになっちゃったけれども……。

二日目は、昼ごろ京都に着き、まず旅館に向かった。旅館は広島より、きたなかった。そして、グループ見学に行った。見学に行ったのは二条城と金閣寺だった。両方とも中学の時に行ったところなので、なんとなくつかしかった。金閣寺を見終わると、そろそろ宿舍へ戻らなければ、門限に間に合わない状態だった。バスに乗って帰らなければならない。が、バス停がなかなか見つからない。時間は無情にも過ぎていく。「あつた。」誰かが言った。何とかが見つかってバスに乗ったのである。時間は刻一刻と門限にせまっている。「ピピッ。」時計が五時を示した。なんとこのことだ。宿舍に着くと、班長のK君が、先生にこっそりしぼられたの言う間でもない。フロへ入り、粗末な食事をとった我がクラスの男子は夜の市内見物へ出かけた。京都タワー。我々が出かけたのは、そこだった。金ばかりとるつまらない所だと思っただ、よく見るとゲームセンターがあった。少し高かったが、ゲームに燃えた。宿舍に帰り、消灯まで待っていた。「消灯」それは、人間の本性を表す時間。僕はそう思った。残りの日も同じように過ごした僕は埼玉の田舎へと帰っていった。後に、グループ別見学の時に写した写真を見せてもらった。ところがその写真の中一枚に奇妙なものが……。あの美しさを

▼大阪城・天守閣▲
う葉が、さらさらと光って、きれいだった。
大阪築城四〇〇年まっつりの催しとして、大阪城四〇〇年の歴史展が行なわれていた。私は豊臣秀吉さんの印稿や、軌跡を目にした時思わず感動して、その場にしばらく立ち止まってしまいました。(うっ書道クラスの血が!)と、それまでには至らなかつたけれど

ど偉い人を実際に見たもので得をした気分になりました……。私の印なんて比べものになりませんねえ。つくづく思いました。

▼東福寺・通天橋の紅葉▲

これこそ極めつけ。文句のつけようのない、あのすばらしい光景。そして時期的にも紅葉の一番きれいな時期であったから。

「すごい、きれい！」この一言につきます。あの美しさが分からないなんて、信じられませんね、日本人として。英国人が、「Oh beautiful、なんと言っていたのを耳にはさんだくらいなのですから。」

修学旅行

辺見幸枝

修学旅行で一番楽しかったこと。旅館での友人との語り合い。ただ、あまりにも消灯がきびしかった。もう少しゆるかったら、もっと楽しかったと思う。班別行動もなかなかだった。大阪を見てまわられたのがとてもうれしい。仁徳天皇陵は、ほとんどギャグだった。なんか山みたいなのがあるなあとと思ったら、それが仁徳天皇陵だった。そうとは知らず、地元の人に「仁徳天皇陵はどこにありますか。」と聞いてしまった私。その人たちは、一人は一生懸命道順を教えてくださいただが、もう一人の子は、線路をはさんで真横に見える山を指示して「あれや」と、一言。道順なんかよりも、その一言のほうが私たちには分かりやすく、何よりの説明だった。あっそうそ

神戸見聞録

—お好み焼きとタコ焼き定食について—

武田一成

修学旅行の三日目の班行動で我々五班はいにくの天気だったが遙か神戸を目指して京都駅より快速へ乗り込んだのであった。美女五人？と野獣四頭で構成された我々五班の目的は修学旅行というよりは遊びに近かった。特に、我々野郎どもの目的は幻のタコ焼き屋・ちばなの所在を確かめることであった。三ノ宮駅に降り立った私達にあとはなかった。我々はそんな宿命に燃えていた。その時突然隊員の一人が叫んだ。最初に商店街を通り抜け、ウインドウ・ショッピングを楽しもうという計画は、目の前に立ちほだかった大きな壁によって妨害された。しかし、我々は強行突破をはかり、見事に成功した。

このようなことが続きながらも我々取材班いや、五班は探険を続けた。異人館通りから昼食のために我々四人は、駅前の商店街にあるという幻のタコ焼き屋・ちばなへと急いだ。我々に残された時間は少ない。自然と足どりも速くなっていった。途中、隊員の一人がえたいの知れない物を踏んでしまうという予想しなかったアクシデントにも見舞われた我々四人は商店街の中にあるちばなへたどりついた。ジャーン。

ここで我々が見たものは……。何と「タコ焼き定食」という変わったものであった。それにはタコ焼き10個とみそ汁と飯が入って四



6班。大阪城にて。

ールの安っぽいカサを買った。これ以後、このカサがうちの班員の目じるしになった。すぐに雨がやんでしまっ、くやしい気分になったが、その後も、時おり雨が降って、多少なりとも利用価値があったので、その辺はあきらめた。京都のクラス別行動もなかなかよかったです。とちゅうのお寺でぎんなんを売っていたので買って食べた。そのせいでバスに遅れてみんなにめいわくをかけてしまった。ごめんない。でも、とってもおいしかった。ぎんなん大好き。私はまだまだ色気より食い気なんだなあ、実感した。おかげで修学旅行の間に、ずいぶん体重が増えてしまった。なんとかせねば。夜の買い物も楽しかった。新京極では、ずいふんとみんなにめいわくをかけてしまったが、それでも楽しかった。こうして考えると、全部がそれなりに楽しかったから、よかったと思う。

百五十円である。我々はうえてはいたが、それには手を出さなかつた。えたいのしれない恐怖心がうえを超えたのである。仕方なしに我々男子四人は、お好み焼き屋へ突入することを決めていた。それが決まるか決まらないかのうちに、店のおやじの強い人さに店へ入ってしまった。ある者はモダン焼き、またある者はイカ玉そしてまたある者はエビ玉をたのんだ。ここで気がついたのが値段表には、イカ焼き、エビ焼きとなっていた。この店はおもぐりではなからうかという疑問が我々に残った。しかし、腹がへっていたのでたいして気にならなかった。惨事はその後始まった。だれのお好み焼きにも、玉子が入っていないかった。それどころかキャベツさえも入っていないかった。おやじ曰く「神戸へ来て、うまいもん食べられてよかったなあ。」我々は冠が怒髪を指しそうになったのを懸命に隠した。そして、「あんたらどこから来た。」「埼玉です。」「なんだ東北か。」と言われないうちにこの店から逃げたのであった。我々は空気がこんなにうまいと思ったことはなかった。それから我々は京都へ帰路についたのであった。



班の行動と感想

一班

いけなくてうれしかった。
おれにも五万円くれ。
予想どおりの展開、つまらなかった。
おもしろかったのはあれだけ。
一パツ、パンパン。
担任のせいでつまらなかった。

二班

その一 新幹線にて。
「二人がけの席でよかった」そう私は思った。なぜなら座席が回転するからである。向かいあったのは、私と二人のI氏、そしてO氏である。このメンバーはある種のカードゲームをやるためであった。ちなみに三班は六人で構成されており、のこりの二人は後で暗く音楽を聞いていた。暗かったのはK氏一人といううわさもある。百三十六枚のカードを使ったゲームをしながら一ぱ京都へと向うのであった。

その二 北野天満宮にて
バスで北野天満宮についたわれわれは、お守りを買ったり、おみ

帰りの新幹線の二班は最悪であった。三人がけに座ったので行きでやったゲームはできないし、五組はやかましいし、みんなうとうとしながら東京駅のホームを待つのであった。
四人
完結

僕達三班は、二日目、旅館を出てまず徒歩で「三十三間堂」へ行った。予定よりも時間がかかってしまった。次に徒歩で「清水寺」へ。清水寺では、C君の意見で逆回りをしてしまった。けっこうし

らけた。そこからバスで「二条城」へ行くはずだったが、A君のおかげでみごとにバスをまちがえてしまった。しかしなんとか二条城に着き、見学をした。そのとき外人さんと写真をとった。その帰りは、リッチにタクシーにした。
そして旅館についた。オムコオムコオムコ
僕らは卓球部とバドミントン部と、元卓球部で構成されていた。だからチームワークは最低だす。

学食少ないと思いませんか？ 和田学
三日目も、同じような一日を過ごした。問題は夜であった。みんな夜行性だったのだ。K君は大仏だったのであったんだべ。ちなみにN君は一人負けだったよ。
これからまじめに書こう！

四班

くじをひいたりした。私はおみくじで、ありふれた吉をひいたがO氏は凶をみごとにひきあてた。たくさんの吉から凶をひく運のよさにみな感動していた。ちなみにO氏はそのおみくじをもって帰り部屋にはってあるそうである。

また少し時間があいたので、われわれは、十円で東京と何秒話せるかを調べた。(実にくだらない)結果は四秒でした。みんな速くへ来たなあと思いいながら北野天満宮を去るのであった。
その三 薬師寺にて

朝の天気予報のとおり雨が降ってきた。かさを持ってこなかったS氏は、非常にこまっていた。特に写真係のS氏のもっていたカメラは、シャッターボタンに水が入るとサービスマスターへ数ヶ月サヨナラというもので運を天にまかすと証拠写真をとっていた。柔道部のI氏は寺を出れば雨がやむという予言をみごとにあてた。われわれは教科書と同じパンフレットをもって唐招寺へ向った。

その四 東大寺・奈良市にて
とにかく東大寺の大仏殿の拝観料は高いと思う。I氏とK氏は拝観を拒否した。結局入ったのは四人で大仏を見た。S氏とI氏(前のI氏とは別人)は、またおみくじをひいた。北野天満宮でみごと凶をひいたO氏は、予想どおりひかなかった。大仏殿は大きいが大仏は小さく見えた。これなら鎌倉の大仏を入れたほうがましだと思

った。
東大寺を去ると奈良駅にもどった。屋敷に駅前でそば屋に入って、私は天ぷらそばを食べたが、うすくてあまりおいしくない。やはり関東人だと深く感動してしまった。
その五 完結

班行動についてときたま突然いなくなる人がいたので、ひじょうにこまった。京都での自由行動で、班長が見学順番をまちがえたのでこまった。八人という多人数だったのでつかれた。みんなまじめなので、事故もなく無事帰ってこれてよかった。及川君が歯ぎしりをしていて、と結果から言ってしまうは無事であったが、行く前までは不安であった。おつかないオッサンにからまれたりしないかと思ったりもした。それから時間内にまわりきれるか心配した。でも結局全部まわってこれたし、多少時間もあまった。ほぼ心配しすぎてしまったようだった。心配しすぎていたいろいろ楽しいこともあった。

一番楽しかったのは三日目の夜にやった宴会ですね。今だから言えることなんですけど、消灯時間なぞ完全に無視してドンチャン騒ぎをしていたのです。しかし僕達のグループの人はまじめとかが根暗なかいまいち盛り上がらなかったのです。中には一人で寝てしまっ

てチームワークをみだす人がいたりしてこまったものです。
特にうちの班は三日とも単独で一つの部屋だったので他の班に気をつかわずにすんだため大騒ぎして、すっかり消灯後の先生の見まわり重要部屋になってしまった。入れ変り立ち変り先生が来たこともあり、いなくなっと思って話をしたらしっかりドアの向こうで聞いていたということもあった。反省といってもうちの班はこのよ

うな愛敬のあるささいなことしかやっていないのでまあよいのだが、反省してもらいたいのはさんさん探し回ったあげくぼくたちが入った食堂のちである。うどん定食を頼んだらうどんを天ぷらうどん

かためきうどんかをもつて来てメニューにのっている価格より百円ぐらい高く取りやがった。まったくささいなことだ。

新京極におみやげを買に行ったときもたいへんだった。人がうじゃうじゃいるし時間はないしでろくにみんなおみやげを買えないようだった。しかもあとで聞いたことだがつっぱったにいちやんちがうちらねらっていらしいが8人もいたのでやめたみたいだったということだった。試食の生ハツ橋はうまかった。うまかったので僕はハツ橋をみやげに買った。しかし、日付が遅く家に帰ったらずぐ食べなければならなかった。

ついに最終日になった。四組は琵琶湖コースだったが、バスのガイドさんには参った。彼女は堂々と台本を読みながら説明していたぶん、全部聞いた人は、ほとんどいかなかっただろう。

で、これが班としての感想である。四日間まあ、とにかく平和にすごせたことは非常にけっこうなことである。

しかし、いまいち盛り上がらなかった。夜になると急に過激になる人もいた。自分もそのうちの一人であるが、やはり男子クラスだからこそできること。そんなわけで私は男子クラスが大好きである。二年四組に栄光あれ、男子クラス万才!

五班

まず初日の東京駅集合のとき四人ほど遅れて来た。準急が混んでいて乗れなかったらしい。とにかく全員そろって新幹線に乗りこんだ。四人でトランプをやっていた。ほかの二人はほかの席へ行って遊んでいた。新大阪を過ぎる頃には、みんな飽きて寝たりした。広島に着いて平和公園に行ったときは班はバラバラになってしまった。帰る頃になってみんな集った。旅館では寝る時間になっても起きて

みんなの感想

広島へ行ったこと

鈴木 誠

僕の広島市の第一印象は、あんまり僕の住んでいる町の近くの比較的大きな市と変わらんじゃないか、です。広島に着くまでは、原子爆弾が投下されてメチャメチャにされたということばかり頭にこびりついて、まさかここまで復興しているとは思いませんでした。

まず僕らが行った所は、Y M C A 何とかという所です。そこで中国放送の記者の方による、原爆の話聞かせていただきました。記者の方には申し訳ないのですが、僕は電車の長旅のせいとか、眠くて眠くてあまりよく話を聞いていなかったのです。でも話のところどころに彼の原爆に対する激しい憎悪が感じられることがあって、たびたびはっと目を覚まして、周りで一生懸命聞いている人や、被爆者の方々に失礼なことをしたと思えました。その後また眠ってしまったのには自分でもあきれかえっています。それでも何とか覚えていたのは、「人の死と物の死」というところ。人間は死ぬとその死体は手厚く葬られますが、原爆で死んでいった人々の死体の姿は人間のそれではなくて扱かわれ方も、物に対するそれだったという話でした。死のことに関しては、自分に無関係ではないので、妙に身近な話に感じられて背筋が寒くなる思いでした。

広島の人々は、ある記者の方のように原爆や戦争を嫌っています。

いてテレビを見たりしていた。翌日京都へ行くときは、誰かが買った本などを見たりしていた。

京都では、二城陣屋などへ行った。旅館では割合早く寝た人もいたし遅い人もいたようだ。翌日の見学は大原へ行った。途中で雨が降ってきた。食堂へ入って、昼飯を食いながら雨がやむのを待った。食べ終る頃にはやんだ。夜の外出は二つに別れた。京都から新幹線に乗って東京駅に向った。

六班

我々、六班は修学旅行前の計画をたてるときとはうらはらにスムーズにいった。計画をたてるときは五回も六回も修正をしいられたが、いざ本番となるとなんのトラブルもなく(実際は多少あったのだが)、班行動としては成功といえるだろう。

まず第一に計画がしっかりしていたこと、そして第二に班員全員がしっかりしていたこと、この二つが我々六班を成功へと導いてくれたのだと思う。

東京駅に集ってから解散するまで全員もどってきたし、旅行中にも事故がなかったことだし、とにかく修学旅行が終わってほっとしている今日この頃である。

七班

五分おくれたこと以外はよくできた。班長はつらい。ごめん。ページのついでに一部省略した。

今だに原爆が原因で病気になる人々は、病院で苦しんでいらっしやるという話も聞きました。広島市には平和は戻りましたが、市民の心にも平和が来るのは世界中の核兵器がなくなるときだと思おうのですが、実際のこととは不明です。

しかしそう感ぜずにはいられない気分にはさせる物がありました。それは韓国人の犠牲者の慰霊碑です。この碑は平和記念公園の外にありました。今でも外にあります。日本人が公園内に建てることを許さなかったのか、韓国人がわざと外に建てたのか不明。ただあの碑を見ていると「お前達日本人に世界平和などを主張する権利なんかない」と言っているような気がするのです。それは過去、日本人が韓国人に対して行なった許されざる罪のせいだと思います。広島市民もこの碑を見るたびに僕と同じことを感じて胸を痛めているのではないのでしょうか。

韓国人は今でも日本人のことをうらんでいます。日本と韓国は、元々仲の良い国だったのに今では感情的な面では一番悪い仲だと思えます。核がなくなると、世界中に戦争の危険がなくなると、日本人と韓国人はまた仲良くなれるかもしれません。その時こそ広島市民や日本国民の心にも平和がもどってくるのだと思います。心にも平和とはいいたい何のことだから自分でも良く分かりません。深い意味のある言葉だと思います。

...

今、明かされる広島での自由行動

菅原貞幸

広島平和公園はテレビ、新聞などでは何回も見ていたが、実際に訪れたのは今回が初めてだ。雲っていたせいだろうか、とても重々しい雰囲気だったのが第一印象だった。

YMCAホールの横繁氏の講演も緊迫した空気がはりつめ、約半数は寝ていただろう。

「眠い人は、どうぞ寝てもけっこうです」

と、しきりに言っていたがそう言われると、かえって目がさえてしまった。しかし講演の内容はあまり覚えていない。でも「原爆の写真のキノコ雲の下の建物の様子はどうなっているか見ておけ」と言ったのは、はっきり頭の中にある。一生懸命話してくれた横繁氏には悪いが、ぼくとしては、実際被爆した人の話を聞きたかった。やはり実際に経験した人でないと本当のことはわからないと思った。

資料館では、人がごった返していたためゆっくりと見れなかった。でも思ったより資料が少ないように感じた。どの資料も、原爆の恐ろしさ、破壊力のすごさをまざまざと実感した。

いまにも雨が降り出しそうな空を見ながら平和公園の中を見物した。真先に原爆ドームを見た。カメラを持っていた人は必ず一枚はとっただろう。だれもがファインダーで原爆ドームをのぞいたとき、シャッターを押すひときさし指がふるえたにちがいない。つい出来心で平和の鐘をおもいきりついたら、みんな他人のふりを装っ

て閉されていた。三人は、「広島のパカヤロー」、「そごうのパカヤロー」そう叫びたかった。しかしそんなことをしてもどうにもならない。三人は相生橋のほうへもどっていった。

僕は右手に大きな建物があるのに気付いた。広島市民球場である。しかし我が横浜大洋ホエールズのホームグラウンドの横浜スタジアムに比べれば月とスッポンである。もっとおどろいたことに入場券売場が、ガラスでなくて、鉄板がはってあって二つの半円の穴と長方形の穴があくだけであった。こんな小さなことから山口組のこわさが、ひしひしと伝わってきた。

広島で僕は原爆ドームのむなしさと広島市民球場のせこさが、心に残った。

広島での平和記念公園を見学して

後藤美夫

ぼくは初めて広島を訪れて見て、驚いたことは、どこもかしこも原爆についてのスローガンや標語が掲示されていることだった。

また中国放送記者横繁氏による講演で被爆者の気持ちがいへん痛ましく思われた。そして、心の中に残っている言葉は、「良心への苛責」と「ものとしての死」がとても印象強く頭にこびりついていく。

また資料館を見学して、原子爆弾の威力を初めて知った。それと同時に原子爆弾の恐ろしさを改めて知らされた。原子爆弾は絶対に地球上に落ちない、誤っても落ちないことを常に願うようになった。

ていた。公園内にいた時間より、外を歩いていた時間のほうが長かった。せっかくそごうに行ったが定休日だった。しかたがないので広島市民球場を一周し、広島NHKに行って見学したのは、ぼくたちだけではなはずだ。しかし、さらに本屋さんを捜し当ててFMレコパルを買ったのはぼくだけだろうか。その上にキュー（関東ではピアと呼ばれている）を買いたかったが、買わなかった。ここで道に迷ったのはいうまでもない。無事、平和公園にもどれたのが不思議なほど、へんびな所に迷い込んでいたのだった。今考えると、ちょっと無謀だったと反省する。

たった半日の広島見学だったものたりない気がした。もっと時間をかけて、広島の実を知りたかった。やっぱり三泊四日では、少ない。四泊はほしかった。広島にもう一度行きたい。

こうえん（公園・講演）はよかった。

広島での感想

石島和明

原爆資料館を五分で出てしまった僕とS氏そしてK氏は「そごう」へと足を向けた。

相生橋のほうへ進むと右手に見える原爆ドームはなんともいえず不気味であった。しかしそれに反して相生橋は、近代的でアンバランスであった。

三人の心はそんなことを思いながら「そごう」の前へ来た。そこには、三人の心とはうらはらに濃いクリム色のシャッターが、暗原爆を落としたアメリカは今、平然と横たわっているが、なぜ広島に落とさなくてはならなかったのだろうか。いくら兵力が集中していたからといって原爆なんかを落とすのだろうか。戦争のこわさは、この原爆によってよほど大きく成長しただろう。そして、日本は平和主義に力を入れていくようになった。また、被爆者たちの原子爆弾による破壊をくい止めようとする運動もさかんになった。これは、とてもいいことだと思ふ。それが他国にも発展して、地球全体が、一国となって平和な生活が出来たらどんなに幸せだろうかと思ふ。たとえ、一国になっても、平和な生活が出来ればそれでいいのかも知れない。

広島での感想

小栗秀

焼けただれて死んだ人の写真やその他もろもろの破壊の跡を見に行くわけだから、むろん気は重い。だれが好んでいたましいものを見るものか。

広島といってもぼくはその地に特別な思いや期待をもっていないわけではなく、むろん一度も行ったことがないので町の様子なども知るよしもなかった。そして今度そこへ行ったらわけで、ぼくの見た広島といえは旅館の前のどこからともなくオワイの臭いがただよってきそうな陰気くさい道と公園だけであったように思われる。なにせ一日もいなかったのだから。

車にのっていると、それもバスのように高いものになると走行中

歩行者のことなど忘れてしまいがちだが、あいにくヒマだったばかりは外ばかり見ている、そのうちにある不思議なことに気づいた。道に当然歩いているはずの人がいないのだ。外に出て歩いているはずの人がいないのだ。外に出て歩いてみても同じことだった。なぜだろう。コンクリートしかないびかびかにみかきあげられたような空気が中でだだっ広いきれいな道にすうすうと風が通り抜けていく様を見ると、自分が映画か何かのセットの中に迷いこんでしまったような奇妙なヨソヨソしさを感じてしまうのだ。

ぼくは先入観なしで広島に来た、と前に書いたが実際によく考えてみると大事なことを忘れていた。ぼくが唯一広島について知っていたことは、世界の共通語にさえなっている「ヒロシマ」だったのだ。ヒロシマというのは核の代名詞になっているくらいだから外人のみならず日本人でさえ「ヒロシマ」と聞くと「ああ恐ろしい」と思うのである。が、町を思い出す人はまずいいまい。あまりにもそれは強烈でありすぎて、町をおおいかくしたキノコ雲と同じようにぼくからすっかり町のことをかくってしまったのだ。

結局、ぼくのイメージになる広島はこういった理由でキノコ雲やケロイド、血、腐肉といったものが所せまに埋めつくして、ふと気づいてみるとその中にぼかりと街の部分だけが灰色の穴をあけそこにはコンクリートの上を吹く冷たい風がスウスウ通っているだけなのだ……

けは、きれいだったと思う。あれだけはっきりしているのもみたことがなかった。

最後に三日目のあの五分のおくれたがプランのたてかたをもっとよく検討すればよかったのではなかったかと思う。

広島への思い出

鈴木 学

今日は、修学旅行の第一日目。各自様々な思いを乗せ新幹線は一路広島へ。とは言っても、実際は、準急電車に乗れず集合時間に遅れたという敗北感。新幹線の中では、寝不足と電車酔いでずっと夢心地。？時間後の講演を拝聴に。現代、原爆の記憶をもつ人々の考え、それを追い続ける人の考えを聞く。でも悲しきかな、全くピンとこないのです。電車酔いの影響もあるでしょうか。不思議な気分です。平和記念公園へ。何故平和記念なのか未だ理解できません。展示物は、写真集などで見ていたので別に新しい驚きはありません。どこの団体の中年男女が何かと文句をつけていた。

「うるせえ、オバサンだ。」
だが、巡っていくうちに、恐いという気持ちになってくる。その後、自由行動で公園内をうろつく。原爆ドームを眺めると、何やら呻き声が聞こえてきそう。慰霊碑、塔、様々な像、どれも虚栄のもののような気がする。原爆ドームを除いて、周囲は皆整備され原爆ドームだけが異様に目立つ。恐い。苦悶の呻きが聞こえてきそう。皆の前では笑顔でごまかしたが、恐い。心の奥に焼きついた呻

修学旅行

岡 俊彦

修学旅行をおえて、一番思うことは、三日目、つまり十一月十二日、あの日の五分間のおくれさえなければ成功であったであろう。一日目の広島、講演会や平和公園の原爆資料館を見てかなりいろいろ考えさせられた。くわしく書くところだけで一つの作文ができるのでこれくらいにしておこう。

二日目の京都、銀閣寺―平安神宮―清水寺と回るコースである。銀閣寺であるが、金閣寺とくらべると銀閣のほうがいいとよく言われるが、銀閣より金閣のほうが自分は好きだ。平安神宮はたいしておもしろくなかった。清水寺はやなりあの舞台の上からのながめ、あれが最高だった。しかし、ここですこし時間をとりすぎてしまった。だがこれで門限にまにあってよかったと思う。

三日目の京都の一日見学。これはもうかなりたいへんだった。嵯峨野と新京都でだいぶ時間をとってあるからだいたいようぶと思っていたが二条城でかなり時間をとってあとのものにだいたいぶくるって門限の五時にまにあわなくなってしまう。このことはおいておいてよかったところは、なんといっても金閣寺であった。あの池にうつる金閣のすがた、あれはたとえようもないほどよかった。また裏山の紅葉もものすごくきれいであった。

四日目の比叡山、琵琶湖、これは比叡山はともかく、琵琶湖はきたいはずだった。が、あの虹だけはきれいだったと思う。あれだ

き声。

電車酔いがまだ覚めず、バスにゆられて旅館へ。

京都での思い出

桜岡 利雄

京都の文化財・歴史を見て感動するのは、二年前に済ませました。はっきり言って寺なんてものは、どれを見たって大した違いはありません。ですから、新鮮味のない京都見学になるだろうと考えていました。しかし、見事にも、幸いにも予想は外れ、ありました。新鮮味があり、あっと驚くことがありました。それは、二条陣屋の仕掛けと、大原の紅葉でした。前者には、人間の賢さを再認識させられました。仕掛けを幾つかあげると、うぐいす張りほもろんこのと、敵の侵入を防ぐ落とし階段や、天井裏の忍者控室や、湿気の調節にと、天井板を交互に重ねてわずかのすき間をあけたりと、もっと他にもあるんですが文章に表わせない程、功妙な仕掛けでした。後者は、近所や日光などで見るものとは数段違う美しさでした。

大原の紅葉は「きれい」という形容詞が合う所はないと思っただけで、のどかな田んぼ道を歩き、紅葉を味わい、たこ焼きをパクつくという最高のパターンで、「やっぱり大原」と感じました。二条陣屋の拝観料五百円は高いと、ブルー文句を言い、計画書の提出期限に合わないからと、ガイドのモデルコースをそのまま写したけれど、災い転じて福となり、最高とは言えないまでも、それなりに収獲のあった京都見学でした。

修学旅行で私が京都に行った日

西沢 俊志

ぼくたちは広島の後京都へやってきました。駅から出ると、そびえたつ京都タワー、きれいな町並みを、人々も空気も何もかも京都だと思わせたいいなかったというわけでもありませんでした。

京都での初日は、旅館で寝たい一心でしたが計画に沿って行動をしました。ぼくたちの班のメンバーは、新井・川村・菊地・千葉・永塚・西沢とぼくの七人です。ぼくたちはサッサと見周ってすぐに旅館に帰り、風呂に入りました。そしてめくって夜の京都に足を運びました。京都タワーでボーリングをしようということで行ったのですが、タワーにはボーリング場などなく、タワーに登るのも金がかかるといのでタワービルのゲームコーナーでまんをしてみました。ゲームをやったのは久しぶりですが十円のブロックくずしでEXCITしました。考えてみればぼくの班はゲームげむGAMEでした。桃山城で映画村で、二日目のタワービルで琵琶湖であらゆる所でゲームに励みました。見学地ではほとんどレースゲームでした。

そして修学旅行はなんといっても夜です。でもぼくたちの部屋は普通の夜を過ごしました。こんな生活を二日間続けたわけですが、いろいろなことを身につけました。と同時にみんなのくせや性格なども知れて本当によかったです。印象的なのは、T君のゴーガオーというびきです。なかなかおもしろかったです。

修学旅行をふり返って

田中 伸明

本日の修学旅行はなんといっても夜です。でもぼくたちの部屋は普通の夜を過ごしました。こんな生活を二日間続けたわけですが、いろいろなことを身につけました。同時にみんなのくせや性格なども知れて本当によかったです。印象的なのは、T君のゴーガオーというびきです。なかなかおもしろかったです。

修学旅行をふり返ってみるといろいろな事があった。まず十一月十日の朝、電車が混んでいて、一本遅らせたおかげで東京駅にも少し遅れて着いた。新幹線の長旅を終えて広島に着いた。Y.M.C.A.ホールでの講演を聞いた後、平和公園へ行って平和記念資料館を見学した。そこには、当時の原爆の悲惨さを忍ばせるものがある。いろいろあった。中でも、被爆者の写真を見ず目をそむけてしまうようなものがあった。そして当時の様子がわかった。資料館を出て公園内をひとまわりして写真を撮ったりした。原爆ドームへも行って見学した。見学を終えて宿へ向かった。宿の中では、みんなうきうきしていた。そして、いろいろな話をしたりして楽しんだ。みんなの普段の感じとはまた違った性格が表われて、なかなかおもしろかった。そして案のじょう、夜も、話が盛り上がってあまり寝れなかった。二日目、三日目、四日目もおもしろかったが、中学時代に行った事がある所もあって一日目ほどではなかった。しかし中学の時に比べると段違いによかった。家に帰り着いた時にはさすがにぐすり寝てしまった。今思ってみると、修学旅行のどれかこれか思い出に残るようなことばかりで、もう一度行ってみたい気持ちである。

私は京都に行きました。

西沢 俊志

私は京都に行きました。ところが京都？着いた時私はとまどった。

京都駅から徒歩で旅館銀閣へ行った。そして大小をすませたあとグループ見学へ行った。まず三十三間堂だ。中に入っでびっくりした。次は清水寺だ。なにをかくそう私はただで入ったのである。次に二条城、二条陣屋だ。そこで私は生まれて初めて外人女性の〇〇〇をさわってしまった。大きかったよ。

夜は、ブリッジ田口とプロレスをやった。夜中はみんな平和だった。ドアにカンカラをしかけて、カンがたおれると電気を消してしずかにして先生をやりすごした。しかし失敗もあった遊びに来たやつが帰るのでドアを開けた時に先生が入ってきたのだ。それは長州力だった。みな気づかないで遊んでいておこられた。シーンとしている時にずっと「へ」をこいてるやつもいた。一番あたまたきたのは、私のクラスはみんなやろーばかりで暗いのにしもべのクラスは女の子とギャーギャーやってるのだ。「くそ」してねるべ、と私はつぶやいた。

よく朝、むすこよおきろーと旅館の太ったおばさんにふとんをはぎとられた。BUTむすこはすでに起きていたのだった。そしてムクと起きると私は便所に入っではてたのだった。うっそー。ふとんをとりもどしてまたねたんでした。

広島を訪れて

能登 祥文

この修学旅行で生まれてはじめて広島という都市を訪れた。世界で最初に原爆を落とされた街、このことは小学校の頃知ったと記憶している。それから十年近くたってはじめてその地に立ったのだ。でもそこは自分達が住んでいる街とはほとんど変りなかった。多少は何らかの原爆の跡でも残っているのではないかと思っただけ、自分の目に写ったのは、原爆ドームと、広島平和記念資料館の中で見たものだけであった。しかし、戦争が終わってからの四十年間、広島という街が、ここまで復興したのは、この街の人々の想像もつかないような苦勞があったからだと思う。

中国放送の記者の方の話を聞いてとても印象に残ったのが一つある。それは、平和記念資料館に行くところの入口を入っですぐのところ、きのこの雲の写真がある。そうすると、どうしてもきのこの雲の下で人々がどうしているのかを忘れる。ぜひ見てほしい。という言葉だ。今までに何度か、そういう写真を見たことはあるけど、そういうことを考えたことは一度もなかった。本当のことは被爆された人しかわからないだろうけど、そういうことを想像して、二度と原爆を地球上に落とすことのないようにしなければならぬと思う。

広島

国貞 晋

ぼくにとって、二度目の広島だ。昔のことはすでに記憶から遠ざかっていた。広島といえば原爆というイメージしかなく実際にも、原爆資料館や、平和記念公園その他原爆に関する講演しか行かなかった。

平和公園をひとまわりした。入口近くには、よく写真でみかける芝が両側に広がって、はとがそこらを飛びまわっていた。真中の道を通って階段で記念写真をとって資料館へ行った。そして原爆ドームを見に行った。そしてそのあと平和公園をぬけて市民球場に行った。となりの体育館で日本のプロテニスプレーヤーを集めた広島オープンをやっていたのでのぞきに行こうと思っただけで入場料が高いので川ぞいに平和公園にもどった。

順序は逆になってしまったが、Y M C Aの講演のことも書いておくことにしよう。講演のなかばごろから眠ってしまい終わりごろに目がさめた。そのあと草加せんべいをもっておいかけるのがつらかった。

広島でのおもいではあまりなくこれだけ思いだすのは苦労した。

定するものだといいことをあらためて感じた。

修学旅行に行つて

佐々木 清

今回の修学旅行は、はっきり言って期待していなかった。なぜかという、広島はともかく、京都は中学の時に行ったし、僕は、寺や宗教などは、全く興味がなかったからだ。

しかし、事前のグループ行動の計画などを立てているうちに、例えば、その寺がどういふわけでそこに建ったかとか、どうしてそんなに苦労してまで仏像を作ったかとか、そういうことがわかって、なんだか自分で行って確かめたいような、そんな気持ちになった。

さて実際行ってみて、一番印象に残ったのは三十三間堂の千一休の木像だった。こんなにたくさん、しかもこんなに細かいものを、どうやって作ったのだろう。こんなものが何の役に立つのか？と思っただけで、木像の曲線の美しさは、僕にそんな言葉を出させないほどの力を持っていた。

しかし美しさという点では、びわ湖の上にかかった虹のほうが美しかったと、思っている。やはり人間の作った美しさは自然の美しさに勝てないのかと思っただけ。

人生最後の修学旅行で得たものはたくさんあったと思う。ここに書ききれないくらい。

広島へ行った

田口康一

広島へ行った。まずはY M C Aホールで講演を聞く。もっと広いところかと思っただけ、二クラスだけなのだからこのくらいの広さで十分だろう。いろいろと聞いた中で印象に残っている話には、原爆をうけて亡くなった人が人間として死んだのではなく、物として死んだということ。聞いていてああその通りだなと思った。戦争で苦労に苦労を重ね、そして最後のときまでも人間として死ねなかったなんて。

しかし、よく考えてみると人間として死ねなかったのは広島の人達だけではないはずだ。特攻隊の人だって空襲で死んだ人だってそうだと思う。ただ一つ違うことは考える時間があつたかなかつたかだろう。原爆をうけた人達は何が何んだか分からないうちに、あつという間に焼け死んでしまったのだ。だから広島の人達はより物に近い死にかたになってしまったのだと思う。

次に平和公園へ行った。まず資料館へ入った。考えていたより小さかった。勝手に大きさを考えて決めてこんでいたようだ。資料館に入った人が多くて、じっくり見ることができなかった。印象に残っているのは被爆した人の人形とその人の話を録音したテープを聞いたこと。皮がはがれて……とかの話は聞いていたが人形を見てこんな状態だったのだなと分かった。テープを聞いていて、その話には一言一言原爆の恐ろしさがこめられていた。戦争は人間性を否

広島

新井 雄

修学旅行の初日、十一月十日、僕は原爆という恐ろしい物の実態をほんの一部ではあるが知ることができた。

広島駅に着き、原爆についての講演を聞くためにバスに乗りY M C Aへ向った。途中、ほんとうにここに原爆がおちたのか、と疑問がでるくらい、他の町と変わらなかった。しかし、講演を聞き終えて平和公園へ向かい、そしてバスの中から原爆ドームを見たときは、写真やテレビで見た時とはちがった圧迫感をうけ、広島のもう一つの顔をのぞきこんだような気がした。平和公園に着き、記念写真をとり、いよいよ資料館へ入館。まず大きな雲の写真があり、そして数々の当時の写真やいろいろな資料が続々と僕の目の中に入ってきた。多くの物はテレビや本や映画を通じてみたことのあるものだったが、生で見たのとはやはりちがう。三十八年前、自分が立っているこの広島のは、たった一つの原爆のためにすべてを焼きつくされてしまった、という事実を僕は改めて思いしらされたような気がし、また、二度とあのようなことにはいけぬのだという広島の人々の願いをさらに強くうけとめることができた気がした。

人がとても多くゆっくり見られなかったのが残念だったが、とてもよい経験になった。

広島感想

「まず、初めて広島に行つての第一感は何と云ふか。普通の街と変わらない。という事である。街中はビルや住宅でいっぱいである。しかし、これは現在の様子だけであつて、実際三十八年前に落ちた原爆の残したつめあとは今も大きく残っている。平和公園はそのひどさをまざまざとみせつけてくれた所だつた。思わず目をそむけてしまふようなやけどのあと、熱線によつて変化してしまつた屋根かわらなどの展示物があつた資料館や、その当時子供だつた人たちの書いた絵日記、その中に「長束から苦しまぎれに逃げ」など（長束といふのは地名）のしゅんドキツとされるようなものや一風変わった絵巻などの展示してあつた記念館である。Y M C A ホールでの講演でもそうだったが、「核」による影響がこんなあるとは思わなかつた。核による熱線、放射能、爆風などあらゆるものが人類に死をおよぼすものであることがわかつた。現在、アメリカ・ソ連・イギリスが核爆弾を設置しているが、この広島に来れば核を置くとかバカげたことはできないと思う。最後に広島の人々にいたいのが、冒頭で書いた通り「あの出来事からよくこゝまで復活に努力しましたね。今も病院通いしている人も将来を失わずに病気を治して、平和広島の町をめざしてください」と。

京都

今回の修学旅行で一番の思い出は、中学のときと違いグループ行動があつた点であらう。私はなんと「班長」という大役を気軽に引きうけてしまい、多少後悔したが終つてみると以外と楽だつたので助かつた。修学旅行を通して最も良かったのは二条城だ。中学の時は一時間ほど待たされたが、一般の人はすぐに入れるとは知らず気持ちよく見れた。うぐいす張りの廊下は、「しのびよけの廊下」ともいわれ昔は怪しいものが忍び込むのを音によつて防いだそうだ。ただ音色がきれいだからだと思つていたが、意外にも実用的な意味もあつたんだなあと感じた。一八六八年（慶応三年）十月、十五代將軍慶喜が諸大名を集め大政奉還を發表し徳川幕府二百六十五年の幕を閉じた歴史的な部屋である大広間一の間、二の間も素晴らしい。あそこにおかれてあつた人形もその時の雰囲気が出ていた。柱や天井を見ると二百五十年の年月を飛びこして江戸時代に来たような気がして言うことなし、そんな感じだつた。欲をいへばなかの写真が取れなかつたことが残念だつた。二回目の二条城だつたが、前回同様とても心に残つた。またいつの日かおとずれてみたいと思わせるすばらしい所であつた。

名言集

- 男子クラスの暗い夜 新井 雄
- でかけるときは忘れずに 石島 和明
- 夜楽し 夜暗し 石山 光明
- 飛天は逆に苗をもつてふいている 磯谷 悦久
- 三十三間堂？ 岩田 浩之
- ナイス 及川 一彦
- 落書コーナーのまちがいでしょ！ 大高 範久
- 企画つき 大山 桂
- 二条城は 広かつた！ 岡田 俊彦
- いまイチ 岡田 哲夫

グアテマラ

- みなさん、京都へ行ったら二条城へ行きましよう 小栗 秀
- 私は、二条城、外人女性と写真を撮りました 川瀬 国男
- 一番・必殺仕事人・闖魂 IN 太泰映画村 川村 英之
- 「話が合わないなあ。」琵琶湖にて 菊地 孝司
- 共同体の崩壊 国貞 晋
- 清水寺の舞台はとても高かつた。 頼瀬 智彦
- なんでもいいから 後藤 美夫
- つかれた 斎藤 義和
- I ♥ 二条陣屋 柵木 鉄也
- 金閣寺の金ばく、はがしたい。 桜岡 利雄
- おみやげに、なつたこづかい。 佐々木 清
- バリー 佐藤 明宏

京都でのおいしかったうどん定食。

佐藤 晋学
薬師寺で、拜んだら、雨が降った。カサがない。カメラがこわれる。

菅原 貞幸
「この旅行は一生の思い出になるだろうか。」とかくさい文句書いときゃいいんだろ？

相岡 謙
お前のせいだ！どうしてくれる新京極！
鈴木 勝也
二年四組二七番 鈴木誠ノ 三十六(三十三)間堂

鈴木 誠
おれが一体何をしたノ むごいしうちだ。
鈴木 学
富士山がきれいだった。

田口 康一
班長は 責任ばかり おわされて 俺を班長にしたやつをのろってやる
多田 裕一
だめだこりゃ

田所 博幸
おもしろかったけど楽しかった。でもやっぱりおもしろかった。
田中 伸明
でた、でた、バスプロノ！

田辺 賢司
大宮駅で買ったハッ橋
千葉 大助

無言

おもしろかった

頭がいたい。

書くことねえよ！

金閣寺は何度見たってきたない

ワンバンコ オムコオメオムコ

二条陣屋のしかけ、うちにもほしいノ

音無の滝は音がしていた。

自縛霊さん、お元気ですか？

山崎 修
広島のつっぱりあんちゃんとはくとはどちらが田舎もんなんでしょう？

不参加

新京極をせめないで

雨の日の散歩もいいもんですよ。

永井 隆

長岡 琢己

永塚 孝則

長束 裕行

中野 悟

西沢 俊志

仁平 成俊

能登 祥文

山崎 修

山中 隆史

若菜 健一

和田 学

山椒のつぶやき

猪瀬 洋一

また今晚も、ロビーに黒い頭が群がり始めた。マア人ノ金、ドコニ電話ヲカケヨウト構イハシナイ。と、いつまでも無関心ではいられなくなってきた。何やら無性に腹が立つのである。——黄色い受話器に向かって話しかけるその顔が、何と言おうか実に表情豊かなのだ。楽しそうなのは顔ばかりでない。そのポーズ全体から滲み出してくる。それも一人なら許せる。ところが全員がなのだ。——又しても裏をかかれた感あり。

東京駅での集合時間に間に合わず、残念ながら参加を断念すると思いきや、堅固な意志を貫き通した女の子がその第一号。大原からバスでの帰り道、人より先に年配の方に席を譲ってしまった誰か。宿を出発する時、布団をあげ部屋を掃除していった男子のグループ。……。

電話の料金箱には銀色の硬貨が何枚落ちていったのだろう。今回参加出来なかった生徒は十五人いたと聞いている。裏の裏を行くこととの切り札は十時を回ってから用意されていた。



おはよう
なにして

修学旅行を
20倍楽しくする方法

(引卒業員必携)

修学旅行

吉澤 順子

出発の朝、広島に向かう車中で、ともかく寝て行こう、と思った。急病人で夜中に起こされることもある。健康上心配な生徒には、事前におどしたり(?) すかしたり(?) 話をしてきたが大丈夫であろうか。案じられたが、その夜は初日のせいか大したこともなく過ぎた。

二日目、出発前からカゼ、その他で不調であった者に疲れがみえてきた。生徒の訴えを聞きながら、明日はもっとふえるかもしれない、と覚悟する。

次の日は朝からグループ別行動であったから、生徒諸君は張り切っていた。昨日から具合いの悪かった者達も参加できる状態になっていた。一安心。教員もそれぞれ巡回コースにつくことになり、私達は大原方面に出た。混んだバスで先ず三千院に着く。風が冷たい。よく太った身にはこたえる。庭園をながめると、何か白いものが目についた。山茶花が咲き始めている。二メートル位の木に花はまだ一つだけであった。

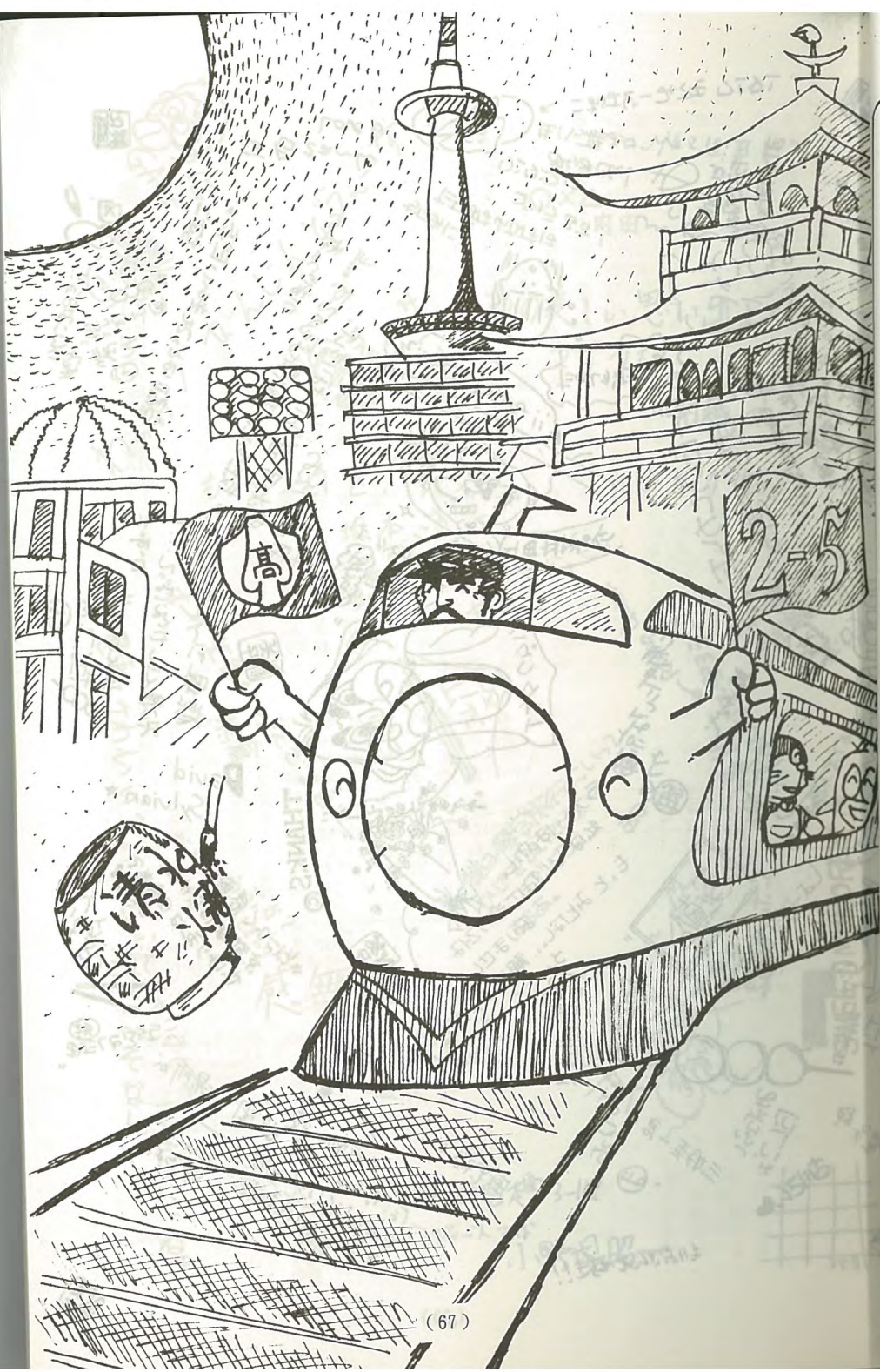
昔、小学生の頃、どうしてか、茶の花が気に入っていた。中学、高校生になると、野菊が好きになっていた。気付いてみれば、パッとしない花ばかり、ひいきだったのか……。

パッとしないといえ、私自身の修学旅行もそんな印象である。グループ別行動は全くなく、何クラスもが列をつくり、つながって

歩いた。どこの見学場所も旅行生であふれていた。私は最後のクラスの後ろの方だったので、大抵時間不足で、ゆっくり見学で。純情であったので(過去形) 目印の旗を見失って迷子になると、ついて歩くのに忙しかった。修学旅行で一番よく見てきたのは、旗のような気がする。

予期に反し三日目は生徒からの愁訴は少なかった。グループで自由に行動している分には、はつらつとしたものである。ほっとして打合せの席にいますと、数人の女子がドタンバタンと(失礼) 病人のいることを知らせに飛び込んできた。一大事、と思われたが……。気持ちはよく分る。

そして、最終日、クラス別見学では三十三間堂へ。早朝のためか他校生はいなかった。薄暗い堂で千一体の群像に向っていると、自分のような者も救われるのではないか、と不思議に安堵感がわいてくる。身勝手を、菩薩の口元はほほえんでいるのだろうか?





あーっ！

アキバのイベント！

もう一日も！



坂本さん！



GAG

猫にコンビニの場所を指定

先生が呼ぶところ

無量... ASOU

くさい風が吹いた塩次

越谷市官棚 3-118

口遊スズキ

小野塚昭

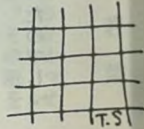
○×△ 内田

あの美しい思い出は さようなら

これがキグダ！



SWEET MEMORIES



アキバのイベント！



アキバのイベント！



アキバのイベント！



アキバのイベント！

あっといっ間の修学旅行

二年五組一班

◎岩水	幸治	麻生	芳彦
内田	勝	馬場	広文
山川	茂	柿崎	美枝
加藤	和子	武井	澄江
立花	若菜		

「どこに行きてえーの？ 私、清水寺に行きたあーい。それから神戸も。あーっ、これ食べたい、シュークリーム。俺、早く八ッ橋が食いてえーよ。なんていったって京のみやげは井筒八ッ橋だもんね。あら何言ってるのよ、八ッ橋だったら夕子よ。つぶあん入りよ。なあ、みんなで夜ばいしようぜえーっ……俺、奈良の大仏だけは絶対見たい。歩くからだいぶ疲れんだろーなあ。なっ……だとかなんとか、「古都の旅」などと全く無縁の欲望むき出し少年少女があーでもないこーでもないで討論しながら計画書をつくって期待に胸をふくらませた修学旅行もあっといっ間に終わり、「想い出」というものに変身してしまった。

これからのページには、自分達一人一人のそういった想い出、あるいは化学の実験レポートよろしく反省や感想などが書かれている。もし、奈良で焼きいもを食ったりした食いしんぼうなギャルなんかがいればそのヒトは食べものを書くてるかもしれないし、何

馬場 広文

修学旅行から一ヶ月近かった今、修学旅行について思い出すことはいろいろあるけれどやはり初日に行った広島だろう。広島は初めて行った所だったし京都や奈良とはまったく違う所で、テレビで見る広島とも違っていた。街並は戦争の跡をまったく感じさせないきれいなもので、平和公園はその名の通り平和な感じだった。平和公園は世界でも重要な公園だと感じた。

内田 勝

あれだけ準備期間を長くかけたのに、修学旅行はたったの四日間だけ。計画していたことも、ろくにできず、残るは悔いばかり。だけど、そんな中にも、いくつかの思い出ができた。予定の半分も実行できなかった奈良、一日かけたのに、結局行ったのは、飛鳥寺と東大寺。今となっては笑い話である。面白かったような、つまらなかつたような修学旅行だった。

山川 茂

二日目と三日目のグループ行動は、ただいって券を買って出て来ただけのような感じがした。特に奈良はお寺を二つも減らしたのに全然余裕がなかったのです。やはり計画の段階でのミスだったと今頃になって後悔している次第です。

にも考えないで、「ド

ウオーシタンダッ、Hei, Hei, Baby」

だとか「ドウダイツ、踊ラナイクワァーッ、ヨーコンオォーッ」と帰

りの新幹線で絶叫してたヒトは絵を描いたりするかもしれない。

そのことも念頭において、さあ、あと10秒で

始まるから、みんなしっかり読んでくれ、9秒前……5秒前、4、3、2、1、0ノ



麻生 芳彦

わざわざ急行で一時間、さらに駅からタクシード行っただにもかかわらず、たいした寺でなかった飛鳥寺にはがっかりした。あんなに時間と金をかけて行って得たものは何もなかった。老人の女性と、写真をうつしただけであった。やはり、一日かけて奈良へ行ったのは、まちがいであったのでしよう。

立花 若菜

いやあーまいった、まいった。実はこのために土曜日の夜せっせか書いた、といっても文章ではなく、すべてカットだが、その紙をお家に忘れてきてしまったのである。その悔しさと悲しさと情けなさでetcで、今胸が詰まって呼吸困難に陥ってウィップススベポラップぬる鼻水菜によって、甦った切り花となって立花は輝いている本根を言えば「明日持ってくるからまって」

柿崎 美枝

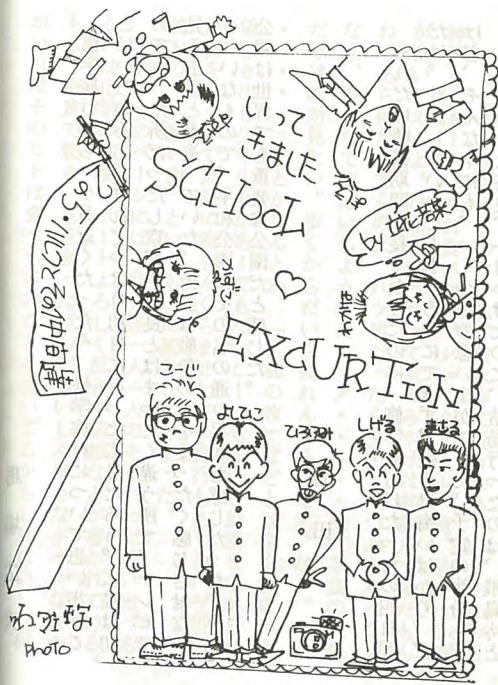
私が今回行った所はほとんど中学の時行ったところだった。行くまではつまらないかもあると思っていたのが実際すごくよかった。自由だったし知っているだけになつかしさもあったりして……

ただ計画を果たすために必死だったから、忙しかったのであんまり寄り道できなかった。せっかく「京の美味を探る」というテーマだったのになあ。でもその分太らないですんだかもしれない!?

加藤 和子

「京の美味を探る」というテーマにもかかわらず、京都らしいものを食べずに過ぎていった修学旅行……。とても楽しかったけれど、唯一それが悔やまれる。東大寺へ行く途中、道を尋ねたのに話を聞いていなかったの、行ってしまったおばさん、ごめんささーい。

一言で言うと、楽しくて短かい旅行であった。グループ行動の時も時間に追われて、ただただ忙がしいだけだった。でも、特別な事も起らず無事に帰って来たのでよかった。しかし、最大の失敗は立花とかいうだれかさんが、大仏の鼻の穴サイズの柱に過ちで入りぬけなくなってしまったことだろう。あの時、そのまま見放していたら、いまごろ彼女は、奈良の新しい名所となり、皆に喜ばれていたことだろう。



ザ・班行動ー涙の旅路

二年五組二班

- ◎鈴野 高志 奥間奈々美
- 小野塚昭一 清水 方代
- 塩次 浩一 田口知寿子
- 山田 誠 畑名 敦代
- 安田智恵子

計画があまりにも繊細に作られていたためか、まるで絵に書いたように行動が進んでいた。これは我々としてはある意味ではいい事なのかも知れないが、どこかで予定外の何かが…突拍子もない事が起こる事を、班員皆心の中ではひそかに期待していたのではなかったのだろうか。

それが、青春の班行動もいよいよ大づめに近づいた二日めの嵐山で、まったく予定にもなかった『ボート乗り』という形であらわれた。計画書には、ボートのボの字もなかった、にもかかわらず、誰一人反対しなかったこの改革的企画は、前述したあの「ひそかな期待」を証明しているのではなからうか。

我々は決して後悔していない。むしろ、最後の土壇場で計画をぶち破ったことを喜び微笑んでいるのだ。嵐山の、あの美しいまでの紅葉を映した川を後に、我々の頬は感動で濡れていた。(班長・鈴野)

みんなから一言

○小野塚だヨ~~~~ん。
「ばかやろう、もみじなんか、もみじなんか。」
そう言ってもみじを見た時、自分は、もう何も言えなくなってしまいました。
「青春や、これが青春やで。」
鈴野君が言いました。

○塩次
竜安寺のあまりの狭さにびくくらこき、あまりのあたたかさとお腹のうどんでねむたくなってしまう。
それにもめげず嵐山に行ったのに、嵯峨野へ行けなかったのは残念しごく。ボートで二人に水をかけたのですみませんでした。

○山田
金閣寺を見た時、「なんて美しいんだ、おれの心のようだ。」と思った。その裏は金箔がはげてきたなかつた。
やはり金閣寺はおれの心そのものだと思った。さらば青春の日よ、おれは決してこの日を忘れはしない。グッスンノ アーくせよ。

○奥間
わたしは、宇治平等院のそばのお茶屋さんで、ほうじ茶の熱い

お茶っ葉を食べた。おいしそうだと思って食べたのに、あまりおいしくなかった。こんなバカなこと、他の人には知られたくないと思っただけ、何も書くことがないから、書いてしまった。

。清水

のんびりして、ダッシュして、死の谷にはまって、見せ物になって、道に迷って、説教されて、いくつかハプニングがあった。これが班行動のまとめ。

。田口

京都で私が感動したもの——美しい紅葉・階段のついでに電車・無人駅・電車の中で聞こえた京都弁・お昼に入ったうどん屋さんのお茶碗・桃山城へ行く途中にあった閑静な高級住宅街。

。畑名

宇治で買った、京都の『おのみやす』つられて買ってしまっただけどまだ残ってるという事実、ついでにそこでたのまれて買った抹茶なんかまだ封も切っていないという事実。でもくさらないからいいけど……。

。安田

「ザ☆班行動」私が忘れられないのは昼食。あの竜安寺近くで食べた『きつねうどん』は忘れられない。手打ちうどん、おつゆもとってもおいしくて畑名さんとおつゆのほとんどをのんでしまった。これは食べた人でなければわからない話。



▼ 恐しい程決まったぜ

▲ 愛と夢の平等院



▼ 「今何時？」
「きんかくじ！」



▲ 盛り上がった
修学旅行！



班行動の感想

二年五組三班

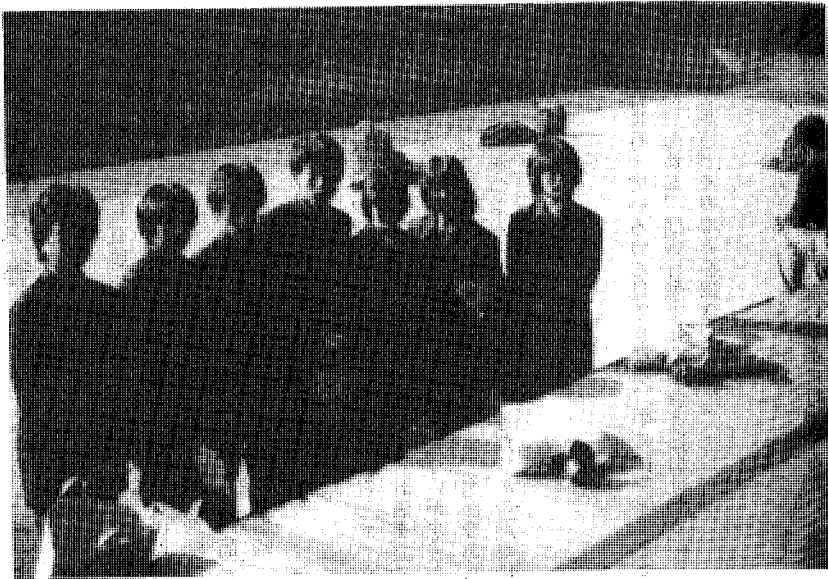
- ◎ 渡辺 淳一 古口三千代
石塚 勇人 小張 智子
折原 孝司 杉山 夏三
久志 芳治 宗森 裕子
熊倉 純一

事前、計画を立てる時点で大原、嵯峨野に行くことはすんなりと決まった。しかし、時間を組み込んだ具体的な計画は半分、掛けのつもりで立て、第一、二計画書を仕上げ、そのまま修学旅行に臨んだ。

一日目の大原では、バスターミナルを間違え、危うく別方面のバスに乗ってしまうことがあった。また三千院から十分ぐらいの所に音無の滝があるとガイドには書いてあったが、結局どこにもなかった。

二日目の予定では果たして五時までに戻れるかどうかかわからなかった。実際、午前中は計画より一時間ぐらいの遅れで後の予定が難航となったが、ほぼ予定を削減することなく終えることができた。

。班行動は、予定通り進められた。修学旅行は、予定通り進められた。



。修学旅行が終わっても班長だけ仕事があるとは何事だ。渡辺淳一
。少し盛り上がり欠けたが全体的にみて、まとまったいい旅行だ
った。 熊倉純一

。いばでもばぶたをとじると修旅のおぼいでがせんめいによびがえ
ってくる。 折原孝司

。まあまあ楽しかった。それも思い出だ。 石塚勇人

。音無滝のバカヤロー。我々は、君を求めて走ったんだ。滝のくせ
に俺達をなめるな。 久志芳治

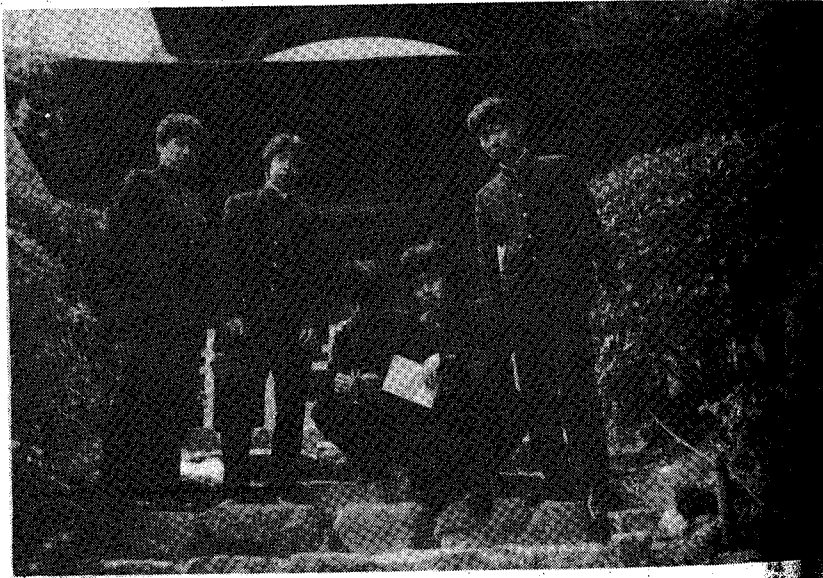
。せっかくの修学旅行だったのに遊ばないで寝てしまった。バカな
私。でもあのおじーさん事件は一生忘れられない出来事になってし
まった。 小張智子

。修学旅行の間ずっと『怪物くん』の歌にとりつかれてしまった。

宗森裕子

。小倉茶屋で、わらび餅を食べていたおじーさん
おとしたのまでおいしそーに食べてカウユイノ 杉山夏三

。夜は最高ノ 古口美千代



計画の反省

二年五組四班

◎村越 秀樹 尾城りえ子
恩田 隆行 齊院由紀子
小林 純 福島 美江
須貝 泰輔 松崎 真弓
佐藤 郁夫

計画を立てたのが、早かったためか、あまり自覚してやらず、ただ計画書の提出期間に間に合えばいいと思って、計画を立てたので実際、行ってみて実行してみると、計画がうまくいかず、もっとよく立てておけばよかったと後悔した。それでも、名所をあまり回らなかったで、そのぶんゆっくりと見物できた。その点だけがよかった。

。村越

修学旅行に行っている見てきたが、中には中学のとき見たものもあった。しかし、団体行動で見ると自由行動で見るとでは違うと思う。そのことを認識してきた。

。須貝

無理なことだが、だれもない京都に行ってみたいと思った。

ちょっとしたものですねえ。

なんといっても心に残ったのは、新京極で買った「くつ下」ですね。黒いくつ下をおこられて……。

その他いろいろございました。

ともあれ、過ぎ去ってみれば残るは何とやら。

楽しかったことにおきましようか。

。齊院

ボートとだんご……これに尽きる！

後のことは、忘れた……と思いきや、旅館でとったあの写真は何なんだ！ ムフフ♥ウツソ！

天竜寺のコイ………そーゆーのもいたネエ、弱肉強食の世界みただったから、思わず私は小さいコイの味方です。でも、みんなが小さいコイの味方したら、大きいコイは飢え死んじゃうんじゃないかなあ。

胃を大きくしに行ってみたいな、京都・広島の旅だった。

。松崎

今まで行った修学旅行の中で一番楽しかった。でも、京都ばかりだったから、もっと広島にもいたかったし大阪とか神戸も行きたかった気がする。横着しないで、もっと遠くへ足をのばせばよかったな。あーっ!! もう一回行きたい!! 年に一度にするべきだ。

。福島

あっ……という間に行ってきた……、という感じで、すごく

。恩田

前もって計画は念入りに立てたはずだったのに、やはりすこしきつかった。旅館では、ちょっとしたアクシデントがあり、いまいち盛り上がりかけた時もあったが、嵐山の紅葉などはとてもすばらしく、けっこう楽しい修学旅行だった。せひ秋の京都にもう一度行ってみたい。

。小林

広島之夜、私は担任の先生にお叱りを受けたのでありません。しかし、とても優しい先生でしたので穏便な処置で済んだのであります。

——めでたしめでたし——

。佐藤

広島の旅はきたなすぎる。世羅別館だった連中に話を聞くと、そのあまりの違いに驚く。推定すると、五千円くらい……。

俺たちの修学旅行は管理されすぎだ。あまりにも自由がなさすぎた。ゆえに、期待していたほど思い出も残らず、せつかくの旅行もだいなしになってしまった。若干、ギャグのねたになるような出来事があったけれど……。それでも、すんでしまったこと、よしとすっか。

。尾城

何といっても、三千院のだんご、おいしかったよ。

天竜寺のこいもかわいかった。あのえきを与えるときの優越感

あつなかつた。でも、ゴッソリたまった写真を見ると、思わず微笑んでしまうものばかりだね。なんといっても、あの団子の味は忘れられない♥ 闘魂ばんう、欲しかったなあ。



by Fucchi

修学旅行を終えて

二年五組五班

◎木原 真一 遊馬 昭路
坂本 篤史 安達 雅恵
庄司秀一郎 尾花 純子
高坂 剛 紺野恵美子
広田 祥子



★ 全体の反省

やはり計画通りとはいかないものである。我々五班は、班行動を総じて計四つの寺に行くことができなかった。とはいえ、その行動も何かせわしなかったような気がする。計画を実行できなかった反省として、計画をみんなで立てなかった、という点が挙げられると思う。班長だけがぐんぐん先にやっけてしまった、「ねえ、これでいい?」「うん、いいよ、別に……」という感じであった。当日も班長がいなくては何もわからない、という感じが強く、そのため班員の「計画を実行する」という意識が弱い。そして「もうあそこへは行かなくていいよ」ということがおこってしまったのだと思う。これは班長の責任でもあるし、班員の責任でもあると思う。もっと互いに協力して行なうべきだった。

うことができなかったような気がする。せっかく高い足代を払っていくのだから、日程短縮はどうかならなかったのだろうか……

★ 班員から一言

。木原 真一

本当にあつという間でした。これが一生に一度の修学旅行かと思うと少しものたりない気もするけど、だけど今は楽しいことだらけの中にいるからわからないけど、遠くへ行ってからふり返ればきっと素敵な思い出として写るのでしょう。ま、それもいいけど、できれば年はとりたくないものです。——素晴らしい思い出をくれた仲間達に感謝します。ドーモアリガト。

。坂本 篤史

修学旅行に行く前、きたいしていると、あつという間に終わってしまったと思うことになると、修学旅行なんて、たいしたことじゃないと、心にいい聞かせていたのに、やっぱりあつという間に終わってしまった。やはり三泊四日は、短いなんでもんじゃないかと思ってしまう。せめてあとまる一日広島をまわりたい。半日じゃ行つたうちには足りないと思う。

。庄司秀一郎

旅行に行くときはいつもそうで、あたりまえだが、行く前はとても待ちどおしいが、いざ来てしまうとあつという間に終わってしまった。

う。今回の旅行もそうだった。

ところで、全体を通して思ったのは、もともと広島の見学時間、長くしたらよかったのではないかと。なにが何の気もなかった。でもこの旅行は一生の思い出にしたい。

。高坂 剛

修学旅行全体の感想として、三泊四日では短かすぎたと思う。せっかく広島まで行ったのに少ししかいらなかったし、京都でももっと行ってみたいところがたくさんあった。

清水団地での清水焼は、色がうすくしか出なかった。もっと濃くぬればよかったと思った。

。遊馬 昭路

修学旅行をふり返ると、本当に楽しかったことしか思い出されない。でも、ただひとつ悪い所をあげると、忙しすぎたという事だろうか。乗り物の乗りかえだけで、多量の時間を消費してしまったのである。私達ギャルズとしては、もっとゆっくりにぶらぶらしたかったなあと。悪事もう一つ、大勢の人の前で、鹿に追いかけて来てギャーギャー騒いだ事、思い出したくもない。

。安達 雅恵

四日間がすごく短かったと思う。ただ、乗り物時間が多くて、見学するのにも時間がなくて、行けなかった所があったのが残念だった。奈良では、雨が降ってすごく寒くてみじめだった。鹿もしぶとくついでに鳩もしぶとくかわいかった。広島の旅館は感動した。

2-6

清水焼の湯のみ茶わん、せっかくしぶく竹で決めたのに、出来上がったのが期待はずれで悲しかった。

。尾花 純子

最高の修学旅行だった。おじいさんが作ってくれたおはぎの味、忘れられません。

。広田 祥子

とっても楽しかった。おはぎがおいしかった。また行きたいなあ。

。紺野 恵美子

あっという間に四日間が過ぎてしまっあ終わっちゃったんだなあ、という感じです。反省といえば、おなががすいたとか、あっちへ行きたいとかちょっとわがままを言ってしまったことです。

もっと多くの場所を見学したかったという気もするけど、とにかくいろいろなことをこの旅行で学んだ気がします。



旅行記

二年六組 一班

11月11日、我々越谷北高二年六組探険隊第一班は、一路嵐山へと向かった。京都駅から乗り込んだ山陰本線はたいへんすいていて、可愛い女の子も何人がいた。隊員達は大阪スポーツを見ながら探険に出る緊張をほぐしていた。嵯峨駅に着いた。一行はすぐにレンタサイクルへ行った。そこで見たものは、(ジャッキー)隊長がいっつも家で乗っているのと同じ自転車だった。奇跡の出会いだったその自転車を隊長は借りて、探険隊は出発したのだ。嵐山は非常に混んでいた。人、人、人。それはまるで人間の樹界に迷い込んでしまったようであった。その人間樹界の中で、隊員が二名、行方不明になった。隊員達は焦った。この人間樹界の中ではぐれてしまつては二度と会えないかも知れない。しかし、チームワークの良い一班は無事行方不明の隊員を発見して、秋の嵐山の探険を続けたのである。辛うじて予定のコースをこなして再び嵯峨駅に着いた時には、隊員達の顔に疲労の色が浮かんでいた。

ようやく我々探険隊は宿舎に到着した。隊長以下隊員達は、疲労の色を隠せなかった。風呂に入ってやっと疲れがとれた。

翌日、大阪へ向うべく京阪線の七条駅に向った。行く途中、高瀬川を隊員の一人が見つけた。そして急行に乗ること45分、天満橋駅に着いた。隊員達の目には、期待の光がみなぎっていた。まず大阪の第一目的地、大阪城に向うことになったが、それからが大変だ

大熊・中沢・斉藤・森田 秋山・館の思い出

二班一同

グループ見学の第一日目、ぼくらは東山へ行きました。とても混雑していました。学生服が長い人や、鋭い目つきのお兄さんもいました。無視していました。清水寺をあとにして、とても趣き深い二年坂にさしかかると、後ろから女の人が、私たちを呼びとめました。見ると三人組の女の人が立っていました。その女の人の、ぼくらの班のある人○○○が、返事をし、おもわず写真をとってしまった。その時の顔といったら、もう口に表すことができないほどでした。まったくどうしようもないやつです。その理由がもう一つあります。それは、その女の人の写真を送ってくれたのまれたのにかかわらず、その住所を書いてある紙が消滅してしまつたのです。ではその写真は、何に使うのでしょうか森田君!!私思うには……。やはり、やめときましよう。(いきなり、口調を変えたのは、中沢です。)

そのあと円山公園に行った。そこは別に何か特別なものがあるわけではなく、ただ休むためにあるようなものであったが、先をいそぐぼくたちは、写真を写しただけでそこを去ってしまったのである。そして八坂神社へ行ったのでありますがそこには、とてもさびしく墓がならんでいました。そして、そこを歩いて抜けていくと、本堂があった。そこでは、ちょっと馬鹿みたいな写真を撮りました。そして、また次の目的地にいそぎました。次の目的地は、銀閣寺

った。城内に侵入したところまではよかったが、人は多いし階段だらけ。疲れてきたところで再び隊員の一人が姿を消した。我々の必死の捜索により彼は救出されたが、よくよく姿を消す隊員である。今後要注意だということを悟った。天守閣からの眺めは素晴らしい。しかし我々の行手には新たな試練が待ちうけていたのだ。隊員たちのやすらぎも束の間であった。地下に潜った途端電車を乗り遅れるという危機に直面してしまつた。我々はその危機から脱け出し、第二のメイン目的地である四天王寺に到着した。そこを無事に切り抜け住吉大社へ向った。そこで隊員五名が「安産の神」に祈ってしまったというミスをしてしまつた。しかし残りの一名によつて五人は無事助け出され帰路についたのであった。かの地でけつねうどんを食べ損ねたのが心残りであった。隊員達は何かだかんだブツツ言いながら宿舎に着いた。そして速攻で風呂に向った。隊員達は空いていると思いきや、いきなり意表をつかれた。ドアを開けるとそこは男達の秘密の花園と化していた。それでも皆くじけず、部屋に戻りジャイアント馬場の試合を見て爆笑した。その夜、隊長は新京都で大金を落とした。その時、隊長の髪は普段に増して逆立っていた。隊員達はこれらの体験をもとに、明日の川口浩を目指して羽ばたかろう。

でした。みなさん、つまらんとおつたが自分はとても趣き深くって良いところだなあと思うしだいでした。銀閣寺の境内を歩いていたら一本はずれている道があったので、いってみると行き止まりだった。銀閣寺をあとにした私たちは、哲学の道を歩いてバス停まで行つた。哲学の道は、はっきりいってただの道です。しかし横に川がながれていてなんとなくよかつた。そこで、仁がずつとはしゃいでいた。

バス停に着くと、学生がたくさんいた。私たちは、バスを待たが、なかなか来ない。とうとうタクシーで旅館に帰る事となった。タクシーの中で、運転手に、「長旅は、つかれるやろ」と聞かれ、生返事をして、メーターばかり見ていた。運転手も、「つかれた」とか言って、相うつかれています。そして、旅館に着いた時は、先に、タクシーに乗って行つてしまつた三人より早く着き、私たちは、「勝った」という充実感でいっぱいであった。

そして、紅葉が大変趣き深かつたグループ見学二日目はとばして、いきなり四日目の最終日。私たちは比叡山根本中堂と琵琶湖大橋へいった。この日、最も良かったのはあのバスガイドの沓掛春美さんよかつたなあ。帰りのバスはみんな疲れて寝たけど私はずつと起きて、沓掛さんの、とんでもない所で間をおく新米丸出しの話を彼女の自信なさそうな瞳を見ながらずつと聞いていた。

班行動の思い出 ― 時間との戦い ―

三班

11月11日、班行動の一日目である。午後一時、我々三班は京都駅前、バスターミナルから竜安寺に向った。バスにゆられて40分、さうら歩いて約10分、竜安寺に着いた。時間を気にしながら石庭を見学し、紅葉の美しさを満喫して寺をあとにした。

次に我々三班は急ぎ足で金閣へ向った。みんな必死に歩いた。時間との争いである。途中、立命館大の前を通ったら、屋上で変な学生が我々の競争を見て、声援を送ってくれた。実に京都の大学生はユニークで楽しい。

金閣寺についてはほとんどのつつかの間、そのまま休みなく金閣寺の見学である。この時に一日目の集合写真を撮った。後で分かったことだが、この写真、誰が誰だか分からなくなっていた。要するに光量が足りなくて、人間が皆真っ黒に写っていたのである。

不幸は続くものである。金閣寺を後にして、我々は銀閣寺へと向った。が、銀閣寺へ行くバスは遅れていたののである。停留所で待つこと30分。その間に行った他方面のバス八本。やっと来たバスに乗り、銀閣寺道という停留所についた。ここで、旅館に帰りが遅くなるという電話を入れた。その返答。非情にも、銀閣寺を見ないで帰ってこい。この瞬間をもって、我々の一日目のテーマはもうくも崩壊した。そして、重い足をひきずって旅館に帰ってきた。

二日目。昨日達成できなかったテーマを、今日こそは、と我々は勇んで定刻より10分はやく7時50分に旅館をあとにして近鉄京都駅

へと向かった。

乗り換えをせずに近鉄奈良駅に到着。幅の広い歩道の傍らで、時間に追われて急ぎ足の我々など気にも留めずに悠然と体を休めている鹿たち。通り雨で意に反して野郎と相合傘をしてしまった奈良公園。三脚使用禁止にもめげずに撮影していた大人たちの大仏堂。山水を飲んでしまった馬鹿鹿のいる二月堂。そして何もなかった三月堂をあとに我々は大阪城へと向かった。大阪城は静けさを思わせる私の期待をみごとにうらぎり、四百年まつりと名をかえた、遊園地と化していた。どこを見ても、昔のおもかげは見られず、とてもわすれられない思い出となった。あと、本場のなまりがうつってなまってしまった人もわすれられない。

我々は人ごみの中を、まるでジャンゲルの奥へと進むようにかきわけ、天守閣へと上がった。早く上に行く。これが目的であり、途中の展示物を見る者はいなかった。最上階からの眺めは、「大阪」を、改めて感じさせるものであった。

いろいろなことがあった一日半の班行動、みんなで協力し合い、そして、一人一人多くの事を学び取って来たと思う。また、高校生時代の良い思い出の一つとなるだろう。

修学旅行の作文タゼー

四班

第一日目に広島に行った。今から三十八年前に原子爆弾が投下された世界最初の街であるが、今ではその面影がまったくない。平和公園はなかなか広くてきれいな公園だった。原爆資料館には原爆の資料がたくさんあり、原爆のすごさを知った。おそろしいものである。もう戦争は、いやです。

第二日目は班行動。清水寺は思ってた以上に旅行者が多かった。そこから町を見おろした風景は何ともいえないくらいすばらしい。さすが京都の名所だけあって旅行者が多かった。(Kが迷子になった)

銀閣寺は清水寺と違ってあまり旅行者はいなかったみたいです。思ったより庭園が広く、木々がおいしげっていた。名物のあの黒っぽい建物は思ったよりあざやかだった。金閣寺のようなはなやかさはありませんが、静かなおもむきのある建物でした。

第三日目は比叡山を見物した。そこで京福電鉄という電車を利用した。その電車は一両編成という、いわゆるローカル私鉄なのだが、これがなかなか古都・京都にピッタリ似あっていると思う。比叡山頂にのぼるにはケーブルカーとロープウェイを利用しなくてはならなかった。ケーブルカー・ロープウェイからの景色は、紅葉がなかなかの美しさだった。比叡山頂はこれといって名物というものはなく、展望台、博物館があるくらいだった。この日はさわやかに晴れたがやや風が強くはだ寒い日だった。

平安神宮はかなり大きな建物で、かなりすっきりとした建物だった。さすがに旅行者が多かった。なかには七五三の人たちもいた。

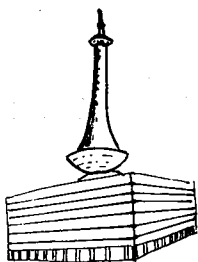
最終日の第四日目はクラス行動。そこで延暦寺を見物した。寺の中はかなり寒く、そこで正座をさせられてお坊さんの話をかなり長いあいだ聞かされたのだからたまらない。かなりの人たちが足がしびれてグッタリした表情だった。

琵琶湖に近づくにあざやかな虹をみる事ができた。そう虹なんぞめったに見ることはできない。虹はめったに見れないだけあってなかなかうつくしかった。

二時四十一分、ひかり号は京都駅を出発した。三日ぶりの東京だ。何時ごろかはおぼえていないが、夕やけ色に染まったあざやかな色をした富士山を見ることができた。写真を撮る者もあった。

五時三十分、有楽町付近に着いた。修学旅行がまもなく終わろうとしている。

五時三十分、終点東京着。みんながグッタリと疲れているようでした。



旅行記

五班

初日の夜、すなわち初夜、私はこわかった。セクシーN君は、大変に不思議な行動をしたのだ。寝ているうちにパ〇〇を脱げるのは彼だけであろう。思わずカメラのフラッシュで「フラッシュゴードン」をやりたくなったのである。けれどその夜は無事に明けた。しかしその次の夜、彼はパ〇〇を脱いだ上廊下に出てしまった。そんな夢を私は昨日見た。私は彼のあの夜目にもまぶしいムチムチした白い肌を忘れることができなくなってしまった。最初の自由行動は、時間に追われてたいへんだったが、無事に帰ってくるのができた。次の日は半日の自由行動であった。金閣に行った。そこには金閣がちゃんとあった。思ったよりきれいだった。そこで撮った写真は私が一番、いや二番目に写りが悪かった。もみじもきれいだった。竜安寺に行った。金閣からだいぶ歩いた。思ったより小さな石庭だった。怪談、いや階段で、皆で集合写真を撮った。そして私の首だけ何故か写らなかつた。仁和寺に行った。広い。時間がない。ある一つの建物(名は忘れた)の中と五重の塔を見てバスで銀閣(旅館)に帰った。

実質六畳。そこに七人寝ろというのだからたまらない。

夕食前。まわりの部屋には、宴会をやっていた部屋もあったが、私の部屋は、静かに、夕食がくるのを待っていた。よーするに、暗い人ですな。

ところで話わかるが、この旅館の名前はかなり安易だ、『銀閣』。なんだこれはノつけりゃいいってもんじゃないぜ、まったくぼくとしては、もうちょっとマシな名前をつけてほしかった。(なんのこっちゃ)

話は戻って夕食のあと。

別に、たいした出来事もなかった。くだらん話して、ぼやーっとテレビみて終わったんじゃないかなーか。

あ、そう言えば外出があったが、めんどろだから省略。あんまり感動もしなかつたし、それほど楽しいとも思えなかつた。ただし、旅館内では、いろいろとあって、なかなかひまつぶしになった。



修学旅行

X班

修学旅行...。それは、暴力で始まり、暴力で終わった。
。広島にて

夜、いきなり部屋のドアが開いて、二組の某H君の顔が見えた。その次の瞬間、突如として襲ってきた座ぶとんの雨と狼たち、思わずふすまを破ってしまいました。(おぼん・電話台・畳・等々)きつかわの方どうもすいませんでした。これもすべて二組が悪いんです。これを繰り返す事、数回...。こうして広島之夜はふけていった。

。京都にて
修学旅行決戦も残す所、数回、戦士たちの士気も上がり戦いはより激しい物となった。につき二組は一組や三組をひきつれてきた。なまけないクラスだ。戦う事、数回、二組野球部の某H君、柔道部の某S君などは、そうとうな反撃をくらったようだ。特に某H君などは、パンツまでも脱がされてしまい、戦士たちの熱い視線をあびていた。我々が思わず目を背けたのは、言うまでもない。この間、何度となく、共学の男子部屋を襲ったのだが、あまりにも情けないので、意気消沈、シラケてしまった。共学は、どうして、あんなにシラケているんだろう。それとも男クラの我々が、おかしいのだろうか? とにかく、ワイルドかつバイオレンスな修学旅行だった。

修学旅行記

七班

プロローグ

我々は、十一月十日、遂に、修学旅行出発の日をむかえた。新幹線に乗った時誰からもなく「さあ行くぞ」という声をかけ合えた。みんなの目は期待と希望で輝いていた。B君はさっそく弁当を食べ始めた。そして、満腹になったら眠ってしまった。S君は熱心に本を読んでいた。午後一時三十分頃、我々は、広島土を踏んだ。広大に行った後、平和公園に向かったが、鳩をとつかまえて、焼鳥にしようなどという者がいた。記念館では原爆の映画を見たが、とてもこの世のものとは思えない惨劇だった。その後、旅館へ向かったのは、火を見るよりもあきらかである。ちなみに鳩をとつかまえて、焼鳥にしようなどと言ったのは、A君である。(一完)

第一部

きつかわ旅館での夜は暗く、しかし星が輝いていた。(二完)

第三部

きつかわ旅館で友人のA君は夜中に、「腹がへったな」と言っていて、紙に餅の絵を描いて、その絵をムシムシと食べてしまった。彼はついに絵に描いた餅を現実の餅としてしまったのである。ちなみにA君は「今夜は徹夜するぞ」と言っていて、最初に寝てしまったこととで有名である。(三完)

広島の感想

二年六組五番 五十嵐 正明

修学旅行の第一日は広島で我ら六組は広島大学原爆放射能医学研究所へ行った。そこで、えらい人かどうかは知らないけれど、とにかく、その白衣を着た人のお話を聞いた。

お話を聞いた部屋はそんなに広くないのだけれど、一番後ろにすわっていたばかりには一つ一つの文の終わりが聞こえなかった。

お話はそんなに長くなかったので早く平和公園に着いて写真を撮って資料館の中を見学した。

資料館の中はあまり気持ちのいいものではなかった。特に写真はすごかった。原爆のすごさがよくわかった。二度とこのようなあやまちが起らないでほしいなと思った。

そして、映画を上映していたそうだが、とても映画まで見る気にはなれなかった。

自由時間、平和公園を歩き回って見たがあまり見るものがないので三回も同じコースをまわってしまった。

原爆ドームを初めて目の前で見て、思ったことは、よく写真などで見ると大きいと思うけれど、実際に目の前で見ると小さいんだなと思った。

それから、ぼくたちは同じ所を何回もまわってもたいくつしてしまおうというので、広島市民球場へ行くことにした。

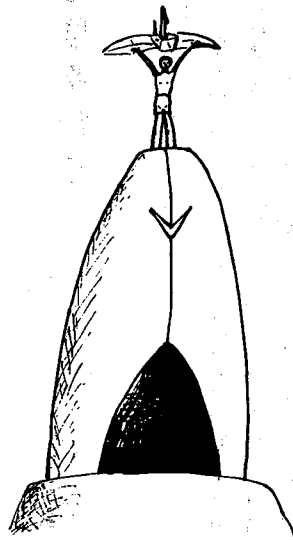
最初は中には入れないだろうなと思っていたが、やさしいガード

マンが中に入ることをゆるしてくれた。
入った記念にと、写真をみんなとったのだが、残念ながら、ぼくの腕の未熟なせいで写真にはうつってませんでした。
そして最後に、広島資料館などを見て、もう二度と戦争がおこらないといいなと思った。

おわり

ちなみに此の班の名言

園長 於イテ 清水一引レ凶ヲ。園長 破ル怒リテは一ヲ。
園長 日ハク「何如ト」乃チ自ラ刎ネテ而 死ス。



修学旅行感想文特集

大熊 優

11月11日 京都半日コース

旅館「銀閣」 。はつきりいって広島の旅館よりおちる。しかしなかなか。

京都駅 。乗り場をまちがえて危く計画がメチャクチャに、しかしすべりこみセーフ。バスに乗ったのはいいが、ものすごい混雑、あつい！

清水道 。おっかないお兄ちゃんがいった。中沢のやつ一人で水飲みやがって。

円山公園 。円山公園へ行く途中三人組の若い女の人に声をかけられた。「写真撮って下さい」しかしよくみると、相手の人はカメラを持っていなかった。聞くとは僕達のカメラで撮って住所を書くから送ってほしいと言った。やったね。

八坂神社 。みんなお姫様になって写真を撮った。

銀閣寺 。とても趣き深い。紅葉と銀閣寺が見事に調和していた。

哲学の道

。ここもなかなか趣き深い。しかし歩き疲れた。

東天王町

。帰りのバスを待っていると、超満員のバスが止まらずに行きすぎた。一回ア然。しかたなく、タクシーに分乗していざ旅館へ。

旅館

。疲れて帰ってくると森田が、女の人にもらった、住所と名前の書いてある紙を落としてしまったのに気づき、みんなにひんしゅくをかう。アアア。

11月12日 京都一日コース

(ページの都合により削除)

反省

グループ行動はバッチリ成功した。こんなにうまくいくとは思わなかった。ほんとうに最高のできた。もう最高！



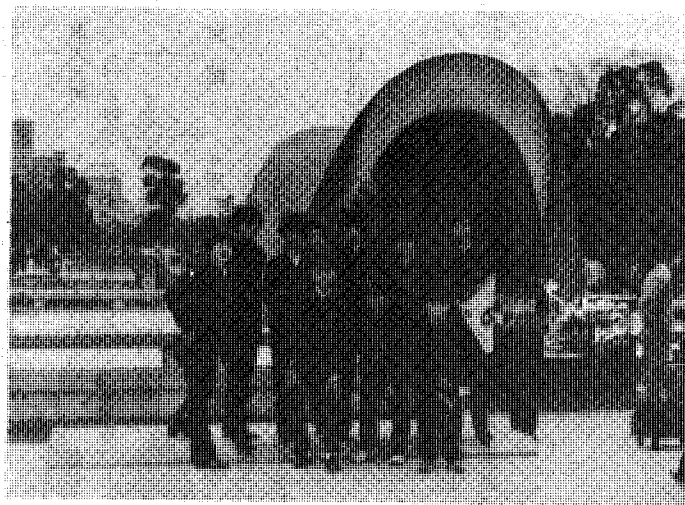
修学旅行・広島にて

岡田 務

十一月十一日木曜日。待ちに待った修学旅行が始まった。最初に訪れる場所は広島。列車の中で、はしゃいでいて浮かれ気分だった気持ちも、平和公園に着いて、キッソとひきしまった。あの慰霊碑に書かれてあった、「安らかに眠って下さい。私達は二度と誤ちを繰かえしません。」の主語は自分なりに考えた結果、私達||全世界の人々、があてはまるのではないかと思った。原爆資料館では、原爆や戦争がもたらした悲惨さやまるで地獄絵図のような情景を活字として、また映画として、日本人だけでなく外国の人々にも理解してもらおうと丁寧に説明してあった。あの慰霊碑に書かれてある文の主語が、全世界の人々と感じたのは前にのべた様な為である。そして、慰霊碑の後ろで燃えていたあの炎を、必ずきつと絶対に消さなければならぬと心に強く感じ、もう一度その炎に向かって、黙禱をした。

戦争・原爆についていろいろ考えさせられ、少し気分が暗くなっていたが、修学旅行の中で一番、旅館の中で楽しかったのが、やはりこの広島での生活であった。ふとん蒸しや枕投げ怪談などをして、時のたつのを忘れてしまっ、眠ったのが明方近くだったような気がした。

とにかくこの修学旅行において、広島という地は、あまり注目や期待をされなかったと思う。むしろなぜ京都だけで過ごさないのかという不満も聞いたし、自分自身もそう思った。しかしこの広島と



平和公園にて

いう土地は、修学旅行において、今一番考えなければいけない事をしっかり考えさせてくれ、そしてまた、悪友達と共に、楽しい思い出もつくってくれた素晴らしい土地だと、帰って来てそう思った。

広島感想

八木 常 芳

広島。なぜこの都市を見学するのだろうか。「見る」というだけなら、毎年夏の真っ盛りほどのTVのニュース番組でも見ることが出来る。しかし、自分の身体をもって広島を体験しなければならぬのだから。

広島大学放射能医学研究所という場所で、所長さんのお話を聞かせてもらった。生物の授業のようであったが、講師が時間を気にしながらのものだったので心に強く残るものはあまりなかった。が、現在も爆心地付近ではごく微量、人体にはもう影響を与えない程度であるが残っていると聞いて、背筋が寒くなる思いがした。

広島平和記念公園では、平和記念資料館を見学した。入口付近の米園が計画して実際に落とすまでの過程はよくわかり、どうして広島、長崎であったのかという疑問が解けた。しかし落ちたあとの展示の仕方がこわくなっていく。被爆直後の親子の凶。皮膚がたれ下がりうつろな目をしてまるで幽霊のようさまよい歩く。それを見たとおばさんの団体が、まあ、かわいそうにねえ。と明るく言い放ち爆央の測定を飛ばしてその次の展示物へと明るく暗さを求めて移動していった。米園が空から配布した市民への警告状。しっかりと説明してあるのに信じることも許されなかった当時の人々の悲しさ。受け入れることが出来れば、地獄の苦しみを味わうこともなかっただろうに。死亡二時間前の兵士の写真。きつ、と開く目で彼は何を言わんとするのか。何もここまでする必要はないのではないかと思



二ノ六 三浦祐介

新幹線が広島市に入った時、外をながめて思ったことは「淋しい街だな...」
なにか冷たいものが背中を走っていた。どうしようもない不安にかられて、近くにいた友達にひたすら「早く京都に行きたい。」を連発していた。それほどあの街には靈気というか、形すがたい暗くて重い空気がながれていた。

駅についてバスにのりかえてからも、空が曇っていたことも手伝ってか、いやな気分が続いた。

広島大学で講師に放射能の及ぼす影響について聴いた。原爆の残した放射能は今もなお広島の大地に、わずかではあるがしみついているという。戦争の傷あとは、これからも消えることなく被爆者の、そして日本人の心の中で生き続けるんだなとつくづく思った。

平和公園で写真を撮った。あの慰霊碑をバックに。テレビや写真で見たよりも小さいのおどろいた。その前に飾られていた花束が目につく。さまさまな遺留品、原形をとどめないトタン板、八時十五分をさして止まった柱時計。もういやというほど原爆のすごさ恐ろしさを見せつけられた。そして...。順路をめぐってガラスの箱の前に来た。中には、被爆した少年が着ていたポロポロの衣服が、竹の骨組の上に、かぶせられていた。それを見たとき...。あの感覚は今でもはっきりと思い出せるが、体の中を氷のかたまりが何個も

大阪大長寺

小林 国雄先生

一時近松の心中物に夢中になったことがある。お初・徳兵衛の曾根崎心中や梅川・忠兵衛の冥途の飛脚など。中でも、小春・治兵衛の心中天の網島が一番好きになった。大阪曾根崎新地の遊女小春と紙屋の主人治兵衛との心中事件である。二人は網島の大長寺で自殺している。もう二百年も前のことだが、心中した現場を見てみたいと思った。

京阪七条駅より京阪電鉄に乗る。約一時間後京橋駅で降り、ガイドブックをたよりに、十時ごろ大長寺に着く。そばには、片側四車線の国道一号線が走り、本堂は白壁のコンクリート作り、屋上の手摺には看板があって『大長寺』と書いてある。まるで病院のようだった。狭い境内にはクラウンの車が置いてあり、その隅に小春・治兵衛の比翼塚がある。

夜ごと繰り返される曾根崎新地の賑わいや行きかう町人達の中で、治兵衛には女房おさんと勘太郎・お末という二人の子供がいた、物語はすでに二人の死覚悟から始まっている。

貫いていったような冷たさが走りぬけていったのだ。すぐにでも資料館を出たかった。走ってにげたかった。でも友達の手前、平生を装ってゆっくりと資料館をあとにした。

ホテルに着いて窓から外をながめると、川が流れていた。あの川には、被爆者が、焼けただれた皮をひきつって水をもとめて落ちていったと聞いた。友達と騒いでいたが、なにかいやな気分が、ふりきれなかった。

次の朝、広島をあとにして、やっといつもの自分をとりもどせた。もう二度と広島へは行きたくない。どんな理由があろうと、あの街へは行かないだろう。

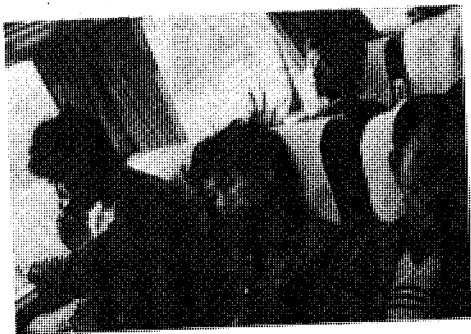
広島、長崎そして全国に散らばる被爆者のみなさん。がんばって生きて下さい。全人類よ、二度とまちがいはおこさないでほしい。全人類のため、あの資料館に住みついた少年の霊のためにも...。



お初・治兵衛の食



小林国雄先生



6 組名言集

一班

〔俳句〕

- 。時雨時 雷鳴鳴る鳴る 天王寺
- 。紅葉と 人でにぎわう 大阪城
- 。紅葉が ああきれいだな 嵐山
- 。晩秋の 京都見おろす 法輪寺

〔川柳〕

- 。琵琶湖にて 恥をこらえて タップ踏む
- 。食い倒れ 難波のタコ焼き うまかった
- 。大阪名物 ヤクザ タコ焼き お好み焼き (字余り)
- 。嵯峨の道 いきなりまよう DADABAND
- 。嵯峨の道 クラッシュしても 負けないぞ!

〔短歌〕

(クラッシュ小原)

- 。嵐山 山肌飾る 紅葉の 少なき命 あわれと思ふ
- 〔一言〕
- 。大阪と京都と広島を比べるといろいろ違う点がたくさんあった。
- 。大阪のタコ焼とお好み焼がもう一度食べたい!
- 。大阪のタコ焼とお好み焼がうまかった。
- 。大阪のタコ焼とお好み焼が安かった。

二班

- 。タコ焼おっことしもったいない。
- 。嵐山の紅葉がきれいだった。

。うーん 困った。

齊藤 仁

- 。人間はPOWERだ!! 森田勝利
- 。人間は首(neck)だ!! ハンセンがみえた。 T.N
- 。人間は腰だ! すべての原点は腰にある! 旅行は最高!
- 。I want モア hair (telephone) T

三班

- 。修学旅行で心に残ったもの……
- 一日目、もみまんじゅう 二日目、生八ッ橋
- 三日目、新京極 四日目、かわいいガイドさん 竹原
- 。朝、旅館で眼が覚めてひとこと……
- 「おなかずいた。ごはんまだー?」 稲村
- 。「あー 男はいやだ」 (広島のパス内にて) 八木
- 。「俺のまわりろくなのがいねーよ!」 (深夜) 早坂
- 。「トシキ!! 原爆だよ!」 (AM3:00) 島田
- 。「あつい」 (京都の旅館にて) 栗林
- 。「せまいよー。くらいよー」 (京都の旅館にて) 小柴
- 。「竹原あー……夜遅くまでおきているって言ったのに……」 (AM0時30分 京都にて) 関

四班

- 。春日部高校様みたいなものですね。 K・T
- 。セブンブリッジだったら全勝だぜ! Y・M
- 。ごっこ K・M
- 。そうじだよー K・K(教師)
- 。極小! O・I
- 。ねーねー君たちどこの学校? K・T
- 。またかよー誰だ迷子になったのは M・I

五班

- 。そうじ。そうじ。(旅館にて) 小林 国雄
- 。新京極で交通事故、見たんだっ。 西村
- 。失礼します。 野瀬
- 。銀閣寺がしぶくてとてもよかったです。 中井
- 。原爆恐くて戦争できるか! 水谷
- 。グスン。たった一度の修学旅行を男ばっかのクラスで…… 原
- 。新京極はきれいだ。 佐藤

六班

- 。夜が今ひとつもり上がらなかった。
- 。やっぱり、もう少し見学できる日がほしい。
- 。旅館はやっぱりもう少しきれいなほうがいい。
- 。もう少し寺を回りたい。
- 。広島へ行ったからには、カキが食べたかった。また、広島へも行くべきだ。

七班

- 。おわり
- 。ハツ橋矢のごとし 会田
- 。生きてんのかよ! 坂内
- 。SO? 宮本
- 。ハヤシライス? 古川
- 。あの蝶々はどこへ行ったのだろうか。 古川
- 。うまい うますぎるハツ橋。 坂内
- 。バナナハーフくださいーえ? 古川
- 。うーん寝てみたい。 坂内
- 。こんにちは飯内です。 坂内
- 。俺、女の髪型に引かれるんだよ。 ?
- 。近頃、女の後ろ姿が良くなったなあ。 会田



バスガイドさん



梅沢君西村君他クラスのみなさん。協力ありがとう！

by 嶋村原

事前準備

渡辺文弥

今回、保だったこともあって、この修学旅行の事前準備には相当かかわってきたつもりでいる。そこで、今度の修学旅行の特徴的な点を挙げ、それについて自分なりに感じていることを述べてみたい。まず第一に、日程の問題である。内容の充実を目指し、今回は一泊減らし三泊四日にした訳だが、どうだったろうか。一泊減ったとは言っても、グループ見学が半日増えており、充分満足できたのではないだろうか。もし今回のような事前準備の方法をとって四泊だったら、計画書作成の段階で疲れてしまうような気がする。大事なことは、長さではなく内容である。幸い、事後、生徒諸君からはこのことに関する不満は聞こえてこないで、概ね満足の評価を得ていると思っている。

第二は、事前計画についてである。今回の『目玉』のひとつとして、事前に細かく計画を練ってグループ見学に臨んだことが挙げられる。そのスタートは五月の鎌倉遠足であったが、当然修学旅行を意識して取り組んだつもりである。この時は教員の一方的なとも言える提案で進めたため、不満もあつたかもしれないが、旅の計画をする楽しさは、多少なりとも分かってもらえたのではないだろうか。最初、「第一計画書」、「第二計画書」などという厳めしい名前のものはどうかな、という気もしたが、修学旅行の時には、専門用語として自然に使われるようになったので驚いている。

さて、修学旅行本番での計画書については、相当苦労したグループもあるだろう。今回はガイドブックをまとめて購入せず、各グループの独自性にまかせた訳だが、どうだったろうか。ただ教員側の反省として、バス系統図、遠距離バス時刻表、拝観料一覧表など自分達では入手困難なものは、早めに購入して配布すべきだったと思っている。また生徒諸君に苦言を言うならば、全員が等しく計画に携わってきたかという疑問である。中には班長まかせの人もいたのではないだろうか。担任の先生からは何度も修正を要求され、腹立たしく思ったかもしれないが、いざ現地に行ってみると、しっかりやっておかないとだめなことが、身にしみて分かったと思う。

第三はグループ見学の範囲である。時間制限だけで場所の制限をはずした目的は、過去の反省から、全員が偽らないで計画書に沿って行動できるようにするためであり、そのために自由を拡大したのである。その当初の目的は達成されたものと信じているが、我々の予想に反し、神戸、大阪、奈良方面のグループが合わせて五割近くにも達してしまい、慌ててしまった。それらを悪いとは言わないが、前日に見たからとか、中学時代に見たからとかいう理由だけで京都を放棄してしまうのは、あまりに安易すぎるのではないだろうか。そんな中で、「最初は寺などには興味がなかったが、下調べをして見れば歩いたら良かった」という、ある京都方面のグループの感想が聞かれたのは嬉しかった。

第四は、事後報告である。鎌倉のときは、傑作写真や俳句・川柳等のコンテストを行ったが、これは提案の時点では苦しまぎれの提案だった。傑作写真は、集合写真は管理的だという批判を薄めるために、俳句は、事後報告書作成に全員を参加させるために――

理由はこのように薄弱だったが、みんなはどう感じただろうか。PR不足の点は否めないが、楽しいものになったのではないかと自負している。

ただ、本番の修学旅行ではこの方式を大幅に変更したため、生徒諸君を混乱させてしまったような気がする。しかし旅が終われば報告書を作るんだという習慣は、いやが上にも身につけていたことだろう。今回の事後報告書の出来具合が、本誌の良し悪しにかかわってくるということなので期待したい。

第五は、広島見学である。『にんげんをかえせ』の映画を含めて事前学習には二時間取った。今回初めての試みとして、平和公園の見学だけでなく、広大原医研、放影研、講演など四コースの企画も組み入れた。これは、唯一の被爆国としての体験を継承していくという目的を充実させるために加えたものだが、多少教員側の準備不足もあって、必ずしも充分でなかった。また、これらの事前学習が全体での学習ばかりで、あまり個人には深くかわかってこなかった点は、反省せねばなるまい。そういう意味で、「ヒロシマで何を求めるか」というテーマの作文の宿題が、旅行委員会で否決されたとは残念でならない。ただ感心したこともある。あるクラスで千羽鶴をみんなで作って、平和公園の記念像に捧げてきたことは特筆すべきである。

今まで五点について述べてきたが、今回の修学旅行では受身的な態度を排し、みんなが計画し作り上げる旅行を目標に進めてきた。とにかく「面倒な」修学旅行だったと思う。しかし、面倒な計画、苦勞して作った計画というのは自分達だけの宝であり、それに沿って行動できた時の喜びというのは、他の人では味わえない何かがあ

ったはずである。諸君はまず、今回の旅行が成功だったか不成功だったかを論ずる前に、自分自身が事前準備の段階から、主体的にして独創的にかかわってきたかどうかを点検してほしい。大事なものはそこだと思う。事前準備がしっかりしていれば、更に旅の楽しさも増すはずである。



広島へ行って

保坂 みゆき

去る十一月十日、私達が訪れた広島平和記念公園は、綺麗な所だった。ハトが飛び、木が茂り、所々にベンチもあるこの公園が、嘗て「生き地獄」の様になっていたなんて信じられない感じだった。原爆で亡くなった人達の魂も、ひっそりと眠っている様だった。最初、私達は慰霊碑や、原爆ドームをぶらぶら見て歩いていた。原爆で、こんなに沢山の人が死んでいる。沢山の人が戦争に反対しているのに今の世界の状態ではいつ戦争が起きても不思議ではない。そんな事ではこの平和公園も全然意味のないただの公園だなあ、等とぼんやり考えていた。正直言って、平和公園は、あまりにも平和で、いい所すぎて、いまいち原爆の悲惨さが伝わってこない……というのがその時の感想だった。平和公園を一通り歩き回って、早い日の暮れが近付いて、だんだん薄暗くなってきた頃、やっと原爆記念館に入った。

まず、見学をしている外国人が多いのに驚き、広島原爆投下の事に対して多くの外国人が興味を示しているのかと思うと、何となく嬉しかった。私も息を吞んで資料に見入る人の流れに加わった。戦争の悲惨さ、原爆の悲惨さを物語る空間が、私の前に広がった。小学生の時、中学生の時、これが原爆なんだよ、と言って見せられた写真が再び目の前に現れた。原爆で破壊された街、大きな火傷を負った体を、嘗て見た時、それは私の全然知らない世界だった。地獄の様な世界をぞくぞくしながら、半分好奇心混じりで見た時

を思い出した。沢山の写真や文章を見た。中でも心に残ったのは、沢山の骸骨を写した写真と、死亡通知と、原爆体験者の話だった。沢山の骸骨は、本当に沢山の人が死んだという事を実感させた。ひとつひとつを向いて何か訴えたがっている様で、気味が悪かった。一人の人間が死んだ事を伝えるたった一枚の紙切れは、くしゃくしゃになって、それでも死んだ人の名前は、はっきり読めた。

——広島は、永久に年を取りません——
ボタンを押すと聞こえてくる体験者の話。一生懸命に、戦争の悲惨さを訴えていた。広島は、永久に年を取らない、本当の平和がくる日まで、原爆の落ちた日のまま、年を取らない、テープの声は、涙声になっていた。

確かに、今の広島は、とても平和に見える。しかし、戦争によって傷つけられた心には、永久に、傷跡が残るのだろう。多くの人々の死を、決して無駄にはいけないと思う。もしも、これに懲りず、何処かの国で、原爆が使われるとしたら、原爆で亡くなった人達が、あまりにも可哀想だ。平和公園は、決してただの公園ではなく、多くの人の魂も、決して安らかに眠ってなんかいない。私達に、懸命に、平和を訴えかけているのだ。

体験者の話を聞いて、急いで記念館を出ると、すっかり日は落ちていた。いろいろな考えをめぐらしながら、私達は平和公園を後にした。

「埼玉っていうと、ああ、赤城国体でたいへんでしよう。」

「へ？ 埼玉じゃないの、あそこ。」

我々は案内嬢付乗合自動車で琵琶湖へと向かおうとしていた。車が動き出す。待ち構えていたように厚化粧の案内嬢がマイクrophonを片手に喋り始める。

「えちがや北高校のみなさんこんにちは。」

彼女はその後、事あるごとに、えちがや・えちがや、と繰り返した。

グループ見学

ぼくたちは飛鳥村に見学に行った。朝、ねむい中を、近鉄に乗って橿原神宮前まで行った。

レンタサイクルで飛鳥村を回った。飛鳥村には古いお寺や古墳があった。初めに行ったのは甘樫丘に行った。丘の山まで山道を登った。非常につかれた。甘樫丘を出たときに雨がパラついた。近鉄ののっている時も雨が強くふっていたが、かさはもってこなかったの心配だった。でもすぐに晴れてきてよかった。晴れてきたのはいいがとても寒かった。それから国立飛鳥資料館に入った。人里はなれた所があった。入場料も安かったが中もたいしたことなかった。石舞台古墳に行った。そこで入場料をとるのは自然を保護するためだといっていた。石の中が空洞になっていて中に入れた。それからいろいろ回って帰ることにした。

帰りは鉄道の特急のつた。その日は、本当につかれた。

閑話

小泉 寿 渡辺 隆仁
山田 節子 村上 千絵
保坂みゆき 千野 綾子

新幹線から見る太平洋は、都会のアスファルトの様だった。再び私は目を閉じた。

前の席に座っているM教諭が吹かしているであろう煙草の煙が非常に不快だ。手で払ったところで、紫煙は一向におさまる気配がない。嫌煙権を振りかざしてやろうと思ったけれど、やっぱりやめた。体育教師にそんなこと恐ろしくってとも言えたんじゃない。

京都最後の晩。我々は勇んで、新京都へと繰り出した。京都駅前までタクシーを拾う。京都の運転手は冷たく、

「三人までだよ」

我々はめげずに大きいタクシーを捕え、乗り込んだ。偶然にも運転手はアマチュア無線技士であった。彼は、十数万はすると思われる無線機を彼の車に取り付けていた。私はそれを目ざとく見つけ、誉めちぎった。だが彼は最後まで料金を負けるとは言わなかった。

「修学旅行？ どっから来たの」

「えーっと、埼玉です。」

「ふーん。埼玉のどこ？」

「んー越谷です。」

広島

赤池真由美 小田裕美子
金井 洋子 木下美津子
木村 裕美 斎藤 由美
竹沢真理子 藤原 玲子

広島へ行ったのは今回がはじめてだった。ひと言で言うなら、楽しかった。しかし、場所によってその楽しさは全く違っていったように思う。

広島に着き、バスから市街を見物していると、何故か不思議な思いにとらわれた。騒がしい街なのに、何処かしつとり、落ち付いているというか；京都とは違った趣があるような、そんな気がしたのだ。浮わつたところがない、しつかりしているような雰囲気であった。バスを降りて、公園を歩くと、とても広々としていて気持ち良かった。私の家のそばにも、こんな公園が欲しくなってしまう。紅葉がとても美しかった。紅葉というよりは、黄葉；本当にまぶしいくらいだった。何故か緑も、この辺の木々の緑とは全くくまらべものにならなかつたように思う。広島というのに酔ったのか、全てが綺麗に見えた。電灯さえも、情緒あふれているように見えた。疲れていたはずなのに、意味もなく公園内をぐるぐると歩きまわつた。広島風景も、私と一緒にぐるぐる回ってくれたと思う。原爆記念館にはいった。何だか、心を動かされるものが多かった。

座談会

— 修学旅行楽しかったよね。
— そうだね。
— いろんな思い出できたよね。
— だけど、広島は印象に残ったよね。
— あの原爆ドームの悲惨さとかね。
— 私、本当で、NO MORE HIROSHIMA、なんて叫びたくなっちゃったもん。
— それからさ、広島の旅館の世羅旅館きれいだったし、食事もまあまあだったよね。
— だけど背中びつとりにはまいたよ。
— でもさ、広島公園って広かったわけよ。
— もみじまんじゅうもおいしかったしよ。
— チェーイ、突然京都だけだよ。
— 旅館にはびっくりだね。
— 部屋せまいし、トイレきたないしよ、下痢になっちゃってアイスは食べられないし、最悪だよ。
— 突然広島だけど、もったいなかったよ。
— 京都と広島のもみじつってどっちがきれいだったかな。
— やっぱ、ガチョーン。
— 何のこっちゃ。
— ほんまでっせ。ほんまでっせ。

原子爆弾というものを、本当に人間がつくったのかと疑いたくなつた。人間が、同じ人間を殺す為には、あんな恐ろしいものを生み出したなんて、考えたくない。目をおおいたくなるような写真ばかりだった。血だらけ、傷だらけの腕。焼けて皮フのくずれ落ちた顔。頭からばさばさと抜け落ちた髪。やけどだらけの背。白い包帯がひどく痛々しくて、じつと見つめていると涙がにじんできた。恐かった。こうして五体満足で、何処にも痛みを感じることなく立っている自分がうれしかった。いけないことだが、きつついた被爆者たちを見て、思わず自分の幸福さを知り、ほっと安心してしまつた。今が平和で良かった。この平和は、いつくずれるか分からないけれど、とにかく今、この瞬間は平和なのだ。私が今、声をあげて笑つたとしても、誰もそれをとがめる人はいないのだ。この幸福な瞬間に酔いしれているだけではない。平和を維持するよう努力しなくてはならないのだ。もうにどとあのような恐ろしいことを引き起こしてはならない。広島は、私にそう教えてくれた。

記念館には行って良かった。平和公園を歩いて良かった。私は今、つくづく広島は素晴らしいと思う。こんなふうな、簡単にことばであらわしたりしてはいけないようなことも、沢山味わい、かみしめてきたつもりである。京都よりずっと、心に残るであろう広島で過ごした時は、みじかすぎた。もういちど行ってみたい、そう感じている平和に感謝する私である。

— そういえばさー。京都の市バス乗ったとき。
— 私たち前の方ならんだのに、バス来たとき、いきなりわりこみされて、おされて、で、すっげえマナー悪いと思っちゃったぜいっ。ぶん。
— バス中ではこけにされたしよー。
— でもさー。
— 京都の紅葉ってやっぱきれいだったよね。
— 赤いかさの下で、お茶を飲んだのなんて、以外と“nice”だったよね。
— うん言える、“nice”、“nice”
— でもさー。
— 三泊四日ってあつという間だったね。
— 最後の日の比叡山、寒くてさー。
— でも、琵琶湖よかったよね。
— やっぱ広くて、虹もでてたし..
— だけど、やっぱ、連日二時間の睡眠はきつかったね。
— 夜中のおにぎりおいしかったしね。
— うん言える。あのおしょう油味最高。
— 何だかんだいって、疲れたね。
— でも楽しかったよね。
— もう一回行きたいねー。
— うん。

☆田中 郁江 ☆亀井さよ子
 ☆名倉千恵美 ☆星野 千絵
 ☆山口 友子

亀井 さよ子

班行動の二日目、私達の班は神戸に行きました。坂をずーっと登って行ってやっとうろこの家についた時は感動でした。なーんてみはらしがよいのかしら。ここに住んでいた人がうらやましいノ私も住みたいノその後、かきみどりのやかた、白い異人館などに行きましたけどもみんな、みはらしがよくて、海が見えました。それからトワロードへおみやげを買おうと行きました。ところが何もありません。結局おみやげはありませんでした。

おこられるといえ、私は修学旅行ではじめておこられました。ほんとうに思い出ぶかい修学旅行でした。

田中 郁江

三泊四日の修学旅行。一晩くらいは徹夜するぞノと意気込んでいました。でも結局一晩も徹夜などできずに終わってしまいました。

また、行きたいな。

星野 千絵

神戸はすばらしかった。今まで旅行してきて、あれほど充実していた時はなかったと思う。自分達で計画を立て、失敗したところもあった。けれどあの異人館の中で「遠いところまで、来たかいがあった。」と思った。日本の中に異国を感じさせるものがたくさんあった。何か異様な雰囲気を含ませて大きな家が建っていた。そんなところもまたよかった。おもわず道に迷ってしまったけれど…。ポイントライナーからの風景はきれいだった。もう一度乗って、ポイントライナーで遊びたいと思った。幼稚かな？

ただ一言、時間がもったほしかった。

山口 友子

広島では原爆ドームも見れたし、資料館にも入れたし戦争によつてうけた多くの傷跡が、ほんの少しではあるがみえたような気がした。

グループ見学の一日目はなんといっても京都のバスの多さにまいった。ふだんバスをいれないだけに、面くらってしまった。おまけに、旅館に帰った時間も五時をすぎてしまったり、京都見学は

なんともよく寝た旅行でした。おかげで次の日のグループ見学は快調の上なしノのはずでしたが、京都のバスの複雑さには泣かされました。でもその複雑さのおかげで京都の女学生さんと、お話できましたし、よい運動にもなりました。一つ気になったのは女子高校生のスカートがいやに短いです。埼玉では長いのがはやってたようですが、流行は神戸から、というの事実なのでしょか。だんだん北上して行って、全国に広がったりするのは恐いことだと思えます。二日目には、その流行の最先端、神戸に行きました。買い物、家、何にしても異国情緒タップリで、まず、テーマにそうこたうできたと思います。

また、私が異郷の地に来たことを切実に感じたのは、言葉でした。当たり前として使っている標準語が、広島・京都言葉の中で小さくしか聞こえないのは、自分達が、よほど遠くから来た「お客さん」のような気がしてなりません。それも旅行という気分を盛り上げてくれる演出の役をしてくれた訳ですけど…。

とにかくこの修学旅行で楽しい思い出、辛い思い出、たくさん作りましたが、思い出すとみな良い思い出です。

感動したもの

名倉 千恵美

うろこの家から見た神戸港
 新幹線から見えた富士山
 琵琶湖にかかった虹

散々だった。まともに見てきたのは、三十三間堂だけだったようだ。二日目は神戸に行ったのだが、思っていたより坂が急でつかれた。それに異人館も中があまりよく見られなかった。もっと多くのものが見たかった。神戸に行つて、一番よかったのは友達に会えたこと。五年前に、引越してしまつた子なのだけれど、土曜日だったので会いに来てくれた。これが一番うれしかった。

クラス見学の時はなんといっても、ひえい山が寒かった。びわ湖はそばで見るよりも、山の上から見る方が、はるかにきれいだったと思う。

また旅館ではいろいろおこられたりしたけれど、たのしかった。修学旅行も、はじめのうちは、あまり、乗り気ではなかったが、クラスの人たちとも楽しくすごせたと、今回はよかったと思う。



広島について

飯田 幸恵 上原佳代子
遠藤 万里 山之内美穂
山本 容子

広島に行くのは、今回が初めてでした。広島に行くということで、なにかうきうきした気分の中にも、多少の緊張感がありました。被爆した人々の苦しみは、現在までも続いていて、同じ日本人として、何となく言い表せないような重苦しい気になりました。唯一の被爆国である日本は、もっとも核の恐ろしさを訴えるべきだと思います。

広島での印象は、一見、復興したまちという感じがしたけれど、実は、原爆投下の被害により、今でも戦争の傷跡を背負って今日まで生きのびてきたのだと思いました。そして、私達が想像していた以上に被爆者の人々はつらい思いを強いられてきたのだということがわかりました。また、今まで以上に、戦争は絶対にしてはいけないし、核兵器をこれ以上増やしてはいけないと強く思いました。

原爆ドームを見た時、ここが原爆の投下された土地なんだなあと、思い、とても緊張しました。平和公園のほぼ中央には、『安らかに眠って下さい。過ちは繰返させぬから』と刻まれた慰霊碑があり、

平和な時代に生まれて、私は幸せだなあと思いました。鳩が飛び回っている姿を見て、さらにそう思いました。広島をこの目で見て、戦争というものがどれほど恐ろしく、無意味なものであるかよくわかりました。

広島に着いた時、えっこれが広島。別に他の市と変わんないじゃないか。これが第一印象だった。しかし、原爆資料館に入った時、あつぱり広島は、被爆地だったんだ。資料を見学していて、背筋が寒くなってきました。原爆っていうのは、こんなにも多くの人を一瞬にして傷つけたのか。全然知らないのに、知ったかぶりをしていた自分が、はずかしくなりました。

私たちのクラスは、原爆被爆者による「語り部」だったわけだけれども、その人は、こんな私たちにもう思い出したくもないような話を一時間もかけて演説してくれました。私たちのような若者に、この恐ろしさを知ってもらいたい、二度とこのようなことを繰り返してはならない、という願いか、そのまま強く心にひびいてきたように思います。私は、この人に、敬意と決意とそして感謝の意をこめて、おしめない拍手をおくりたいと思います。

全体の感想

飯田幸恵 上原佳代子
遠藤万里 山之内美穂
山本容子
(討論内は無記名です)

A これから修学旅行の思い出話してー。まず、嵯峨野。わらびもちおいしかったね。

B 電車の一両編成が感動だヨ。

C 隣に乗った外人がボウイに似てたヨ。サングラスかけるとねっ。

D 嵯峨野、あんまり記憶ないなあ。

E 渡月橋がきれいだったね。

C だれかサン、わたりつぎばしって読んだんだヨネ。誰だっけ……。

(一同爆笑)

A それでは、奈良はどおしだった!!

E 奈良で、雨に降られて一時はどおしなるかと思っただ。

D それで雨に濡れた鹿に追われて怖かったヨおし。

C 鹿せんべいおいしかったねえい。

全員 うん!! (力をこめて……) ??? ??? ??? ???

E あっ、そおしだ、忘れちゃいけない人がいる。

ほら、駅で話しかけてきた外人さん。

C そー。何て答えればいいのかみんなで相談してたの日本語で。

そしたら、通じちゃってー。

A 「サンキュー。」って言って、行っちゃったね。

B そんなこともあったね。あと、宇治駅の素朴なこと。線路を横切って、向いのホームに行くのには、思わず感動しちゃった。

D 電車がまた古風だね。

時間が足りなくなって万福寺は、パスしちゃったけど、あと

は走ったりして……。

C でもさあ。なんか計画通りにいってよかったね。

E ホラッ三十三間堂行ったときに食べた「とうもろこし」は……

……はつきり言ってまずかったあー。

A はつきり言って、新鮮さがなかったね。

C あれさあ歯にくっついてとれないんだもん。

E ホラ：八坂神社に行くとき道に迷っちゃったじゃない？あの

時京大の仮装行列にあっちゃったね。

C 京大生でもあんなことするんだね。

B それから忘れちゃいけないのは、なんと言っても旅館だヨ。

A アー、私、枕なげに青春をかけてしまったのだワ。思わず、

おヘソの大サーピス。

D あたしは……。Tさんごめんなさい。突然開けてしまっ

とにかく楽しい四日間でした。最後に一言。

全 「もう一回行きたい!!」

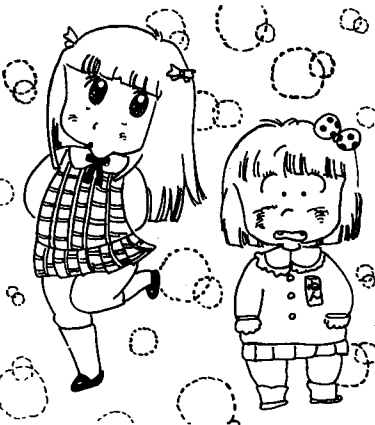
伊藤 恵美子

せっかく原爆が落とされた資料があるので、今後二度とあのよう
な恐ろしいことは、起こらないでほしいです。戦争なんて二度として
ほしくありません。核兵器も作らないでほしいです。世界中の人々が
みんな仲良く暮らせる日が来てほしいものです。

前田 恭子

……中略。私は、やはりこのような所を二つとつくりたくないよう
に戦争をおこさない。ましてや核戦争なんてとんでもない。という
ことを伝えていかなければならないと思います。被爆経験者が少な
くなっていくと、核に対する恐怖心や人間と人間の殺しあいの憐れ
さなど忘れてしまうと思います。だから、あの平和記念公園でさみ
しそうにエサを売っていたおばさんが笑顔で話せるように、絶対
絶対！同じような誤ちをしないためにも、少しでも、「戦争反対」
に協力したいと思います。そして早く広島に、明るい日がさすよう
にしてあげたいです。

秋山 百合香

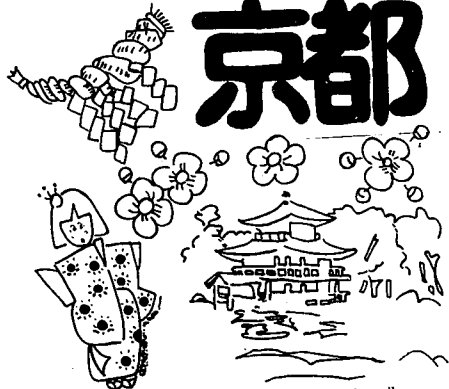


最も心に残ったのは、原爆資料館です。被害者の人達が、その時
着ていた服、被爆したあとの姿など、この世の出来事とは思えない
ようなものばかりでした。特に私と同じ年頃の女子高生の人の被爆
した姿の写真は、何とも言いようもないものでした。
私はその頃、まだ産まれてなかったので、本当に幸せだと思いま
す。そしてこれからも、戦争を知らないまま、幸せに暮らしてい
きたいものです。

薄上 隆子

岡田 美恵子

京都



あのおじさんの話しには、
非常に驚かされた。彼の雄
弁さには、目を見るもの
があった。思わず私の目は
光ってしまった。私の頭の
中には、彼の話したことが
鮮明に画像となって現れた
ほどだった。その内容は、
私が予想していたことを
遙かに超越していた。しか
し、いくら私の画像が鮮明
に写し出したとしても、実
際に戦争を体験していない
から、その恐ろしさが、私にはわからない……。やはり、年々戦争
を知らない人が増えつつある現在だから、戦争をやったがるとん
でもない大人達が、増殖し始めているのだろう。第三次世界大戦が起
こりうるといわれている今、これからの時代をになう私達が、戦争
をくい止めなくてはならない。今、私は、叫びたい。
「NO MORE HIROSHIMA」……この言葉をくり返
しているときあなたの奥が熱くなる。この先、この名言をい
私は生きていきたい。

「こわいな」と思いました。戦争というのは、本当におそろしい
と思えました。皮膚をこがし、骨まで溶かし、家屋を破壊し、この
原爆投下のためにどれくらい多くの人が犠牲になったでしょう？
そうとうな熱だったんですね。どんなに熱かったことでしょう。私
には想像ができません。
あの時の広島を人は、「生き地獄のようだ」と言います。でも、
たとえ、何千回、何万回、「広島は、こうなってしまったんだよ」
と言われても、本当の広島はわかりません。この目でこの二つの目
で見た人でなければわからないと思います。
私は、あの時の広島をよく知りませんが、それはそれはものすご
かったんだと思います。私は、つくづく幸せを感じました。今は、
とても平和な世の中です。この平和を壊してはいけません。何か要
た。食べる物も、着る物も、住む所もあります。これ以上、何か要
るものがあるでしょうか？ 上を見て追いつこうとするのもいいと
思います。でも、決して今の平和を犠牲にするようなことがあって
はいけません。「軍拡／軍拡」と日本の偉い人は、ガンパッてい
るようですが、忘れてはいませんか？ 広島のことを。
忘れるというのは、とてもこわいことです。人間は忘れっぽいもの
ですから、折にふれて思い出すことをしないと、まるっきり忘れてし
まうものです。忘れてしまえば、きつと同じ誤ちをくり返してし
まいます。人間なんてみんな、そんなものじゃないでしょうか？

広島を訪ずれて

山口 貴

広島第一印象は、殺伐としていた。記念碑は、とてもシンプルであったが、被爆者の魂と願いが込められているようだった。いろいろなものを見て、自分の存在とはと、湧き上がってきた。いったい人間の命は、どんな計りで計っているのか考えた。広島には、いろいろな土産物があったが、平和心こそ最高のものだと感じた。

広島を見学して

中村信也

僕は、中学・高校生となって広島原爆について考え始めたが、それは単なる被爆者への同情心だけでしたが、実際に原爆ドーム等を見て同情心は吹き飛び、こんなにも非人間的なことがあるのかと驚きました。なんて人間は馬鹿なんだと思った。世界から核をなくすのは無理かもしれませんが、核があつては、本当の平和は、来ないと思う。今の僕には、ただ核がなくなることを願うだけです。

被爆地・広島

佐藤雅一

広島に本当に原爆が落されたのかと疑う程、街の緑は綺麗であったが、原爆ドームを一目見た時、やはり原爆がこの街に落されたの

だと確信した。原爆ドームの壊れ方はあまりにも生々しく悲惨だった。資料館を見学した時には、原爆の威力と被害の悲惨さを感じ、展示物は、正視できなかった。そして石碑に刻まれていた言葉は、大変印象的だった。

広島

植竹哲也

語り部の人の講演を聞いた僕は、熱の入った講演に感動しました。資料館に入ってあの写真の数々を見て、原爆の悲惨さと物凄さがわかった。もう一日いろいろな所をまわったら、もっともっとよく広島のこと理解が深まっただろうと思っている。広島を訪ずれて原爆のことは、よくわかったと思う。



修学旅行

植竹哲也

流れ星のように、修学旅行が過ぎ去っていった。修学旅行が終つて振り返ってみるといろいろなでき事が思い出される。広島での一日は、なんだかわからないうちにおわってしまったようだ。クラス行動ということもあって、あまり印象深く残っていない。

修学旅行

佐藤雅一

修学旅行の思い出は、なんといっても京都に移ってからであろう。私たちの班は、半日のグループ行動は、京都市内を見学した。まず、智積院へ行ったが、私たちの大部分の人は、読み方を間違えていたまま会話しているのを見て私一人見学場所をよく調べていないなあと思っていた。地元では見られない美しい景色だった。同志社大学へも行ったが、学生服だったのでなんだか気まづくす通りした。

修学旅行

山口 貴

私たちの班行動の中心の二日目の大阪・神戸の見学は、計画を立て

修学旅行

中村信也

てた人が良かったせいかなすばらしかったと思う。大阪城ではちょうど築城四百年記念だったのでおもしろかった。

編集後記……

アイ・アム・ゴイング・ドゥー・ゴー・トゥー・コンサート。
オブ・デュラン・デュラン。
ユニオン・オブ・ザ・スネイク・イズ・ザ・ベスト。
セブン・アンド・ザ・ラッグド・タイガー・イズ・ザ・ベスト。
トゥー……。



和田 大治

「ヒロシマ」といえば人々は「ああ、ヒロシマ」と優しく言い返してくれるだろうか。「ヒロシマ」矢沢永吉の生まれた街。ああ、そういえばG・ムーアの歌にも「ヒロシマ」というのがあった。」「ノーマアヒロシマ」

この言葉好きだね。素晴らしいじゃないか。快感で鳥肌が立つよ。ホンマ。

「広島市民球場」

いい所だったよ、あそこは。中に入れてくれたもの。ベンチに座ったり、グラウンドを走り回ったりした。今じゃいい思い出。バカだよ鈴木は。カメラにフィルム入れるの忘れてシャッター押してた。

「原爆資料館」

怒りがこみ上げてきた。体がふるえてるのが分かった。外人が熱心に見てた。オレは心の中で叫んだ。「てめーら、広島 of 悲劇は忘れないぞ。」

「ヒロシマ」

東京から新幹線で五時間。きつい旅だぜ。おまえに分かるかい。

「初恋」

— そういえば、オレの初恋の女の名前は「広島」だった。あの娘を初めて見たときオレ言語障害になった。言葉が出ないんだ。

修学旅行

尾堤	由教	和田	大治
小松	正光	鈴木	清志
今井	義孝	大槻	貞徳
小野寺	節夫		

次の汽車で出てゆくのか。この町を。

言っておくれ。あいつによるかと。きつい旅だぜ。おまえに分かるかい。あの新幹線に揺られていくのが。若いおまえは大丈夫だと言ってくれど新幹線に五時間乗ってるのがどんなものなのか分かってるのか。とかなんとか言っているうちに広島に着いちゃった。

お願いだ。ベイビー答えてくれ。何故こんなにも空しいのか。こんな街にいらねーぜ。

切符はいらない不思議な列車でいじけた街を出ようぜ俺と、しらくた奴らが追いかけてたって特急列車はつかまりやしなげせ。翌日、俺たちは京都に向かった。トラベリンバスは旅館の「銀閣」へと向かう。夜、俺たちは新京極へとくり出していったまではよかつたが、俺たち班員のうち一人が不良に殴られてしまった。

夜中のハイウェイで奴は死んだ。アスファルト血に染めて夜空を見つめ、好きな女ができた、照れてオレに教えてくれたあいつの、ひとり死んで死ぬなんて馬鹿な奴さ、ライフイズベイン。ライフ

本当は話したかったのに。あれは中二の時かな。授業中にオレのところに紙切れがまわってきた。「和田君。まじめになって、ちあき。」(オレ、その頃そうとうなワルだった。)バキューン。オレのこと和田君だつて、オレにそんなこと言ってくれる女なんか初めてだった。オレまじめになったね。授業にもちゃんと出たし、さされたら返事もした。それからあの娘との交際が始まったわけ。

「別れ」

あの娘、やっぱりふつうの女とはちがうよ。アメリカに転動することになったらしい。

さらば夏よ つらい恋よ あなただけは幸せに

あなたとたたずむ者はもう秋

ひと晩がかりの別れは終った

海よわかつてくれ たった一度だけの

命をかけた そんな愛を

海よ笑ってくれ 命かけた女を

うばってゆけない バカなオレを

こんなさよならになると分かりながら

真夏のめまいに負けた二人

イズベイン。

おっと、あいつは死んでなんかいなかったぜ。

翌日。俺たちを乗せたトラベリンバスは神戸へと向かった。昨果てしなく続くハイウェイ飛ばせば なぜかこの空しさは 昨日の新京極での出来事が いまでも追いかけてくる 振り切るのさ

もう この俺は 振り切るのさ悲しくなるから

よし。昨日の事は忘れよう。神戸。なんてきれいな街なのか。夜来たたら最高だったろうな。おっと。俺たちのトラベリンバスがトラブってしまったぜ。しょうがねえから電車で帰るか。

せめて踊ろうよ にどとこない夜を ノー・モア・ヒロシマ

ノーモア・ラブ ノーマア・ラブ・トゥナイト

最後の夜、みんな盛り上がってるところに突然イノシシが入って来たのでしかられてしまったぜ。

アイラブユー・OK この世界に たったひとりのおまえに 俺の愛のすべてを捧げる 抱きしめればせつなくなる 俺のこの腕

でいつも幸せにしたい

求めあって生きていたい この世界のすべてが闇に消えても

アイラブユー・OK 見つめ合えば ただそれだけで解る

誓い合った言葉は アイラブユー

やっぱりおまえが一番だ。

ヘックションとくら

組 行 集 2 年 8 旅 文 修 記 念

11 月

10・11・12・13日

東京↔広島↔京都

参加者 45 名

クラスの

ページの内容

★班別修学旅行

感想文

★広島の感想

★一人一言

名言集

近鉄の特急のりごちがよかった
短い旅だった
坂道が多かった
旨かった
憧れの飛鳥に行けて最高
飛鳥はいい所
すき焼の お肉少なく 戦った
嵐山 もみじ片手に にしんそば
もみじの 葉も美しい 京都かな
古寺や 真っ赤なもみじの さんぽ道
紅葉の もみじはらはら 古都の寺
広島の 風情あふれる 秋景色
ふけゆく 秋の空 旅の空
わびしき 思いに ひとり悩む
京都のバスなんてきらいだ
京都タワーからの夜景は是非みるべし
カメック
舞子さんとお話してみたかったナ
バス嫌いノもう乗ってあげないぞ
京バスなんてきらいだ
奈良公園の鹿なんてキライだ
思わず枕なげに青春をかけてしまった
嵯峨野で立ち寄った茶店は良かった

小泉 寿
渡辺 隆仁
保坂みゆき
山田 節子
千野 綾子
村上 千絵
斉藤 由美
赤池真由美
木村 裕美
小田裕美子
金井 洋子
竹澤真理子
木下美津子
藤原 玲子
亀井さよ子
名倉千恵美
山口 友子
田中 郁江
星野 千絵
遠藤 万里
飯田 幸恵
山本 容子
上原佳代子

2-7 名言集

また行きたい、また食べたい
ピンボケカメラはもってかないように
魔よけの写真が多すぎたよ
そう、カメラボケすぎよ
神戸 また行きたいよ
清水や 飲み過ぎ食べ過ぎ 火の用心
胸につけてるマークは流星
おもしろかった
夕映えに 紅葉照りはえ 銀閣寺
山際の 沈む夕日に 魅せられて
バイ・バイ・マイ・ラブ
長い旅
きつい旅だぜ お前にわかるかい
……
来た見た帰った
わからない
無
楽しい修学旅行だったらしい
いいよ
負けてくやしい(陸上部)

山之内美穂
伊藤恵美子
秋山百合香
岡田美恵子
前田 恭子
溝上 隆子
植竹 哲也
中村 信也
佐藤 雅一
山口 貴
和田 大治
尾堤 由教
大槻 貞徳
鈴木 清志
小野寺節夫
小松 正光
今井 善孝
天野 敦仁
大塚 敦
折原 孝浩

二年八組 修学旅行記念文集

班別記念文集

一班

でいくと、美しい琵琶湖に着いた。もっとよく見ようと山を登ると、お寺に着き、お坊さんに会い、坊さんの話を聞き、なるほどと思い、これからはきちんと生活しようと思ひ東の田舎へ帰って行くのであった。

にのはちにとつてそれは、とっても楽しくためになる旅でしたとさ。

めでたしめでたし

(金井 宏)

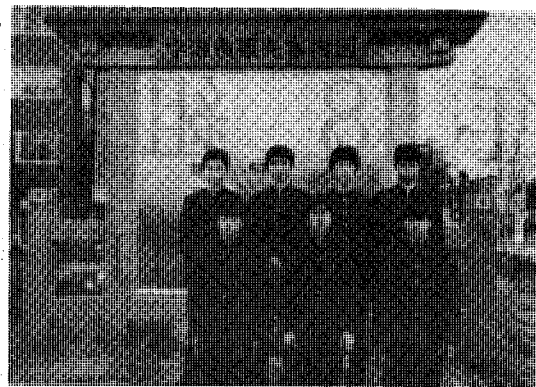
僕は、修学旅行に行って一番印象に残ったことは、やっぱりグループ別見学でした。特に伏見・桃山城に行ったことがよかったと思います。

桃山城に着いて桃山城まで坂道を歩きました。そして中に入ってみると、城が二つ並んでたっていました。記念写真をとってから城の中を見学したり、天守閣から下を見下ろしたりしました。天守閣からの眺めは、とてもすばらしかったです。

僕は、今までに何回か城を見に行ったことがあります。その中で一番印象的だったのは、この伏見・桃山城だと思います。それは、僕の期待を裏切らず立派な二つの城だったと思います。

(熊木)

今回の修学旅行で一番よかった事は、夜、旅館から外出できるという事である。高校生の修学旅行ならあたりまえの事であるかもしれないが、ある旅館に押しこまれていた、中学生のときの修学旅行を考えると、試合開始直後のドロップキックていどの衝撃を受けた



むかしむかし東の田舎に、にのはちというだらしなない男がいた。その男がある日旅に出ることになった。まずはじめに平和村に着いた。この村はそのむかし戦でめっちゃめっちゃになったが今では、立派になったそうだ。その次の日京の都に行き、たくさんの名所を見て宿にとまった。しかしその晩男は、盗みにあった。どうしても返してもらいたかったが、もう戻らなかった。しかたなく進ん

ようなものだ。

自分たちは、新京極に行った。修学旅行生のおきまりのコースであるかもしれないが行った。昼間も行ったが、かんじがかなりちがっていた。夜の京都もなかなかの物であった。しかし、思っていた程ではなく、ブレンバスターをしかけようとして、スモール・パツケージ・ホールドをくらったような気分であった。

でも、やはり、外出できたという事がとてもよかったと僕は、そう思うのである。

(宮池)

「修学旅行をふり返って」

やはり修学旅行は、自由行動が一番思い出深いものである。自由行動一日目は、計画が大幅にくるって平等院に行けなくなってしまいました。それによって、

「計画は慎重に」ということを思い知らされた。

二日目は、レンタサイクルをかりることができなかったことやいろいろなハプニングにみまわれながらも、何とか全部終えることができた。常に時間に追われていたが、竜安寺や嵐山などは、たいへんよかった。また我々の班は、広島の旅館では、バラバラになってしまったが、宏君の班は盛りあがっていてよかった。特に今回の旅行で目立って活躍したのは、二瓶君である。

しかしそれに増して印象深かったのは、〇〇事件だった。

(田中 一成)

とりあえず修学旅行が終わったわけであるが、何ともいろいろな

ことがありすぎた。一応グループ見学の計画は立てたものの時間が足りなくなつて最後の目的地のその駅までは、電車で行ったけれどもそのままの駅前の観光案内図の所で集合写真を撮っただけで、やむなく帰路についてしまったこともあった。またその時は、その駅の構内で、『あみだくじアイス』を買ったところ見事に当たってしまった人がいるではないか。後日、また同じ種類のアイスを買ったところ、何とまあ、また同じ人が当たってしまったことに、驚いた。

(藤津 聡)

修学旅行はとても楽しかったけれども、班長として僕はとても自由行動の時は、本当に疲れた。一日目、二日目とも時間が足りなくなつて、見学場所を、減らしてしまつたけれども、とにかく制限時間内に帰らなければ旅館にもどつてからが大変なので、常に時間の事が気になってたまらなかつた。もう少し計画をきちんと立てればよかったのだが、終わってみれば、急いで寺を回ったり、移動をするときに、走つたりしたことも多い思い出として残っている。とくに、渡月橋から駅まで走つた時のみんなの気迫はすごかった。僕の班には特に多いのかもしれないが、ほとんどの班員が毎日、電車に乗り遅れないように懸命になって走つたりしているので日ごろの成果を十分發揮して、その時は電車に間に合った。

(照井 健司)

「学び修めたもの」

学び修めるなどと凄まじい名が付いている旅行だったのだが、自分は一体どんなものを学び修め感動したのであるか。

それが、巡った寺や公園についてではないことは確かであった。それらは全て、ガイドブックなどに詳しく載っているものであり、当地に行ってもガイドブックの写真と同じものがそこにあるというだけで実感など湧いてこなかったためだ。

結局、目的地の間々の電車の中や道端で土地の人々の「しぐさ」や「言葉の訛り」に接し得たということが自分にとって一大の学び修めであり、また、班行動は大きな意義があったと教えてくれたのだ。

(岩木 薫)

二 班

「修学旅行」

班行動は、まあまあよかった。いくつかの寺を見てまわったり、映画村へ行った。しかし、寺など見ていてつまらなく、拝観料もつたなく感じた。夜になってからの京都での外出もよいものだと僕は思った。

最後の日はひくい山へ行ったけれども雨が降っていてとても寒くて、そのうえじつと寺の中に座らせられたので足がしびれてしまっで、話してもあまりよく聞けなかった。

しかし、電車やバスなどでの移動中なんかは、乗り物に酔ってし

まったために静かになっていた人もいたけれども楽しく修学旅行をやれたと思う。

(深井)

「修学旅行についての感想」

行きの新幹線でいきなり気分が悪くなった者もいたけれども、さすがに修学旅行とあって、みんなの顔が、いつになく生き生きしているように感じられた。

広島では、講演で時間がとられて、平和公園しか見学できず残念だった。

京都での班行動は、計画そのままというわけには、いかなかったけれど事故もなく一応成功であろうと思う。

最終日は、滋賀と比叡山を半日で、いそがしく見学した。

四日間をふりかえって見ると、これといってやなこともなく面白い旅行だったといえるだろう。

(荻野 剛)

修学旅行にて……

広島の原爆資料館では、被爆者の写真があった。ひどかった。

二日目の自由行動では、映画村に行った。映画村では、テレビや映画の時代劇に出てくるようなセットがあったけれど、なんとなくチャチだった。

それから二、三の寺を回って新京極へ行った。二人ぐらい脱落者がいたけど無事に土産が買えた。

最終日には、比叡山へ行って、住職の話聞いたけど、山の上に行くくと、雨が降っていて寒かったうえに床の上に正座させられたので、足が冷たくて、その上しびれた。

(黒田 健市)

修学旅行について

今回の修学旅行は、小学校や中学校の修学旅行と一味違った旅行であった。それは、班行動の時間が一日半という長い時間があつたからだと思う。お寺は、あんまり興味がなく、つまらなかつたけれども、映画村だけは、なかなか良かったと思つている。広島では講演を聞いてから、原爆資料館を見たが、なかなか戦争のこわさがわかってよかつたと思う。比叡山では、雨が降つてとても寒くて、また、正座させられて、足がしびれてしまった。いつも修学旅行へ行くといやなことがある。それは、食事がおいしくない。まずいということだ。今回もやはり、同じであった。新幹線の中で弁当が配られたが、僕のきらいなものはかりで30%ぐらいしか食べられなかった。また三日目の夜は、すきやきで、きらいなものはかりでほとんど何も食べられなく、腹が減つてたまらなかつた。

(塩沢 義隆)

短かい旅であつたが全体的に楽しかつたと思う。しかし、部分的ではあるが反省すべき点もあつた。それは、夜中に起きて遊んでい

び部屋で遊んだことである。前者は中学校とはちがつて幅広い視野で京都の街を見ることができ、友と語りながら歩いたことは、将来忘れられないことになるにちがいない。ただ一つ、失敗したことをいふならばそれは、グループ行動の計画が計画と同じように行動できなかったことだ。それが少し残念であり、この修学旅行のやり残した課題でもある。これが成功したならば、今回の旅行で得られたばかり知れない何かを、見つけることができたかもしれない。いやきつと、見つけることができただろう。

(小林 信弥)

旅行は一人、もしくは少数人数に限る。大勢で行くと集団行動の悪い面ばかり目立ってこまる。もっとも大勢での旅行がまったくつまらないわけじゃない。大勢でわいわいはしゃぎながら行く旅もまた格別である。しかし今度は旅行は旅行でもその上に「修学」の二文字が付いている。当然ただの物見遊びであつてはいけない。安易な気持ちでは、わざわざ旅費を出した人にすまない。だから旅先では、見れる物は可能な限り全て見ようと思つた。実際時間の許す限り、見物することに努力した。得たるべき物も多く、大変有意義であつた。それで私個人の「修学旅行」は、おおむね成功だと思つた。しかし、広島にせよ、京都にせよ、まだまだ見る物が多い。今度一人でゆつくり見物に行きたい。

(高橋 剛)

最後に……

以上、わが班のたてまえにかざられた作文をよんでどう思ったか

は、当者の知るすべもない。

ただ一つつけ加えることは、みんなが寺を回ってどうのこうの、拝観料がどうのこうのいつているやつがいたようだが、わが班の愛すべき凡人どもはみな「ひろみ私をぬかして」拝観料をケチッて金のかかる寺には、一つも入らない事実を伝えておきます。

それにしてもぶっちゃけた話高校二年生で十時就寝は、あまりに早いあまりにむごい仕打だと思っちゃったりして。

余談になるが、お好焼を食べられないのは、残念だった。

追伸、広島駅の立ち食いそば屋で食った、かけそば、一九〇円ナリ、はおいしかったです。

(鍵谷 修一)

三班

広島のホテルは最高だった。フロはきれいで、ながめはよくて、それにもまして、そこがあの東京読売ジャイアンツの広島常宿だということだ。しかし不満がないわけではない。まず第一にメシがまいちまずかった。江川や原もあんなメシを食っていたのだろう。次に、メシを食うところがやたらせまかった。太めのオレにはとてもせまかった。

京都のホテルは最悪だった。フロはせまいし、ながめは悪くて、それにもまして、あのへやのせまいことせまいこと。しかし不満だらけというわけではない。広島に比べメシがうまかったのはオレにとってはよかった。もう一日長く行きたかった。

(川島 哲也)

修学旅行の思い出は、たのしいことばかりである。特に旅館での出来事は、今思い出してみても、思わず笑ってしまうことばかりであった。その中でも特に印象に残っているのは、世羅別館での夜であった。本当は徹夜するつもりであったのに、疲れて眠ってしまったが、それなりに騒いで面白かったと思う。

(平田 勇次)

うれしかった事。 広島の旅館で、30円が40円になった。

こわかった事。 平和公園で人と目が合ってしまった。

楽しかった事。 旅館の向かいのかんどふさん。

はずかしい事。 旅行中、北高のボタンが二つだった。

悲しかった事。 お好み焼の肉を頼めばよかった。

ショックな事。 すきやき戦争でベナルティをとられた。

痛かった事。 夜中にけん玉が弁慶の泣き所にあたった。

なつかしい事。 映画村の『ゲッターロボ』

面白かった事。 あれもこれも思い出すたび面白い。

(古和田一輝)

高校生活における最大の楽しみとされている修学旅行に僕は、期待感あふれんばかりに望んだ。

しかし、僕は期待を裏ぎられてしまった。というの僕らが男子クラスであったからだ。共学クラスの人達が仲良くしているの比べて、僕は、何であろう。とてもみじめだ。不公平である。これは、絶対おかしいことだと思う。

しかし男子クラスには、男子クラスの良いところがあるはずだと

というわけで、原稿をたのまれたんだけど、僕ははじめからの旅行に乗り気ではなかったから、さっきから筆が進まないんだ。気が乗らない理由なんか考えればいくらでも思いつくことができる。でも、今は本当に筆が進まないから書きたくなくて。だいたいにおいて、集団で行く旅行なんてあんなものだもの。楽しくてしょうがないと思うよ。旅行とやって、行くと頭の中がそれだけになるじゃない、家に帰った時に、またいつもの生活へ逆もどり。

楽しかったよ、この旅行。あまり期待していなかっただけにね。行ってよかったのか、行かなければよかったかなんてわかりはしないよ。

(戸村 公彦)

いきなりこのような紙を出されたので、何を書いたらいいのか迷ってしまった。まっとにかく無事に旅行が終ってホッとした。一番印象に残ったのは、やっぱり、広島平和資料館だった。なかなか楽しい旅行だった。

(荒川 元治)



思う。けれども、やっぱり、三年になったらせび共学クラスになって、遠足に期待をかけたと思います。

でもやっぱり修学旅行は、楽しかった。良かった。

(佐藤崇一)

フムフム。あれが話に聞く

楽しかった修学旅行。だったんだなあ。人が言うほど一生の思い出には、ならなかったなあ。盛り上がりイマイチ。いやイマザンくらい足りなかったような。お出かけカードという物があったのでお出かけしてきたが、これといって見るものもないし、何が京都なんだか考えました。うん／＼これは京都の街に期待する僕らの間違っていたのだ。うん／＼しかし楽しい修学旅行だった。ああ／＼男子クラスはいいなあ。フムフム。

(鈴木桂二)

修学旅行の思い出

今回の修学旅行で思い出に残った事は、初めて広島に行った事です。戦争の跡が残っている所は、いろいろな所には、ないから、広島は、平和を訴える人々の最先端に立っているのです。僕は、そういうことには、はっきり言うて関心がないと思うので、この旅行を通して、いろいろな事を学んだと思うのです。

そしてもう一つは、グループ別で京都・奈良を回った事です。事前に調べたとおりかなと思いつつ見て回りました。天気にもめぐまれよい見学になったと思います。

夜遊んだのもよくなりました。いろいろな思い出を作れた修学旅

行だったと思います。

(戸田健太郎)

修学旅行で印象に残っていることといえば、一日目は、フィルム事件とのぞき事件、あと、YMCAホールで死にそうに暑かったこと、などで、二日目、三日目は、景色の美しさと、つかれが出て元気が出なかったが、琵琶湖大橋から見た、虹の美しさは、とてもよかった。

最後に、新京極で青森県民や、千葉県民とまちがえられたのは、僕に大きなショックを与えた。いろいろな事があったけれどとても楽しい思い出となった。

(田部井一嘉)

11月の中ごろ越谷北高で恒例の行事の一つ修学旅行があった。行くコースは、毎度おなじみの京都及び初日の広島だ。

広島へ行くことによって原爆を落とされた街を見て戦争というものは、どんなに恐ろしいものかを理解させるために、行くのであった。YMCAホールで聞いた中国放送記者の話は、今でも印象に残るほど戦争の恐ろしさが感じられる。平和公園や原爆ドームなども初めて行った広島という街の印象は、強く心にひかれたようだ。

京都へ行ったが、一日半かけて行ったコースは日本の美しい景色京都は、そのとおりであった。最終日に行った琵琶湖コースで帰りに琵琶湖にかかる虹を琵琶湖大橋から見られたが、その景色が一番美しく感じられた。

(増本昌弘)

広島での旅館の食事は最悪でした。料理がでなくて食べる場所がです。風呂は広くて最高でした。夜は、なかなか眠れず最悪でした。うるさいのがいて。京都での旅館での食事は最高でした。部屋ごとに食事ができたので。夜は広島の時と変わりはなかった。いろいろと話をしている、いつの間にか、午前0時を過ぎてしまっていて。見学地が一番よかった所は、平等院です。建造物もよかったが、池にいたコイが大きいのに感激してしまいました。

(本間)

修学旅行の思い出は、なんといっても、寝るときでした。二日目三日目は、それほどではなかったのだけれど、初日は、大変面白かったです。なんだかんだ話をしていて、二時ごろになっています。その次は、延暦寺と平等院でした。平等院は、建物が美しく、見事でした。ほかの建物も見えなかったけれど見ることができなかったのが、残念でした。延暦寺は、大変寒く、ふるえながら、足がしびれながらの見学でしたが、長い間燃え続けている火を見て、時の流れを感じました。

(野上)

修学旅行でいろいろな所を見学して、いちばん印象に残った所、それは平等院鳳凰堂でした。ガイドなどで見たのとは全然違い、だいぶ汚れていました。でも前にある池のむこうから鳳凰堂全体を見るときや、やっぱり建築物に重量感がありとても美しかったです。

旅館は広島のホテルのほうがきれいでとてもよかったですけれど、食事をするときがとてきまうくつだった。京都の銀閣は部屋が汚な

四 班

修学旅行の初日は広島の見学から始まった。広島公園を見学してやって来たのが、巨人軍の宿舎である旅館であった。そこはさすがにきれいであった。旅館に着いたときはつかれよりもわくわくする気持ちのほうが多かった。夜になっても、まだ興奮がさめなくて眠れなかった。その夜は夜中の二時ごろまで数人といろいろな話をしながら起きていた。そういった夜の話などから友達の本姓を知ることができてなかなかおもしろかった。

(原田)



午後になってやっと広島に着いた。最初にYMCAホールに行って講演を聞いた。うす暗くなってねむたくなってしまう。それから平和公園に行った。原爆に焼かれた人の写真やこわされた建物のざんがいとか原爆のおそろしさがわかった。二日目は、京都に行っている間、宇治に行った。平等院は、すばらしかった。夜、地下街に行くとバッグを買った。三日目は、朝から班行動だった。西大寺から唐招提寺まで、一時間以上歩いた。とてもつかれた。四日目、ひくい山へ行った。とにかく寒かった。びわ湖もきれいだったけども少ししいたかった。

(下田)

非常に朝早く起きたので、東京駅に着くまでに体力を使いきってしまった。東京駅からは、気力の勝負となった。やっとの思いで広島についた。しかし、気力も新幹線の中で使いきってしまった。あとは、みんなのあとを、ただららとついていくな方法がなくなっていた。

(三瓶康二)

非常に一日目はつらかった。

(鈴木 宏)

修学旅行三日目、奈良に行った。西大寺、薬師寺と見たあと唐招提寺を見学した。朝はげしく降った雨がうそのように晴れわたる。古い歴史のあるこの寺の金堂、講堂のあたりは、人がとても多かつたけれど、少し奥に入ると、さすがに寺というだけあって、落ち着いた気分になった。鑑真大和上御影堂・地藏堂、旧開山堂、礼堂東室などのとても古い建築物が広い空間に整然と建っていた。中学の時もこの寺に来たが、今回のような自由行動ではなかったの寺はつまらないという見方をすくなくならずもっていたが今回の旅行ではそういう考え方を改めさせられたような気がする。

(福岡信宏)

五 班

「修学旅行の感想」
まず、広島でお好み焼を食べなかったのがとても残念である。京都の夜は楽しくないので、広島の前夜をもっと知って帰りたいかった。男子だけの部屋で男子クラス、旅行中女子との接触はなかったが、それなりに楽しい修学旅行だった。

(曾根)

修学旅行の初日は、はっきりいってつまらなかった。広島のこと、ためになつたけれど……。やはり、広島の前夜と公園でそうとうの時間が余ってしまった。何もすることがなかったからかも知れない。しかし、二日目は、京都で班ごとの自由行動。ぼくたちの班は、たいしておもしろい所へは、行ってはいないが、自分の足でい

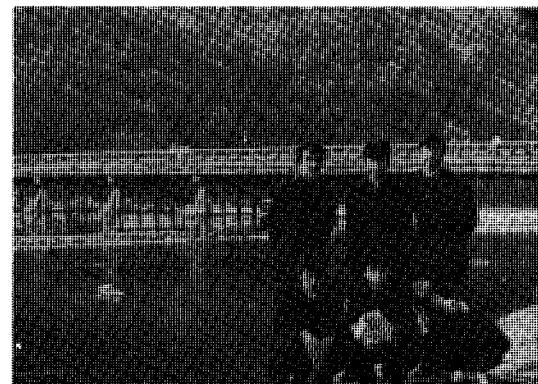
ろいろまわったのでまあまあよかったと思う。そして、三日目は秋の紅葉の美しい嵐山。とてもよかったと思う。全体として、最初はつまらなかったけれどだんだん楽しくなり、あつという間に過ぎ去ってしまった修学旅行だと思ふ。

(野本弘之)

嵯峨野めぐり。竹林と真っ赤な紅葉は今でもはっきりと覚えている。タクシーが印象を少し悪くしていたが、歩いていると、すぐく落ちつく。祇王寺の一面に敷きつめられた緑色の苔のじゅうたんに紅葉が散っていたのはなんともいえず美しかった。京都はとてもよい所だった。

(富田超之)

修学旅行に行つてきたわけだけでも、全体的に思ったことは、あまり修学旅行という感じがしなかったということ。なぜなのかなあ、と考えた結果、クラス全体で行動をとる



六 班

ことが少なかつたからなあという結論に達しました。班行動だからふつうに遊んでいるような気になつてしまつたのでした。でもそれなりに班行動は楽しかつたし、わりと自由なので、どっちがよいとはいちがいに言えません。それでも、やはり、実感がわいたのは、バスの中と、新幹線の中かなあ、と思うのは自分だけでしょか。

他に思い起こせば、初日、バスガイドはおばさん事件、夕食のプリンはアイスだった事件、二日目、広島駅でよっぱらいに髪をなでられた事件、三日目、昼にピザ食べすぎてすきやき食べられない事件、最終日、坊さんの話しの途中の記憶が空白事件、新幹線足をなげ出し安眠事件……。変なことばかりあつたなあ。でも楽しかつた。

(鈴木誠)

これがおわると後は何も無い、ただ暗い受験がまっているだけに、何も楽しいこと悲しいことがなくおわってしまった修学旅行。いろいろ恋なしでじつに暗い、未来も暗い、自分の考えも実に暗い、浪人はまず、まちがいないだろう。

(宮本)

修学旅行では、女の子と会話もなく、むなしかつた。夜もとつととねて、どっかの軟派野郎とちがつて、女の子の部屋へ行つたりしなかつたぜベイビー。こうなつたら、サッカーと勉強に青春をかつて生きるしかない。がんばろうぜ//オー

(立花)

修学旅行の思い出

初めて京都より西へ行った。すべて見るもの聞くものが新鮮に感じた。広島の前夜と公園資料館を見たものすべてが生々しく記憶に残っている。その時、改めて核の恐ろしさを知つた。次の日行つた嵐山は、とてもビューティフルだった。その次の日の一日自由行動は三重県伊賀上野市まで行って忍者屋敷を見つけた。女忍者がいたがあまり若い人はいなかつた。残念だった。そして、いよいよ最終日琵琶湖へ行ったが、そこであるとても面白い事件がおきた。ぼくはそのとき、その現場にいなかつたがすごかつたらしい。とにかく楽しい旅行でございました。

(伊藤敦士)

修学旅行の思い出

一日目は、広島だった。一番印象に残つたのは、原爆ドームだつた。



た。また資料館は核の恐しさに、寒気のする思いがした。二日目は半日の班別行動。嵐山の紅葉がとてきれいで、感激した。もうちょっとゆっくり見ていたかった。三日目は、まる一日の班別行動。近鉄特急に乗って伊賀忍者の郷里伊賀上野市に行つて忍者屋敷を見た。屋敷の中は、思っていたより狭かった。最終日は、クラス別行動。比叡山延暦寺と琵琶湖へ行った。延暦寺はとても寒かったのでお坊さんの説教は身にしてみた。あつという間の修学旅行であった。

(静野康彦)

修学旅行の思い出

今度の修学旅行では初めて広島に行けてよかったがもうすこしおもしろい所も見てみたかった。二日目は京都に移動するので半日かかってしまい午後には嵐山に行つたがいまいち見た気がしなかった。三日目は一日全部班行動で伊賀の忍者屋敷や宇治に行つた。忍者屋敷はなんか狭い所に「ごちゃごちゃいろいろなものがあるだけみたいだった。宇治ではお茶を買って三〇〇〇円近くつかってしまった。四日目の最終日は比叡山と琵琶湖に行つたが別におもしろくなかった。最後に三日目の夜、腹が立ってしやうがなかった。

(高橋幸夫)

修学旅行の思い出

一日目に広島へ行ったわけだが、平和公園では自由行動だったのととてもよかった。資料館も痛々しい写真などには「核」というものを改めて考えさせられた。二日目に班別行動で嵐山へ行き、三日目にははるばると忍者屋敷を見に伊賀上野市まで行った。忍者屋敷

おこられたりもしたが、今はその一つ一つを思い起こすだけで楽しい。記念写真の写りはあまりよくなかったが、本当に充実した旅行だと、今実感している。

(篠崎 広行)

修学旅行の出来事

京都・広島への修学旅行は、昼も夜も楽しかった。グループ見学は見覚えのある所、ない所、様々であった。その中でもやはり嵐山がよかった。あそこは、何度行つてもいい所だと思つた。特に班行動の日は、天気もよく、紅葉がきれいで、写真を何枚も撮つた。しかし、腕が未熟だったため、見た感じと全然ちがう。その後も、いろいろ失敗があったが、楽しかった。夜も昼にひけをとらないほどおもしろかったが、日頃、よくねるので、11時近くになるとすぐにねてしまったが、やはり楽しかった。

(堀口 敦)

広島特集・広島感想

次のような意見がでた。

原爆以上の破壊力を持つ水爆や中性子爆弾を開発している各国には、「広島」に対しての反省がみじんも感じられない。
京都ほど楽しさはなかったがたいへん有意義な広島だった。

までは非常に長い旅だった。その夜はすきやきだったけれど、一人では足りていない人がいた。でもいざとよかった。四日目はとても寒かった。四日間があつという間だったけれども楽しい旅行でよかったような気がします。

(鈴木浩之)

修学旅行の思い出

修学旅行の中で一番期待していたのは、グループ見学のうちの伊賀忍者屋敷である。修学旅行前、グループ見学の計画をたてているとみんなに「そんな所に行くのか」と馬鹿にされたが「女忍者だぞ、いいだろう」と、いるわけのないのに、そんなことをいってみんなを笑わせていた。しかし、行ってみると、本当に女忍者はいたのである。二人三人……。五、六人いた。女忍者の演技もなかなかのものであった。

他のグループもいく、嵐山も紅葉がきれいで、とてもよかったが静かな伊賀もまた、よい思い出となった。

(阿部保弘)

修学旅行

三泊四日と短かい修学旅行ではあったが、十分楽しめた旅であった。特に班別での自由行動がよかった。見学先は伊賀上野の忍者屋敷、茶のうまかった宇治の平等院、嵐山は紅葉で非常にきれいであった。あまりきれいなので知らない間に手が、もみじを一つ二つ頂いていた。

旅館に帰りついでからも、いたずらや騒ぎはおさまらず、先生に

ぼくは、はじめて広島に行きました。広島に行く目的は、もちろん原爆についてですが、広島という街は、とても原爆が落ちたとは思えない復興ぶりでした。そして広島の人々の努力には本当に頭が下がる思いです。絶対に広島や長崎をくり返してはいけません。ぼくは絶対に核なんかで死にたくない。

社会の授業で戦争について聞くことよりも広島に一回行くことの方が何倍も戦争の恐ろしさがわかりました。また広島に行けたことは貴重なことのように思いました。

広島といえば原爆がすぐ頭にうかんでくるが、僕らは実際に経験したわけでもなく、見たわけでもないからどんなものかピンとこない。しかし、それは鉄の壁を曲げ一瞬にして人の体を焼きつくしてしまうほどのものだったことは知っている。平和公園に行つて原爆に対する恐怖心はますますたかまった。平和記念館で見たあの被爆者の写真や人の体内からとりだしたガラスの破片、そして熱でひん曲がったビンなど、まったく思い出すだけでもぞっとするようなあの光景は見たくない。またそうやってはいけないとよりいっそう強く感じた。平和公園は今、平和を願う中心地であるが、被爆された日のあの場所は人々の叫び苦しむ声でいっぱいであつたろう。その被爆者たちのためにも、世界中から核をなくさなくてはならぬ。世界中に核がなくなるまで燃やし続けさせるといふあの火を一日も早く消せるよう努力しなくてはいけないと思う。

まず原爆のひどさを改めて知った。見るものすべてが信じられなかった。そして被爆者の着ていた衣服などがあつたがそれを見てこれをあの原爆の落ちてメチャクチャのときに誰かが着ていたと思つたらなんともいえない気持ちになつてしまつた。その他、熱風で曲げられた鉄道のやけどが体の70パーセントもしている人だの死亡？時間前の兵士などもあつた。今まで全く元気だつた何万人の人々がほんの瞬間によつてまったく別の世界に変わつてしまつた。ありふれているけどやっぱり自分もひどいと思つた。

当時の凄惨な様子を伝えるボロボロの衣服や蒸発してしまつた人間の影だけが残っている石段や変色してしまつた川原の石、屋根の瓦や原爆の光を直接あびて、ただれてしまつた皮膚が体の至る所を覆いつくしている写真、ホルマリンづけしてある被爆者から切り取つた世の中が恐くなつてきました。

広島や長崎に落ちた原爆の何百万倍という核ミサイルなどが世界中に何千も配備されていて、一人の人物の指一本で世界がいや地球自体が滅亡してしまふかもしれないのだ。

もう二度と繰り返してはいけないと思う。

広島にいる時間は、短かつたのですが、戦争という悲惨なものに身近にせつすることができて、平和の大切さが、よくわかるような気がしました。

旅行委員から

修学旅行が終わつてまさかこのように文集が書かされるだろうと誰も思つていなかっただろう。

このことは、旅行委員会でも、K君や他からも、文集なんてやだ絶対反対ノだといつていたけれど、結果は、このとおりに書かされるようになってしまつた。

まあそのことはこれくらいにして、この修学旅行を、どうみんなは、思っているだろうか。たぶん楽しい修学旅行だと言つても本音は、つまらなかつたと思う人も少なくないであろう。ある人に、きいたら計画と実際の行動がメチャメチャになつてしまつた班も少なくない。時間が足りないという班もあつたし時間がたくさんあまつて早く旅館へもどつて風呂に入った班もあつた。計画をたてたけれども実際には、うまくいかなかつた。

最後にこの文集でクラスのページをたつた一人で、やるのは、たいへん酷なものだ。しめ切りの時間をまに合わせるができなかつたけれど、この文集ができてきたときのよろこびは、ものすごいものだと思ふ。

この文集をつくるのにクラスの全員が協力してくれたのでなんとかおえることができたことに旅行委員から感謝します。

修学旅行二人一言名々集

。「もうテレビは見ませ〜ん」

(一成)

。「さあ皆、悟りの境地を開くのだ。」

(薫)

。「あたり〴〵」

(金井宏)

。「麻雀すまんノ」

(晃)

。「三日間通算睡眠時間8時間〴〵 眠い」

(なつき)

。「5時までながかつた」

(文夫)

。「リオのカーニバルに私は誘われた。」

(照井健司)

。「別世界」

(深井)

。「損したノ」

(黒田)

。「茶番だ、そして私は大根役者だ。」

(T・T)

。「三日目は睡眠不足。」

(小林)

。「よつよつよーかたべたいな。」

(鍵谷)

。「こまつた」

(荻野)

。「絶不調」

(塩沢)

。「広島島の旅館で見えるはずのないとなりのおねえさんのヌードを夜中までまっていたのはなにをかくそうこのボクです。」

(川島哲也)

。「ヤイ、銀閣。あの部屋は何なんだ。まるであれじゃタコ部屋じゃないか。T・K君と十組のK・K君が入つたらもう誰も部屋に入れないゾ。」

(ヒゲキのマスモト)

。「え〜 うっそー やだ〜ノ」

(トムラキミヒコ)

。「ボクの青春は今始まつたばかりなのだ。」

(平田勇次)

。「あア楽しかつた。」

(佐藤崇一)

。「よるなノさわるなノこちくるなノ〴〵夜にて」

(K・K)

。「ボクの青春は終わりました。」

(田部井一嘉)

。「ぶたたまはうまかつた。」

(荒川)

。 広島の旅館から、となりのビルにいるお姉さんのモードを見るはずなのに、電気を消して一生懸命見て夜おそくまでおきている人がいた。
(戸田健太郎)

。 ぼくの背中には二枚のふとんとその間のたたみのあとがクッキリ残っているのだ。
(ボク鈴木桂二)

。 どうせ広島駅の待合室でよっぱらいに髪をなでられてかわいがられたのはこの俺さ。
(鈴木 誠)

。 想い出の嵯峨野路を彼女と歩いた秋の午後
(立花)

。 男同士の夜を楽しんだのはこの俺さ。
(曾根)

。 SくんとTくんはがまんでできなかったようですが僕はじつとがまんしました。
(富田)

。 オフコースの歌のよさを知った日々だったぜベイビー。
(宮本)

。 ワースト一位 あと少しで少しで達成 よかった。
(だんな野本)

。 あーあおれも寝言とかいって名言にのこしてくればよかった大阪のおばさん都こんぶごちそうさま。
(あべやすひろ)

。 旅行は短かし、恥多し。
(堀口 敦)

。 三日目の部屋割りはどうにかしてほしかった。
(高橋幸夫)

。 夜中にTVのスイッチである人と一戦を交えたのは、ぼくだ
(静野康彦)

。 トイレのスリッパをにぎりしめて寝ていた男を私は知ってる
(篠崎広行)

。 すきやきを一人で食ってたやつはだれだ。
(鈴木浩之)

。 きでい……………
(伊藤教士)

。 もっとゆっくりしていたかった。
(本間)

。 あの夜の八つ橋はうまかった。
(下田啓一)

。 あの夜のTVではわりがあわない。
(原田暢巳)

。 もっとゆっくり寝たかった。
(野上 誠)

。 たのしかった。
(福岡信宏)

。 トイレがこんでゆっくり出せなかった。
(二瓶)

。 ちょっととまで。
(ひろし)

広島への試み

佐藤 昭子

八月二十日、十三時三十二分。私たちは実際の修学旅行と同じ時刻の新幹線で、下見のために広島を訪れた。連日三十五度というニュースから予想していたほどではないにしても、ホームはむっとする暑さだった。修学旅行の係でもない私が、残り少ない夏休みに未練を残しながら、この一行についてきた大きな目的は、広島を生徒より一足早く知っておこうということだった。広島という土地の持は、これがはじめてである。そしてこれまで、広島という土地の持つ意味すら深く考えたことがなかった。正確に言うならば、考えることを避けてきたと言った方がよい。自己の矛盾があらわになるだけで、自分なりの結論など出ないのではないかといった予感によって、憶病にも広島から目をそむけてきた。そんな自分自身を追いつめる手段として、この下見に加えてもらうことにしたのだ。

旅館との打ち合わせ、平和公園、と順調に仕事は進んだ。平和公園での見学時間は、記念写真撮影を含めても二時間あれば十分であろう。翌日はもう京都である。平和公園だけで第一日を終えるのはもったいない。もう一カ所計画できるのではないか。「そうすねえ。」私は気軽に同意した。「それなら佐藤さん広島の係になってよ。」全くのゆきかりであった。

広島市観光課の出している『ひろしま修学旅行ガイド』、この冊子がこの先ずっと頼りになるのであるが、これには広島の見どころ

がいくつもあげてある。広島城、縮景園、不動院……。しかし今回の修学旅行で広島がとりあげられたのは、観光地としてではない。世界最初の被爆地としてである。それならば、もう一カ所の見学地というもおおのずから絞られてくるはずである。

前述の冊子を繰っていると「ヒロシマで被爆体験を聞こう 広島平和記念館内広島平和文化センター」という文字が目に入った。その時すでに次の見学地である京都に来ていた私たちは、百円硬貨をかき集めて、書かれている電話番号を回す。平和文化センター、講堂は定員三百名。しかし実際に修学旅行で広島へ行く十一月十日は、もう予約でいっぱいとのこと。

せっかくの好企画は、あっけなくつぶれた。しかしながら、他の会場へも講師を派遣してくれるという。埼玉へ戻ってきてからは、専ら会場さがしのために電話にかじりつきであった。中国新聞ホール―ダメ。けんしん講堂―ダメ。青少年センター―ダメ。RCC (広島放送) 文化センター―ダメ。「こちら埼玉県の越谷北高と申しますが……」何度も同じ言葉を繰り返す。「少々お待ちください。担当の者とかわかります。」あちこち電話を回された挙句に断られたりもする。広島弁が何と冷たく響いたことか。どこの会場も大抵一年か半年前から予約を受け付けている。十一月の修学旅行で、八月末に会場さがしというこちらの出遅れを後悔せずにはいられない。

やっこのことで、労働会館という所がとれる。定員は三百八十名。YMCAホールも百名収容可。RCCでは、二十年近く被爆者の取材を続けておられる報道部の記者を紹介してくれる。記者クラブなどに電話するのをはじめての経験である。修学旅行ということで、

その趣旨をくんで、ひきうけてくださること。一面識もない人からの暖かい言葉に、こちらの胸も熱くなる。

労働会館では平和文化センターから派遣してもらった語り部の方に被爆体験を語ってもらう。YMCAホールでは、RCCの記者、榎繁氏に、被爆体験のない御自分がどのように被爆者とかかわってこられたかというお話しをお願いすることになる。原爆病院の訪問は、大勢は遠慮すべきだということで、今回はさしひかえることにしたが、放射線影響研究所、広島大学放射能医学研究所、どちらも五十名程度なら、と見学の許可がおりる。

四つのコースを提示して、クラスの希望をとったところ、二つの研究所のうちどちらかを希望したところがほとんどであった。抽選で調整を行なって、広島の日コースとそのクラス別が確定したのは、九月も末になっていた。

旅行のじおりを作成する段になって、旅行委員が広島案内を書くために、各クラスに「何のために広島へ行くのか」という問いかけをした。その結果が、今私の手元に残っている。

。平和のため。戦争を知るため。二度と戦争を起こさないため。過去の事実を知るため

これが生徒の本心なのであろうか。いやおそらく、今まで学んできた知識がこう言わせているのだろう。彼らは「広島」と問われれば、何と答えれば良いか知っているにすぎない。これらの優等生の答えにまじって、本音らしきものも垣間見える。

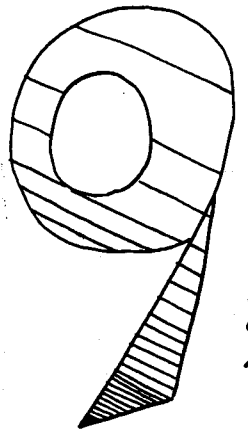
。広島なんか行きたくなかった。広島より、萩とか津和野とか、行きたい観光地は他にもっとたくさんあるのに。 。京都三泊自由行動がよかった。

修学旅行が学校行事として始められた頃とは隔世の感があり、今や生徒はどこへでも旅行する。現在の修学旅行は、観光を第一目的としているのではない。一年前、修学旅行の行き先の希望をとった時、確認したつもりだったが、やはり教員の考え方とはずれがあった。生徒たちは、「クライ」という昨今の流行語を広島と結びつける。生徒の気持ちは、第一日めの広島を飛びこして、京都の自由行動のこともちきりだ。

広島に原爆が落とされたという事実は、確かに私たちの住んでいる埼玉からは遠く離れた所のことかもしれない。私たちの生まれる前のことかもしれない。しかしそれが広島での過去の事実で終わってしまう訳ではなくて、問題は今もまだ続いていることなのだ。いや今の私たちこそ、より問題意識を持って考えねばならないのかも知れない。

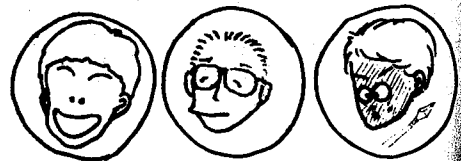
生徒たちの意識を痛感した上で、広島の前学習のテーマを、私自身このように決めた。原爆の驚異、広島・長崎の被爆の悲惨さ、そして現在の問題、という順序で、ホームルームの話し合いを進めてみた。事前学習の成果はどうであつたらうか。そして実際に広島へ行つて何を感じてきたらうか。私自身、反省点は数多くあり、生徒も満足いったものとは思っていない。しかし広島なんか縁がないと考えていた生徒も、ほんの一步か二歩でも広島に近づいたのではないかという気がする。

豊かな生活を送っている私たちは、だんだん物考えることがおっくうになってきている。今の一年生も、来年広島を訪れるという若い世代ほど広島から遠のいていくと思う。彼らはどんな広島を体験するのだろうか。



「アキヤ！」

組



広島

我があこがれの広島に行っ

鈴木 由美子

私が一番行きかけたのが、この「広島」でした。広島駅の着いたときは、思わず涙がこみあげてきて……。本当に感激の一瞬でした。

私は「カープ」の大ファンなのです。広島で、絶対にカープの帽子を買うんだ、と心に決め、いざ広島へと来たわけですが、残念ながら帽子は見あたらず、涙を飲んであきらめました。そして平和公園に行くとき見えた広島市民球場、すごく感激でした。平和公園から横断歩道を渡れば、すぐそこに広島市民球場が……。あーあ、むごいもんでした。でも見れて、すごくよかったです。きっと来年はカープが優勝ですよ”

話は変わりますが、まずは「講演」のことに。話して下さった人が「この人は本当に被爆者なのだろうか？」ということが、最初に思ったことでした。すごくきれいな顔をされていたし、すごくこやかな表情など、健康な人の同じ世代の人よりも、すごく若々しく思えました。

原爆の日の話、奥さんの話が、私は一番印象強く残っています。

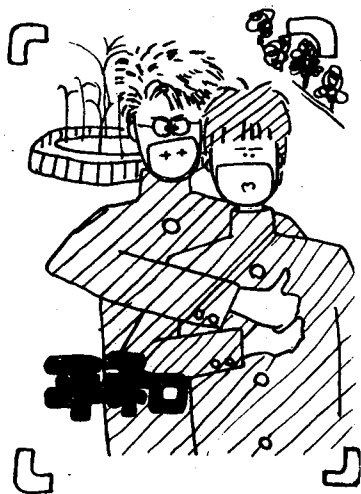
奥さんが被爆されて、お岩さんのようなお顔になってしまって、初めて鏡を見た時、思わず鏡をほうりつけて（この辺は記憶は確かではないですが）、毎日のようにだんなさんに「私を殺して下さい。」と言っていたことや、だんなさんも奥さんに対し、どうか「自分で死んでくれ。」と思っていたということが、すごくつらかったと思います。顔にケロイドが残って目が飛び出して、すごくつらかったと思います。でも現在、御夫婦それぞれ生きていらっしゃるということ、すごくすばらしいことだと思います。そんなつらい時期を生きぬいてきたこと、耐えてきたこと、そのことは、すごく心を強くしてくれたのではないかと思います。そんなよそこの人間なんか及ばないくらいがんじゃないかなと思います。そんなよそこの人間なんか及ばないくらい、長く長く楽しく、人生を送って頂きたいと思います。

資料館は、原爆のときの写真や、つめ、ピアノ。生々しく飾ってありましたが、すごくゾッとしました。でもなんとなく私には、「かわいそう」とか、「ひどすぎる」とか客観的な見方しかできませんでした。なにか、雲の上の世界といった感じにしか、思えません。でも、私たちがなにげなく、お弁当を食べているとき、体育をしているとき、そんなとき、原爆が落ちたんだな、今こうしているとき、何の前ぶれもなくしてしまっただな、と思うと、すごく恐ろしい気がします。絶対にもうこんなことは起きてはいけな

広島感想

堀口規昭

十一月十日に広島に行った。もみじまんじゅうと広島駅の入場券を買った。市内には色々な市電が走っていた。原爆記念館を見た。悲惨だった。だが原爆とは人間がはじめて物質をエネルギーに変えることができたものだから物理学的にはすばらしい功績をあげた。



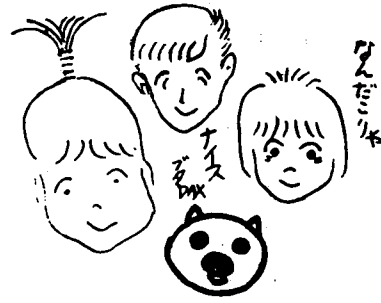
広島での感想

僕が生まれて初めて行った広島印象は、原爆が落とされたのに、もかかわらず、活気のある町だった。一時は廃墟になったのに、現在はビルが建ちならび、町中に市電が走り、観光地としても発展している。ホールの中で演説したあの人は、過去の苦い出来事を笑いながら話していたのが印象的だった。放射能をかぶった人たちのその後の行動は、二つに分けられると思う。一つはさきほどの人のように、過去の体験を二度とさせないように自ら笑いをもって見学に来た人々に話す例。もう一つは、自分のみにくい姿をみんなの前に出さず、自分の部屋のみすみでひっそりと一生を送る例、これが大部分だと思う。しかし、僕はもし原爆症状になったら、この二つの



例をとらないと思う。僕だったら、ケロイドの人が外に出ても恥かしくない状態——つまり、世界中至る所に原爆を落としてもらいたい、世界中の人々全員がケロイドを持つ人間になってもらいたいと思うだろう。けれども平和を思っている広島の人々は、決して一人もそうは思わないと思う。先日、新聞に『エルベの戦友』という題の記事が載っていた。ナチスドイツが敗北した時、西方から攻めこんだソ連・アメリカの両戦士が手を握りあった、平和の原点ともいうべき場所だ。核ミサイルの保有数が多い国が大きい国、強い国と思われている現在、平和を誓い合って戦死していった、あのエルベの戦士たちは、どう思うであろうか——。

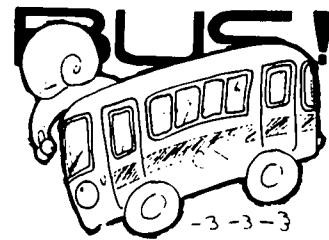
石井智美君でした。



ひろしま

豊岡憲子

広島に行って見たものは、原爆の悲惨なめにあつた人々の写真など。思わずのどに手をあててしまふようなものもあった。何ておそろしい物を作ったんだろうと、深くため息をついた。原爆を作ったのは人間でそれで命を失ったのも人間で……作って投げた人々はおざ笑っていたのだろうか……あんなに無惨な姿に変わりはてたのを見て、心から自分のおそろしさに気付いたんだろうか……。戦争なんて、きっと誰もいやだと思っただけだ。みんな命は大切にすると思っただけだ。だからもう核兵器のつくりっことはきっぱりやめることが、一番いいと思う。誰だってそうだと思う。どうしてそういう本心より互いを憎しみ合う心が出てきちゃうのかな。みんなが、世界中の人が、和気あいあいとのほのぼのと暮らせる時代って来ないのだろうか。みんな原爆のおそろしさをよく考えたらいいと思う。初め広島になんて行きたくなかったけど、写真見るのは気がひけたけど、今となってはただただ戦争なんて二度とたくない、核兵器なんて、もうどの国もなくせ、って思うばかりです。



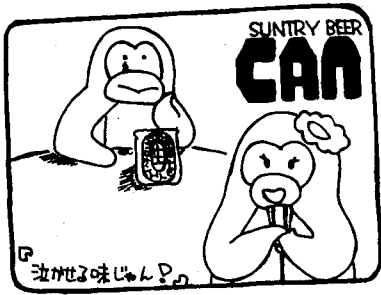
広島

月間俊之

「広島」について

田中美世子

一見して栄えているようであったが、よくよく見れば田舎である。つまりここは第二次大戦以来、全く手を触れていない部分と、急速に進歩した部分が合わさった、バランスの悪い所なのだ。記念館や原爆ドームなど、戦争の悲惨さを物語る資料は大変参考になったが、広島は戦争の結果だけしか見せてくれなかった。実際、原爆が恐いからといって、戦争を拒否することはできないところまでできているのだ。(もっとも、罪のない人が大量に殺されるのが常であるから、我々には興味のもてる点ではある……)



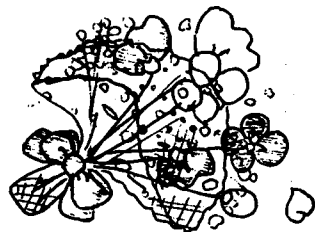
日頃、戦争だの平和だのといった問題に目を背けがちな私にも、広島は自然と憤りを覚えさせてくれました。これだけでも、大変意義深い旅行になったと思うのですが……。ますます核が進出する今の世の中で、もう広島のかげりなんて、本



当に、ちっぽけなものなかもしれません。しかし、どんなにかすかな声でも、叫び続けるものがいなくなったら、いったいどうなるのでしょうか。

私も、現実を見れば、「中曽根さんが、防衛費を拡大するのは、もともとだ」などと考える方ですが、その裏でしっかり過去の惨禍を心にとめておかなければならないのだと、改めて感じました。

広島を訪れ、少しでも平和について思う人が増えることを祈ります。



光にめしいた

友達が手を組んで

子らの丸き輪が

地獄の川に浮ぶ

浅瀬にとりつき

石垣をよじのぼる

生徒に手をさしのべる

傷ついた先生

きみは傷が軽い

元気を出して

がんばって

家に帰るんだ

わたしは もう

歩けない

だがきみは元気だ

さあ握手して

焼かれた広島

業火が 炎が

川面に吹きつけ

流れはわきたつ

傷重く力尽き

疲れた子がひとり

友の手をはなれて

叫びながら流れる

—レクイエム「碑」より—



グループ行動

修学旅行を振り返って

小宮 令子

修学旅行がおもしろかったと言う前に一つ言いたい。それは三泊四日だったことだ。四泊五日でも別にどうって訳じゃないけれど、でもやっぱり四泊五日の方がいいなと思う。

中学三年の時来た京都だが、季節もちがうしグループ行動ばかりだし、なかなかおもしろかった。私達のグループは計画どおりにだいたいまわれたし、その点については言うことなし。

半日だけのグループ行動の日の清水寺、一日の方の金閣寺がいちばん印象に残っている。清水寺は中三の時も来ました。この時はちゃんと水を飲んだけど、すごくこんでいたので飲めなかった。印象に残っているのはここでの写真撮影のことです。吉沢君が外国人さんに写真を撮って下さいとたのんでとったんです。外国人さんとは夢でしか話したことないけれど、ここでもまたしゃべれなかった。残念です。でもその外国人さんは私達の英語をうまいとほめてくれた。本当かどうかは……。

それから金閣寺でのこれまた写真をとった時のことなんだけれど、またまた外国人さんにとってもらったのです。2枚目をとった時、

私達はその場だけスターでした。外国人さん七、八人が私達をとっていたのです。とられていやな気分はしなかった。むしろカイカンでした。私の肩には黒人っぽい人のうでがのっかっていました。笑っている写真の顔の奥で私はただひたすら「おもしろい」と思っていました。おねがいですから体重はかけないで下さい。この二つがすごく印象に残っています。いい思い出になりますね。今度行く時は友達四、五人で行ってみたい。そしたら、ぜんざい、湯どうふ、その他いろいろを食べ歩きしてみたい。



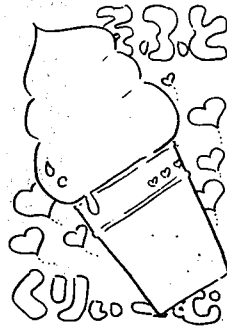
ぜんたいてきなかんそう

豊岡 憲子

もうっ最高の思い出になると思いますっ。考えてみれば四日間とも違う地に訪れたんだナーと満足してるのです。広島—京都(嵐山)—神戸(異人館通り・港)—滋賀県(びわ湖)。特に二日目、三日目ノグループ行動は楽しかったです。メンバー十名みーんな大好きになって帰ってこれたし。人一倍先生方にご迷惑かけてしまったけれど、それもすごくいい思い出です。先生もきつと叱る相手がいた方が、手ごたえのあっていいと思ったりして。:

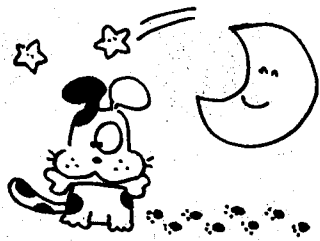
夜、もっと時間に余裕がほしかったナー。広島の旅館のボボッチいのはびっくりしたけど、まあいいんです。とにかくとびっきりいい時間を過ごせて、ご機嫌でした。

おしまい。

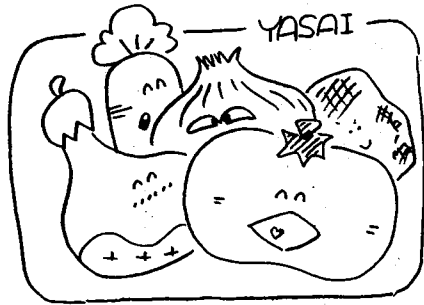


京都

伊東 由紀子



修学旅行では毎度おなじみの京都だったけど、このくらいの季節の京都は、紅葉がきれいだし、気候もいいし、旅行としては最高だった。予定もかなり余裕をみてたので、けっこうのんびりとみることができたんだけど、歩く距離が長すぎたのが玉にきずで、疲れた。特に京都で印象に残ったのは嵐山美術館と植物園、あと途中で食べたうす茶アイス。嵐山美術館は、大して期待していなかったのに中に入ってみると、武士のよらい・カブトでいっぱいだった。刀・ヤリ・銃の部屋、その他しゅりけんだとかいろいろと戦国から江戸時代の武士の道具類がたくさんあって、おもしろかった。植物

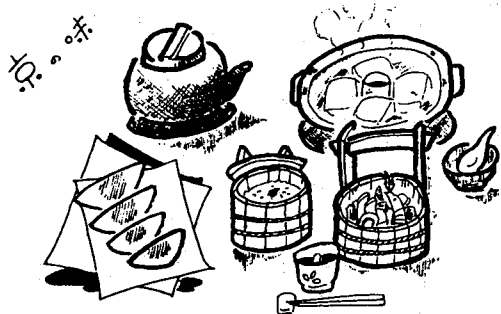


園は、見学コース中最高に良かった所で、季節にめぐまれたせいもあったかもしれないけど、紅葉やキクやいろんな植物でいっぱいだった。評判のいい嵐山にも行ったけどそこよりずーっときれいだった。キクの花展とか、紅葉のじゅうたんのような所あって、一日中いてもあきないと思う。今度は、春のいろんな花が咲いてる時期に行ってみたいな、と思う

た。いろいろなお寺にも行ったけど、お寺のほうは小学校のころと全く変わらなくて、ただおせん香のおおりのにおいだな—と思うたぐらいだった。特に化野念仏寺のおせん香のがよかった(??)。うす茶アイスというのは、まっ茶の色と味をしたアイスのことで、京都の人はまっ茶のことを、「うす茶・おうす」と言うらしいので、「京都の味」という感じがして、とてもよかった。できればおみやげに持って帰りたいと思ったぐらいです。今度行ったら、また食べに行こうと思う。

最後の日の比えい山では、正座してお坊さんのお話を聞いたのに、足のしびれが気になって、最後までよく聞けなかった。山の上に雲

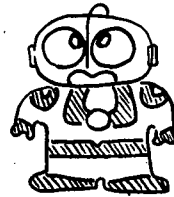
がかかってたんで、山の上から京都のまちを見下ろすことができなかつたのは残念だったけど、あそこは寒くて寒くて、長くいたいとは思わなかった。次の琵琶湖は、さすがに日本一の大きさだということだけあって、反対側の岸がみえなかった。でも景色がとてもきれいで、帰りの新幹線の中で見た富士山と共に印象に残った。



修学旅行の感想

月間 俊之

佐と一君の 鼻水 と田辺君の いびきには
まいった。



全体の感想

堀口規昭

京都の紅葉はきれいだった。
ちょうどよい時期に行ったのだと思う。
三千院と寂光院は特にきれいだった。
三泊四日は短かいと思っていたが、過ぎてしまえば、長くても短かくても同じだと思ふ。
修学旅行は始まる前までが楽しいものだった。



京都二日目、よく歩きました、走り
ました、待たせてしまいました。待ち
くたびれさせてしまって、本當にこめ
んなさい。
伏見稲荷大社のどこまで続くかわから
ないほど長い、とりの道、すずめの
焼き鳥。お屋に食べたあんかけ五目焼
そば、おいしかった。石投げで初めて

修学旅行全般の感想

鈴木 由美子

終わってみると、早かったなァと思います、最初の日、とくに
新幹線は非常に長く感じられました。一日がすごく長く感じられた
のです。思わず、二日目京都に向かう新幹線に乗っているとき、こ
のまま東京に帰りたいなァと思いました。

京都の一日目、さかのめぐり、はすごくすてきでした。嵐山の
紅葉、常寂光寺、落柿舎、二尊院、本當に紅葉がきれいでした。行
く場所行く場所で、撮影会がはじまってしまいました。すごく楽し
かったです。途中で一口二口もらって飲んだ、ひやしあめ、百十円
？のファンタレモンは忘れられません。盛り上がった夜、忘れませ
ん。このままずっと続けたいのと思いました。

三連発できたときのうれしさは忘れません。星先生がお帰りになっ
てから、良い天気になってた平等院、大仏さまの説明をしてくれた
女の人の話し方、忘れません。夕食のときの「すきやき」絶対に忘
れません。

京都三日目、最終日。

ひえい山はすごく寒かった。
お坊さんの話は、足がしびれ
て、ろくに聞いていなかった。
びわこ、きれいだった。
昼食、おいしかった。
思いがけぬ洋食、
ナイフとフォーク、
思わず興奮してしまった。



帰りの新幹線の中で食べた
リバポロ、
グリーン車に乗って、週刊誌
を読んでいたヒップアップの
トシちゃん、
きっと忘れません。

三泊四日の修学旅行、いい思い出になりました。

飼育係の散歩日誌

ほしむつお

九組の動物達を、四十四頭連れ出して、広島、京都と歩いてみる
と、増えたのは疲労、減ったのは髪の毛……!?

第一日目。

良く食べ、良く騒ぎ、良く寝ていた。まあまあ。
でも、もっと深刻でもいいんじゃないかな。

第二日目。

ひたすらはしゃぎ、ひたすら明るく、ひたすら軽い？
でも、もっと重みがあってもいいんじゃないかな。

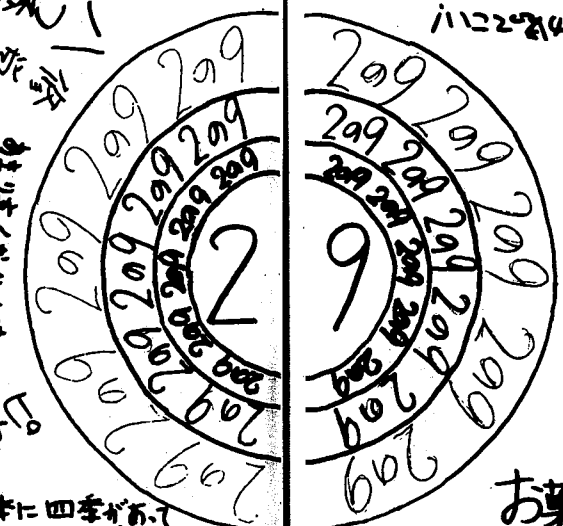
第三日目。

何頭かが道に迷い、何頭かが叱られて、何頭かがメゲていた？
でも、まあ、こんなものでしょう。明日からはしっっかり。

第四日目。

やっと帰れる。もうイヤだ。誰が二度と来るものか。
などと思いつながら、ひたすらに楽しそうに、そして、疲れきつ
た顔を見ていると、こんなものかな、と思ってしまう。
明日からどうなるのだろう、少しはマジになってくれるかな？

この回はトコトコ by DAX
 11月10日(日) 19:30
 11月11日(月) 19:30
 11月12日(火) 19:30
 11月13日(水) 19:30
 11月14日(木) 19:30
 11月15日(金) 19:30
 11月16日(土) 19:30
 11月17日(日) 19:30

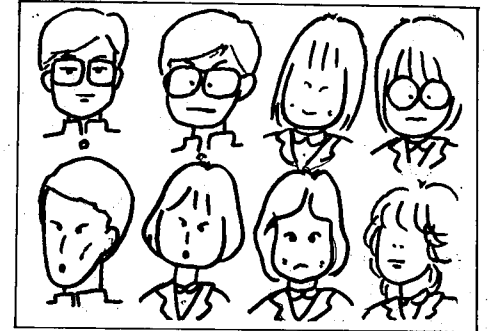


あんなに楽しかった...
 京都の夜景は最高だった
 正則
 はらへたよ!!!
 京都から...
 京都の夜景は最高だった
 正則
 はらへたよ!!!

お菓子をたくさん買ったのに...
 若崎康子
 京都の夜景は最高だった
 正則
 はらへたよ!!!

米二郎

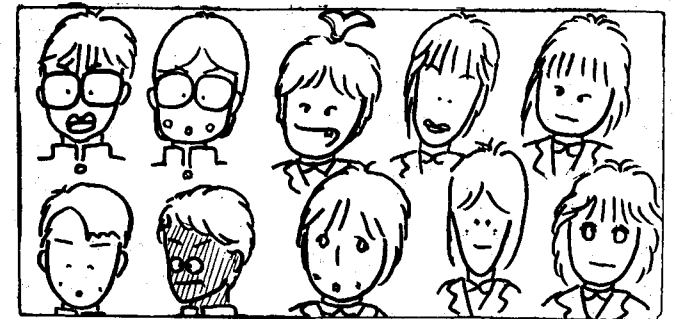
お菓子をたくさん買ったのに...
 若崎康子
 京都の夜景は最高だった
 正則
 はらへたよ!!!



中山 隆
清野 清浩
山寺 昭治
石川 朋代
鈴木由美子
土屋 澄江
牧野恵美子
森下 晴美

一班

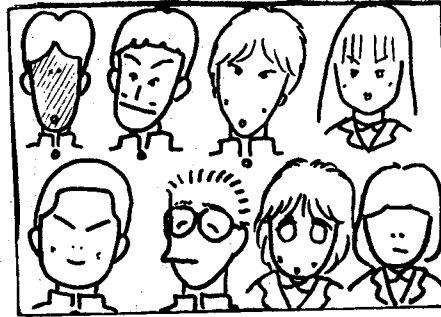
(反省)
最初に計画に入る段階で、あまりやる気がなかった気がする。
そのせいか、計画ができた時、それは少し甘く手を抜いたようにも見えた。それをもとにした行動だったので、時間の無駄な所があった。こうしたわけで、時間が不足気味の所もあった。見物先を中途半端に眺める事しかできなかった。だが、計画のコースは一応まわってこれた。そして事故もなく、帰宿時間にはしっかり帰ってこれたのはとてもよかった。せむしもう一度、行ってみたいと思う。



石井 智美
小沼 信昌
白樺 昇
吉沢栄二郎
有江あき子
浦野 香美
江崎 祐子
小宮 令子
渋谷由美子
高島真由美

二班

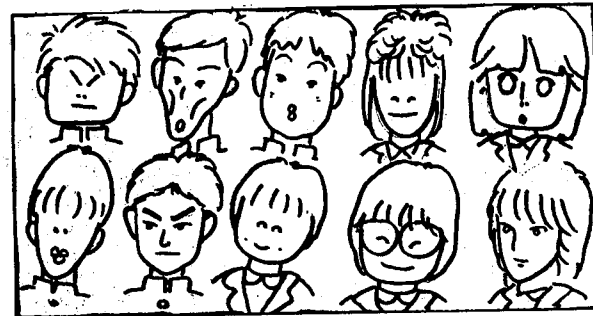
(反省)
三日目の最後に予定されていた東寺と東本願寺は時間がなかったため入れなかったがあとはほとんど予定通り行けたので良かったと思う。班は思っていたよりもまとまっていたし、行動もスムーズに行えた。成功した方ではないかと思う。



戸張 範子
小沢 勝司
佐藤 典通
鈴木 祥嗣
田辺 智明
月間 俊之
新井 恵
木村 麻紀

三班

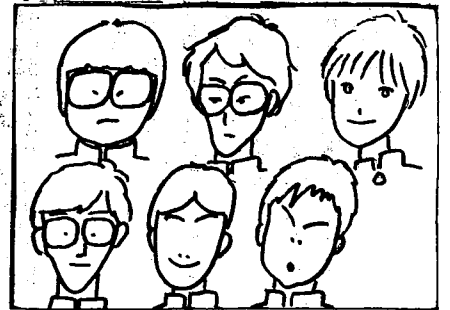
(反省)
半日コースの方は、計画ミスで、歩く時間に余裕がなくて、5時までには帰れませんでした。それも、北野天満宮へ行くのを中止したのにもかかわらず×××。もっとよく考えて計画をたてればよかったと思います。
一日コースの方は、「きのうのばんかい！」と思い、一生懸命予定に従って行動し、きっちりまわることができたのでたいへんよかったです。



斉藤 健一
秋田 浩史
石井 行雄
伊藤 享
瀬尾 隆史
奥野 雅子
小野崎房子
清水 朝子
武井真由美
豊岡 憲子

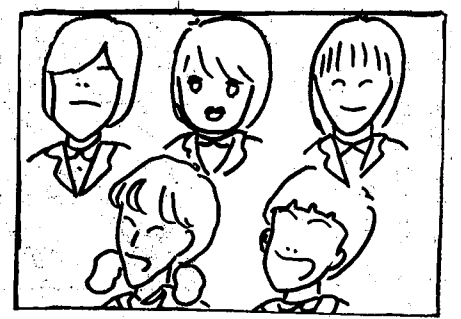
四班

(反省)
二日間のグループ行動で二日とも遅れてしまっすみませんでした。遅れきみだったせいもあってきちんと予定通り見学できなかったこと、とても残念でした。
三日目の夜、十時過ぎまでさわいで(?)いてすみませんでした。
星先生、本当にごめんなさい。



五班

- 中沢 裕之
- 小沢 正則
- 窪田 宗浩
- 坂本 智彦
- 堀口 規昭



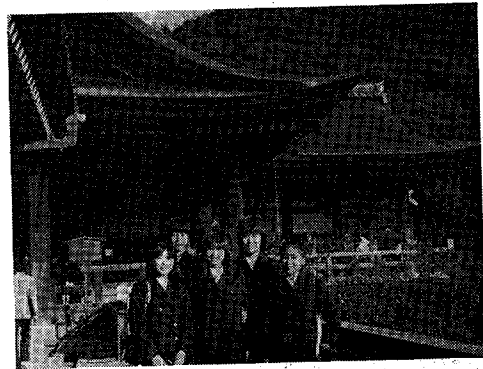
六班

- 山崎 和美
- 伊東由紀子
- 岩崎 康子
- 田中美世子
- 永井 幸子

(反省)
 京都初日の班行動で、バスの混雑を予想しなかったので、帰宿時間に三十分も遅刻してしまいました。もっと交通機関についての計画を綿密しておくべきだった。それと、見学した各所で予定している時間を、はるかにオーバーしてしまいました。それと、班長の態度が、とても投げやりだったと思う。

(班員一同)

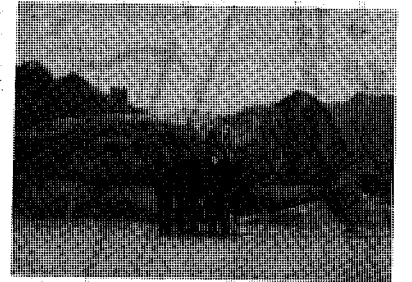
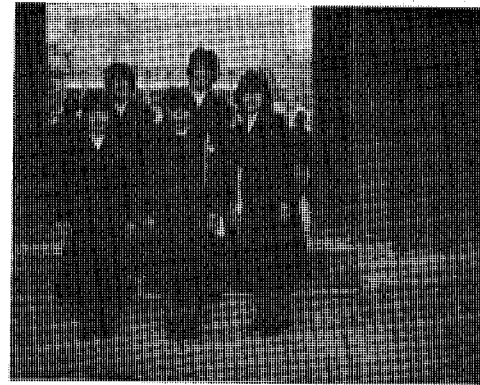
(反省)
 一日目、時間がたりなくて坂本電馬の遭難碑に行けなかった。通ったんだけどみつけることができなかった——残念！
 二日目、はじめから失敗してしまいました。乗る電車をまちがえてしまった。そのため見学の順番が変わってしまいました。その上、大覚寺にいくつもりがバスに乗ったらおろしてもらえなくて化野念仏寺までつれていかれてしまいました。あー悲惨！ そのあとは、計画通り余裕をもててよかったと思う。
 岩崎さんと一緒に五人でいきたかったとつくづく思ってしまう。

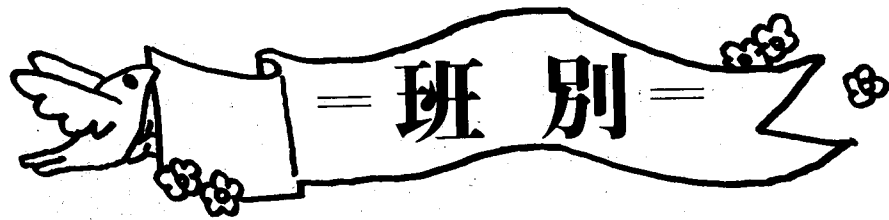


右側上から
6班, 8班
左側上から
5班, 7班



左上から順に
1班, 2班
4班
下は3班





修

学

旅

行

の

感

想

文

修学旅行の感想

一班

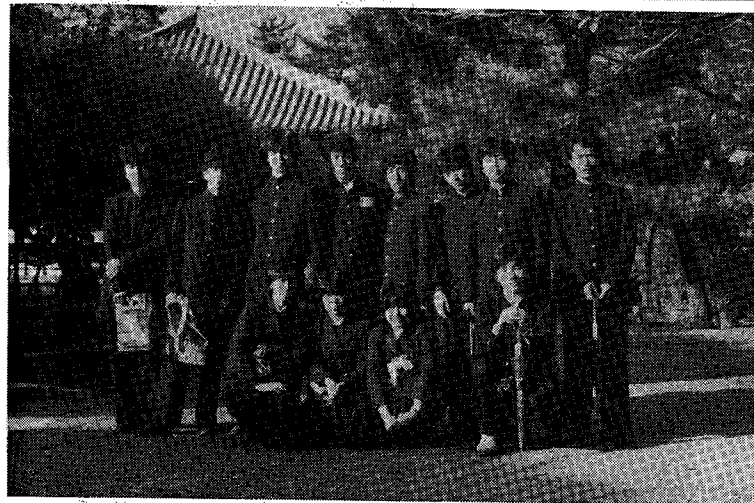
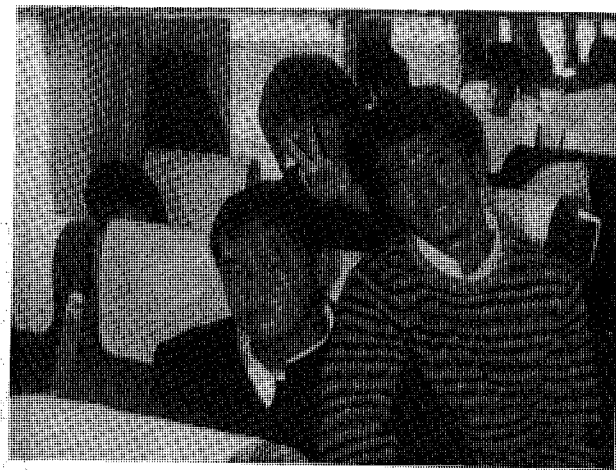
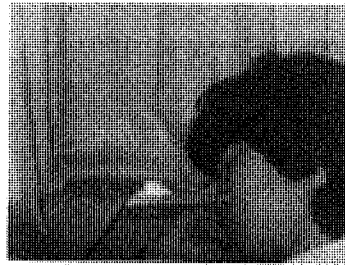
二日目、京都の旅館に着いたら、『笑っていいとも』がやっていて、鶴見辰吾から石野真子にいくなんて、意外だろノと思って見ていたら、出発が少し遅れてしまった。それに加えて、バス停がどこだかさんさん迷ってしまった。清水寺で、班の人を待っていると、のたのたした犬がやってきて、こびをうっているのに、誰かさんは無視していた。班の人がなかなか来ないので、ぼ*として待っていたら、八ツ橋を持って、歩いてきた。

その時は清水寺で外人さんの団体にくっついてまわっていた。もどってきたら、宇治茶の試飲や八ツ橋の試食などをしていて、他の人達と合流したのは一時間くらいたってからだったので、とても悪かったなあと思った。

その後みんなで茶店に入った。みんな「ところてん」を食べたけど私は好きじゃないから甘酒を飲んだ。はっきり言って全然おいしくなかった。家で作った方がずっとおいしいとつくづく思った。その夜、みんな八ツ橋を食べたけどなぜか私は食べなかった。

その夜、熱を出して私は、はやばやと寝た。みんなと一緒に起きてたかったのだけど「あしたのために……くそおー」と思っ

て涙をのんで寝た。そうしてけろが寝たその日ノ夜中にとっても楽しく過ごしていた



ら、いきなり先生にみつかった。ひたすらあせってしまった。けどそのことが一番の思い出になった。私は信じてやまない。

でね、私達は正座させられちゃったんだ。部屋にもどったらまっくらだった。となりの子のはきしりにおどろいた子がねがえりをうったら、はきしりした方じゃないとなりの子にぶつかった。その子は何を血迷ったか片手を「自由の女神」のごとく高々とあげてたちあがり、しばらくしてねてしまった。私は、おおわらわらしたかったけど、真夜中だったからくすぐすくすくやめた。きなこ。

次の日、私たちは奈良に行った。田楽とてんぷらとそばととりぞうすいがおいしかったぐらいで、あとはたいしたことなかった。中3のときも奈良に行ったけど、あの鹿、あんなに態度でかかったかなと思っただ。その夜、昨日正座の身の私達は、隣の部屋で、ピーナツをしていたけどちよこ先生が迎えにきたので、夜中にまた逃げたそうと思っ、仮眠をとった。目がさめたら朝だった。

土曜の夜、『エアロビクス殺人事件』を見ていたら先生が点呼をとりきたので、おとなしく部屋に帰った。サスペンスの女王の松尾か代主演だった。みががしたのは残念だ。

このようにして何となく修学旅行という感じだった。私のもとに残ったのは喜奈古(きなこ)もちの空箱と、桃太郎祭りずし弁当の入れもの、そしてひきつった笑顔ばかりの記念写真。うらやまっ青春は終わってしまった。あ、広島の手書かなかったなあ。ゆるしてくれえい！

牛のおみやげを買おうと決心しました。おだんご屋さんで小林君たちと会い「おめーらまた食ってんのかー」と言われてしまいショックでした。だんご屋のおじさんはとてもやさしい人で佐々木さんはそのおじさんに Fall in Love してしまいました。私たちの班は行動がとてスローなのでクラスの足をひっぱりました。とくに最後の日の少女Aはみんなに迷惑をかけ、ごめんさいと必死にあやまっています。

さがのめぐりをしていて、佐々木さんがわたあめを買ってといたので私を買ってあげました。そしてかざ車のやしちとともに旅をしました。ちえちゃん、その途中で、かざ車だけで九百円もつかったといっていました。佐々木さんと橋本さんは、食べ物屋があるとすぐ立ちどまるので全く困ります。とくに佐々木さんはバナナには目がありません。なぜかという佐々木さんは実はごりらなので。うそです。そして豆腐屋小町は「どうも」という言葉を残し去っていました。旅館での不破さんの役割はお母さんでした。それならプーさんはおふくろです。橋本さんは、妻です。高橋さんは若妻です。ゴリはバーちゃんです。高橋さんは、いつもいつも写真うつつりが良いと思っていたら、やっと見つけたと思った写真は、天竜寺の、ふてくされている写真でした。やったーあ、と思いました。あととりよかんでは、ジョニーとちえちゃんとはーちゃんとともちゃん、残り弁当を、りよかんのちゃんに、つめこんでいました。すさまじかったのは最後の夜で、すきやきが出たとき、ものすごい勢いで、食べていました。そしてさいごに残った3人がゴリさんとちえちゃんとふわちゃんであらそっていました。特にゴリさんは、期待をかけられていたので、ねばっていました。食べるのがおそかつ

修学旅行の感想

二 班

私達は京都・広島へ行きました。それは修学旅行というものでした。その日は朝早く起き、そそくさと電車に乗り、集合場所である東京都へ Lets Go でした。広島への旅は遠く新幹線は花盛りでした。とくに橋本さんは、はしゃいでいました。その次にはしゃいでいたのは松本さんでした。高橋さんと不破さんはお菓子に熱中していました。広島について、ここでまた遅れをとり資料館でもたつき写真に入れなかつた。それは千羽づるの写真でした。佐々木さんのせいせいで、かん国人の碑のところへ行つたが、一瞬で帰ってきてしまったのであった。すごく寒かった。佐々木さんは、一時間に一本というわりあい、バナナをほうばっていた。旅館の夕食にバナナが出たとき、佐々木さんのところにバナナが集まりました。バナナといえば橋本さんが変な歌をおしえてくれました。みんなでコーラスしました。あー楽しかった。その歌は、橋本さんの十八番なのでありました。Hさんは、夜カセットをかけて一人で踊りまくりました。そのフィーバーぶりにみんなおどろきました。なにしろ部屋の照明を消したりして、「みんなもやろうよ」と私たちをさそいました。またもHさんが、大原へ行く途中お腹が痛いといって突然バスをおりてしまった。あんまり突然だったので私たちはびっくりしました。けなげな橋本さんのためわたしたちはかわい

ただ、よくがんばったと、みんなから、おだんごに、バナナをもらいました。大はしゃぎでした。そのときふわちゃんはみんなのごはんをよめるかかりで、ゴリさんにおかあさんといわれながらもごはんよそりに、命をかけていたのでした。そしてみな、おいしくごはんを食べたのでした。そして、「おやすみ」といいねむりました。

話はおどりますが、「おやすみ事件」というのもありました。それは二日目の夜、十二時近くまで話つきなかつた私達の部屋にI先生が来たのでした。注意をうけたあと、I先生の決め言葉「さやくように「おやすみ」といったのでした。一度は静かになった私達でしたが、その後二度と静かになることはなかったのです。狂喜乱舞とまでいかなかった。ギャーギャーと恐ろしかったのかうれしかったのかいつまでもにぎやかでした。あの声は今だに耳にこびりついているということがあります。顔をみるたび思い出して授業になりませんでした。全くI教師には困ったもんです。夜、おなががすいたので松本さんのおみやげのみみまんを開けて食べました。もみまんとは、もみじまんじゅうのことです。そして、ふわちゃんももう一個食べていい？とひろこさんにきいて、ひろこさんが「あーいいよ」といった時うれしそうに食べました。それをきかけにみんなもどきどきにまぎれて食べました。佐々木さんは3つも食べたような気がします。ずるいよごりー！

ごりさんが、あくびをしているとき、とてもおもしろかったです。私とちえちゃんは、ごりさんのいびきを知っていました。なので、もう一回きこうと思っただけ、私とちえちゃんのほうが、早くねてしまったので、きけませんでした。ごりさんは、ねているよう

ていないのでこまりました。ゴリがねてるから、ゴリさんの話(ねちゃったのかなゴリ、という)をすると、ぼつと目があくのです。さすがにさいごの夜はねむくて、私はさいしょにねてしまいました。もう一度結婚というテレビを見て、私は、ブタのぬいぐるみがほしくなりました。私たちは、びよーきというちえちゃんをおいて、ケークをかいに行きました。食べたものはケーキでなくアイスでした。でも、ゴリさんはびりでした。あしからず。何となく私たちは食べてばかりという気もしますが、そうでもありません。わたしを除いてみんな愛でした。ゴリをのぞいてみな、まともでした。あと京都大にはだまされました。学園祭かと思えば、19日からだったのです。そしてそのかえりに、きつてんへより、2時間ほどしゃべっていました。とてもお店の人ににらまれました。しかたがないので、私たちはじゅんばんにトイレに入ることになりました。ちえちゃんはそのとき、おなかの調子がよくありませんでしたのでコーヒーをのみたかったけどホットミルクにしてふわちゃんとカーコがコーヒーをのみました。そして旅かんにかえりました。すると、明日のジョニーたちが、いました。早かったネーエといいました。それからおふろに入り、ごはんを食べたそのスピードはすごいものでした。そしてねました。プーはふとんを頭からかぶって寝ました。プーは寝言を言うかなあと思いましたが。私はおそくまでおきていたので、橋本さんの寝言に高橋さんが返事をしていたのを知っています。それを本人は、全く気づいていないようです。

というわけで修学旅行もやっと終ってしまいました。おみやげに買っていった、もみまんと八ツ橋、ほとんど自分で食べてしまっていた。これについても幸福なことに榎原神宮駅前にどでかいレンタサイクルセンターみたいなものがあった。奈良は静かで、なんとなく悲しさがただよって、とても良かった。印象に残ったことは、我々と同じ修学旅行生が大勢いたことである。一つとてもくわしいことがあった。私とS君とで、前を築しそうにあるいていた、修学旅行の女子高生に、「ねえねえどこからきたの?」ときいてみた。女子高生いわく、「栃木です。あなたたちは?」我々いわく「埼玉どえす」この埼玉という二文字を聞いた瞬間、栃木の女子高生はプーッと吹き出して笑っていた。ちくしょー。栃木なんかもつと田舎のくせにノとS君と私はのたまわっていたのでした。

私達の故郷

四班

その日、私達は日本の古都京都を歩きました。青空のもとこの京都の地に一步一歩足を踏みしめていきました。桃山城、なんとすばらしいのでしょうか。私達は、その雄大さに声もでないほどでした。更に城の中に入ってきました。たいしたことありませんでした。興奮が止まらなかつた。そして足どりも重く円山公園へ、ひたすら向かいまわりました。円山公園はやら遠く、私達の足どりは、更に重くなつていきました。そしていつのまにか京の都の日は暮れていきました。清水に行けなくなつて日が沈む

から、みはなされました。ということ、この作文を終りにします。

◇修学旅行◇

三班

京都での自由行動はたいへんまとまりがあった。一日目はまず大原へ行った。地下鉄で北大路まで行き、北大路からはバスで大原までという経路だ。なんの支障もなく班長の私としては大満足であったが、問題はその後であった。大原三千院を拝観した後時計をふとみると私は青ざめずにはいられなかった。時間が予定より大幅に遅れているのである。そもそも、我々の一日目の行動には大きなムリがあった。なにしろ大原三千院―寂光院―清水寺というハードさである。結局、帰りのバスの時間のことであつて寂光院と清水寺はボツになってしまった。大誤算の一日目であつた。京都での自由行動二日目は飛鳥路コースであつた。こっちは一日目とはうらはらに、計画どおり、もう寸分のくるいもなく行動できた。特急の券が買えるかどうか心配であつたが、予想に反して、特急はガラガラだつた。

もう一つ、初めに心配していたのがレンタサイクルである。レンタサイクルなしではとてもこなすことのできない計画であつたのでレンタサイクルがなかったら、一日目につづいて、悲惨な結果になつていたのであろう。この詩でもわかるように、私達は清水寺へ行けませんでしたが。ここにきて私達は計画のずさんさに気付き、笑ってしまいました。笑っているうちに門限に間に合わない、ということに気付き、思わずまた笑ってしまいがら実はあせていました。しかしどうにか間に合つたようでした。すばらしい目覚め。さあ今日は、奈良へ行くんだと私達の心は、はずみしました。はずむ心をおさえ、列車に乗り、外の移りゆく風景を見せず、私達は眠っていたようでした。どのくらい眠つたでしょうか。ふつと目をあけて外を見てみると、のどかな田園風景が目に入りました。これこそ、私達日本人の故郷奈良なんだ、と私達の心は、何かが胸にこみあげてくるような感じでした。しかし奈良は私達の訪れがうれしいのか、しとんと雨をふらせてきました。私達にしてみれば、とんだ迷惑でしたが、しだいに空も私達の気持ちもささってか晴れてくれました。大仏様は大きいなあ、僕達の何十倍も大きいなあ、感心してしまいました。正倉院は、見るべきではありません。残念です。しかし気を取り戻して、そばを食いました。鹿とも遊び、友好を深めました。そして二月堂へ向かいました。鹿とも遊び、堂々とそびえ立っていて、まるで私達に覆いかぶさってくるようでした。二月堂を後にして、次に新薬師寺へ向かいました。細い小道を通って、出てきたところ、そこが新薬師寺でした。名に恥じないすばらしい寺でした。しかし私達は、何も見ないで、バスに乗り込みました。そして奈良から列車に乗って宇治につきました。そうです。宇治平等院へ向かったのです。美しい私達はみな絶句しました。平安時代の貴族の生活が目に見えるようでした。そして足どりも軽やかにそこを出て、お店で宇治茶をいただく

きました。そしてなぜかすきやき用の肉を買って旅館へと向かいま
した。帰りの列車の中では、まったく活気が見られず、おばあさん
と話をしている者もいたようでした。そして門限前に旅館につきま
した。
この班行動を通して、私達は友情の和を深め合えたように思われ
ます。そしてこの旅行は、これからの移りゆく人生の中で重要な体
験となるでしょう。

修学旅行

五班

私達の班では旅行前からいろいろともめごとがあつて最初に決ま
ったものところがうものとなり、男子だけの班になった。一応みんな
の班と同じように計画書を作つて提出した。しかし、実際京都や奈
良に行つてみるとどのバスに乗つていいのかどの電車に乗つていい
のかわからなくなつた。

2日目、私達はグループ別で京都市内を見学することになつてい
た。最初は順調に事は進んでいた。ところが二条城で遊びすぎたの
がわるかつた。そこでずれた五分が最後までひびいて、旅館に到着
したのが遅れてしまつた。その夜、班長会議があつて遅れた班の班
長はみんな残されてしまつた。先生達は本当におこつていよう
だつた。思わず反省してしまつた。

3日目、今度は奈良公園を中心になつた。東大寺や春日大社な

修学旅行の感想(京都編)

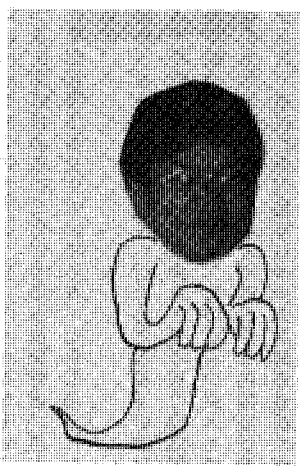
六班

我々六班は、まず初めに大徳寺へ向かいました。大徳寺に着く前
いきなり田原君がバスの中になんと五千円の入つた財布を忘れてし
まつたんです。探しに行くと言つてバスに乗りました。実は、それ
は全くちがうバスだつたんです。それでそのまま蒸発してしまい、
僕たちは、もう驚いたのなんのって、突然「ちょっと待つて。」
と言つたきり、いなくなつてしまつたのですから。しばらくして問
題の田原君がはるか遠くから走つてきました。もちろん財布は見つ
かりませんでした。だれが拾つたのかな。でもよかつた、蒸発しな
くて。僕は四次元の世界へ行つてしまつたのかと思ひました。災難
はまだ続きます。大徳寺のつまらなさです。「行くんじゃなかつた
なあ。」と後悔の連続。やたら広いせに、迫力に欠けるし、自然が
ちよともない。広いだけの大徳寺め、

次に金閣寺に行きました。金閣寺見たっけ?という感じで、外国
人と一緒に写真を撮りたいの一心で池の回りを行つたり来たり、英
語で話しかけようとして一生懸命勉強したのに、口から出た言葉は、
「あー、すいません。一緒に写真を撮つてくれるように頼んでく
れませんか。」だれに言つたか、わかるでしょう。もちろん外国人で
はありません。外国人と一緒に京都に来ていた通訳の人にです。結局
写真は撮れたのですが、話ができませんでした。安孫子君なんか、

ど有名なものはだいたい見てまわつた。特に平等院は紅葉がきれい
でみんなの感動を呼んでいた。もう少しいろんな場所を見てまわり
たかつたのだが、今日も遅刻すると本場にまずいので、きりのいい
ところできりあげた。その日は帰るのはなんとか間にあつた。間に
あうどころか三十分以上早く着いた。だから先に風呂に入つてみん
なの帰りをまつていた。その日は最終日だったので予想どおりすき
やきだつた。みんな肉のとりあいをしていたが、それぞれ満足に食
べることができたようだ。気のせいかな、肉の量が予想していたのよ
り一キロ程多かつた。

旅行前はグループを男女混合にするか別にするかもめて、最初
に決めたものをもう一度決めなおすといつたような事態に陥つたが
なんだかんだ言つて、決め直した班でも十分楽しかつた。旅行の日
数は一日ぐらひ少なかつたようだが、楽しい旅行だつた。



「There! There!...」とわけのわからんことを言つただ
けでした。それで、最後に握手するときも、てれちゃつて。もうお
わかりでしょう。その外国人は、髪はブロンド、目はスカイブルー
のすごく魅力的な女性でした。

そして最後に菟安寺を訪れたのですが、金閣寺を出た時にはもう
門限破り。困つたもんだ。しかし菟安寺はよかつた。紅葉、池、山、
石庭、やつと京都に来たという感じがしました。そのかわり、あせ
つちやつちと時計とのにらめっこ。早く旅館に帰りたくても、バス停
がいつこつに見つからない。しまいは、体育で鍛えられている足
を使うことになつてしまつた。バスに乗つた方がいいが、停留所が多
くて、また時計とのにらめっこ。「いらいら、いらいら。」あゝじれ
つた。結局、修学旅行は時計とのにらめっこでした。そして、と
うとう僕は時計に敗れたのであります。しかし、みんな無事でよか
つたです。

修学旅行

七班

十一月十日の朝、私たちの学校の二年生はだれもが、東京駅に向
かいました。高校生活の最大の楽しみである修学旅行なのです。私
の心の中には、まだ訪れたことのない広島はどんなところだろう、
そして中学生の時に行つた京都はどうなつていようかと、期待で
いっぱいでした。

新幹線の中で長い時を過ごし、外へ出た時には、もう広島でした。広島駅を出ると、私は、ここが広島なのかと思いました。立ち並ぶビル、広い道路を走るたくさんのお車、ここが原爆の落とされた所、広島なのだろうか。被爆して、荒廃しきった街が、ここまで立ち直るのに、人々は、どれだけ苦労をしたことでしょう。

そんなことを考えているうちに、労働会館に着きました。そこでは、被爆された方が、私たちのために、当時の様子を語って下さいました。その人の口から発せられる言葉は、どんなにか苦しかったろう心を感じさせました。しかし、本当は、私が想像した以上の地獄だったでしょうし、その傷の痛みもまた想像を絶するものでしたろうと思うと、つくづく、今の「平和」がありがたく、決してそれを壊してはいけないと思いました。自分が立っているこの足の下に、死んだ人の骨がうまっているかもしれないと思うと、歩くことが、何かいけない事をしているような気がしてなりませんでした。

京都では、行くところ行くところグループ見学だったせいでしょか、すべてが新鮮に感じられました。

一日目の、三十三間堂→清水寺→二年坂→三年坂→霊山観音もたいへん楽しかったのですが二日目は最高でした。まずバスに乗って大原へ行きました。そこは旅館あたりの都会の京都ではなく、自然の中の美しい京のまちだったのです。紅葉した木々の葉も、澄んだ空気も、大きな川もたとえようのない美しさで、私はその中を駆けまわっていました。鞍馬へ向かう電車の中で、天気はすこし雨になりました。ところが、電車が木々の中を走っているうちに雨はやみ、鞍馬に着いた時には晴れてしまったのです。山の天気は変わりやすいといいますが、自分で体験したのは初めてで、たいへん驚き、ま

た、感動しました。九十九折などは、人がほとんどいなくて、静寂そのものでした。お地藏様などに手をあわせたりして登ってくるお坊さんなど聞いて、まさに別世界なのでした。

広島ではあまり聞けなかったけれど、京都では京言葉なども聞けて、地方の言葉は趣があつていいなあと思いました。私には他の地方の言葉が移らないのがとても残念でした。

悔いのない、素晴らしい修学旅行だったので、私の人生の高校時代の、鮮かな思い出になってくれると思います。

修学旅行

八班

三千院。一日の自由行動のうち最も印象に残っているのが、この三千院だった。ちょうど紅葉のまっ盛りで、「わあっ、すっごーい」と言っていて、みんなで立ちつくしてしまつた。庭がものすごくすばらしかったのだが、絵の具で塗つたような鮮やかな色の銀杏の木、風が吹くたびに舞い散る紅葉などが庭一面に植えてあつて、とても見事な風景だった。それに、ここで食べた、みたらしだんどのおいしかったこと。焼きたての団子に、甘からいたれをたっぷり付けて、一本百円。あと、茶だんど。ほんのりとお茶の香がして、甘くて、最高でした。再び行く機会があつたら、寄ってきたいこの一つです。

おもしろい電車に乗ってしまいました。それは、京福線というの

ですが、車両が二両ぐらいいしかなんです。そして駅のホームには、改札口というものがなく、端っこのかわい階段が付いていて、ご自由にお入り下さいといわんばかりだったのです。もちろん、切符売り場などというものはなく、乗ってから、切符売りにきたり、ほんと感激してしまいました。

私達、女子だけの班は、よく食べていたと思います。毎日、どこかに行くに必ず、アイスを食べてました。なかには、アイスを両手に持って、幸せそうに歩いている人もいたり、生八ツ橋を売っている店では、絶対に試食してくる……などなど。まったく、生八ツ橋の食べ比べみたいでした。

広島——。といえば、「平和記念公園」だが、そこについては、私の他にもたくさん書く人がいるだろうから私はバスから眺めた広島町の町について書きたいと思う。

一日目は、バスとバスガイドさんについていたらしく、運転手さん、バスガイドさん、ともに、おもしろくて、特にガイドさんの方は、ひょうきんでバスの中で、とても笑えた。案内も上手だったので、街中のいろいろなものに興味を持てた。

路めん電車。こういうものを、初めて見た私には、とても興味があった。私は幸い目が良かったので、電車の脇にあるその電車の発車場所・地名が書いてあるプレートがよめたので、ひたすら友達とそれを読みあげてよろこんでいた。

それから鳩がおびただしい程、たくさんいたので、びっくりした。二日目は、ガイドさんから、広島弁をおしえてもらった。とても標準語では予想できないような言葉がいろいろあつた。「野菜をける」は標準語では、「野菜をいためる」、「かいがりがたつ」は「鳥

肌がたつ」など……。

最後に広島町の町には、たくさん橋があつたということをおぼえている。バスでは何回橋を渡つたことだろう。橋の数の多さにはおどろいた。

他にもいろいろ、おもしろそうなものがたくさんあつた。是非、もう一度行ってみたい。



広島の感想

広島について

古谷 光雅

修学旅行に行く前、事前研究で広島・原爆についていろいろなことをやった。映画も見た。その中には目をそらしたくなるようなシーンもあった。けれども現実に行った広島はもっと強烈な印象をうけた。

語り部で聞いた原爆は、悲惨だった。自分の妻の顔が、死んで欲しいと思うくらい焼けただれ、くずれて、眼球が出てくる。想像しただけで、ぞっとするし、そんな顔は考えたくもない。死にかけた、ケガをしたり、何かの下じきになったりして助けをもとめても来ずに、死んでった人たちはどんな気持ちだったろうか。また、原爆のために現在までも病気になるしむ人々、あの話は広島に残ったはずは、38年たった今でも深く、暗く、大きくついでいやされていけないことがよくわかったと思う。

語り部を聞いたあとに原爆資料館に行ったから、よけいにそう思ったのかもれないけど。とにかくすごかったと思った。すごいと

いうのは適当じゃないかもしれないけどすごかった。資料を間近に見て、そこについている説明文を読むと、さむけがしてきた。夢の中にでてきて、うなされると思ったくらいだった。原爆というのはほんとうに恐ろしい、いったい何人の人が原爆のために死に、また一生をぼうにふったのだろうか。何もかもが悲惨で、恐ろしく、考えても考えても、頭の中でよくまとまらない。
そして今僕たちにできることは、そのことをよく覚えておくことかも知れない。成人になつていない僕の力はとても微力だし、今何かやろうとしてもできないだろう。だけど、大人になり、もしそんな関係にたたされ、何かできるようになった時、もういちどよく修学旅行でいった広島を思い出して、戦争が二度とおこらないような平和な世界を心ざしてみたい。

修学旅行を終えて (広島)

角谷 希美代

高校二年生でメインとも言える修学旅行が終わったわけであるがその中で自分が得た物はとても多いと思う。特に広島で私は存分大きなショックを受けた。TVや本で多少の知識はあったものの現実はその何十倍も恐ろしいものだった。今まで自分が知らなかった事実の大きさは膨大なものだった。

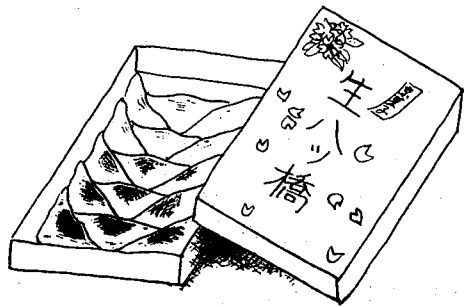
初めてこの目で原爆ドームを見た時、何とも言えない気持ちがあった。夕方だったせいか、何となく黒ずんで少々不気味な感じを覚え

た。「ああ広島に来たんだな」と感じた。私達は単に原爆ドームを広島象徴だという目でしか見ていないと思うが、実際原爆を体験した事のある人はどう感じているのだろうか。きっとこの原爆ドームを見るたびにあの日の恐ろしい光景が目に見えかんでくるのではないだろうか。それでもあえてこの原爆ドームは、平和公園の中に建ち続けている。外国のあるロックバンドの一人が、原爆ドームを見て涙を流したという話を友達から聞いた時、ああこれなんだと思っただけで一人でもいい、何人でもいい、原爆ドームを見て涙を流してくる人がいたなら、原爆の恐ろしさを知ってくれる人がいるからこそ、被爆者達はじっと耐えているのではないか。

私が広島に行って非常に強く願ったのは、一人でもいい、多くの人に広島を見てもらいたいと言う事だ。資料館から出た時は、本当に口もきけない程のショックを受けていた。確かに見て気持ち悪いものではない。なかには、物を食べられなくなりそうな程気分が悪くなる様な写真もたくさんある。だからこそ、私は多くの人に何十年か前の事実を知ってもらいたい。それこそ世界中の人に唯一の被爆国である。確かに不運な事ではあったが、それは逆に実に私達にとって良い教訓を与えてくれた。核兵器の増産を唱えている様な人は、この事実を知らないのか。広島に住むアメリカ人の男の子がこの資料館を見て、ショックを受け、一週間もの間怖くて夜も眠れず、大統領に手紙を書いた。一度広島に来て下さい、と……。この子はおそらく大人になってからもこのショックは忘れまい。そして核兵器反対を訴えるだろう。皆そうなればいいのだ。一度来れば恐ろしさは分かり過ぎる程分かる。皆に知ってもらいたい、この

事実を……。

広島は今川と緑の美しい街だった。投下当時から見事な程に立ち直った。だけど人間は街の様にはいかない。一度破壊されたものを元通り美しくは出来ないのだ。今なお多くの人が病床で苦しんでいるという。二度とくりかえしてはいけないのだ。今度又戦争が起こったら、本当に今度こそ取り返しつかない事になってしまわないとも限らない。「父を返せ、母を返せ、人間を返せ。」亡くなった人を返す事は出来ないが過ちをくり返さない事は出来るだろう。亡くなつていった人達にとって一番喜ぶ事はまさに、戦いをなくす事だと思ふ。今まで遠い存在だった戦争が一瞬身近に感じた。
平和を願う心。私が修学旅行で得たとても大事なもの……。



初めての体験というのは、誰にとっても楽しみと不安に付きま
 われるものだと思う。私にとって、今回の修学旅行は、まさしく不
 安に包まれた、未知の体験だった。

もちろん、一生徒としては過去に経験もあるが、教師という立場
 で参加するとなると話しは別になる。とにかく不安で、心配で、行
 きたくはなかった。けれども、結果的には、行って良かったと思っ
 ている。

それは、まず、初めて広島に行けたこと。恥かしながら、今まで一
 度も広島を訪れたことがなかった私に、訪れるきっかけができたこ
 と。広島で様々なものを見、聞いたこと。これらは、修学旅行に参
 加して良かったと思うことの一つ。

次に、秋の京都に行けたこと。紅葉がきれいだったこと。天気に
 恵まれたこと。生徒諸君には悪いけど、楽しんでしまった。

最後に、そして最大の理由、参加して良かったと思う理由は、生
 徒達の多くが楽しんでるのを見たことだ。いつも授業中の不景
 気な、そして放課後の疲れ切った顔を見慣れている私にとって、実
 に新鮮な印象を伝えてくれた皆さんの笑顔だと思ふ。

色々なことがあって、中にはムクれていた人もいたけど、でも楽
 しかったことは沢山あったはず。その思い出を大切に、そして、ち
 ょっぴり反省も心に留めて、これから明るく、楽しく、そして、
 がんばって欲しい。

星 陸夫

弥勒菩薩と阿修羅王 深澤 潔

私にとって、京都へ行く、ということは仏像を見るということであ
 り、それは、人間の頭の中にある宇宙を再確認することに他なら
 ない。現代科学は、無限と言われていた宇宙も実は限界があると教
 えているが、人間の内にある宇宙空間の広がりには尺度をあてるこ
 とはできないと思う。

三十三間堂に像のある阿修羅と帝釈天は、すでに四億年以上も戦
 いをしているといわれ、そしてその戦場は人間界の上空五兆一千二
 百億光年の上空だそう。更にその三兆五千六百億光年以上上空の
 兜率天には、この戦いの後、今から五十六億七千万年後に、人間を
 救いにくる弥勒が住んでいるという。弥勒は住んでいるといっても
 広隆寺の弥勒菩薩半跏思惟像のような姿勢でじっと何もしていない
 ようだが。

それらの像の前に立つと、何故、阿修羅王は、そんな所でそんな
 に長く戦い、弥勒は我々人間を救うのにそんなに待つのだろうかと思
 わずにはいられない。それを、そのまま自分の内にある宇宙に導
 入してみると、人間の欲の無限の広がりや強さ、そしてそれを抑え
 るのにどれだけの努力が必要なのかを思い知らされる。

自分の中の悪を、誕生以前の空間と時間の広がりの中の戦い
 に表現し、善もまた、遙か彼方の救いに表現しているのだろう。

仏像は、毎日の生活に追われてどんどん自分の内宇宙を決めている
 自分の姿を見せてくれる。たまには、こうして自分自身の無限の時
 空を見つめてみるのもいいと思う。そこにいるのが阿修羅でも、弥
 勒でも。

名言集

不丹の肉々全部おなか
出したんだ。返せ!

今日は2人でイラネケケ
帰るまでからやせるのが大変だ

- 写真をとれば ギャグになる!?
- おたべ食べアイス片手に食べ歩く

君は新葉師等と見たか

正座したのか
座敷に座るのか
おなかのへたりか
だのしかた

京都では誰をも独り
ことりま

旅行後 体計は
monster

縁をばい
みり買て
安心だ - Lae in 京都

旅行前に別れて
- 1Fに京都タワー
行けたのか

京都は12
もう前は12
京都で泣いた
あの時は
あの時は
あの時は

一度 行きたく
一生に一度 振りま

もみましろうたべた
京都駅 1分

めんめん 好きだからって1冊も買っくやつら

SOCGER

入倉健三
若菜健一
大塚敦
大礼剛
小沼信昌
荒谷精



峯和義

不参加者

岩崎康子

竹林秀之
廣根伸一
森泉和人
折原孝浩
鈴木祥嗣
茂呂宏幸
天野敦仁



馬伝



chiyoko

第34回全国高校駅伝競争大会 埼玉県予選会

優勝	埼玉栄	2°09'47"
2位	飯能	14'36"
3位	浦和実業	16'19"
4位	秩父農工	16'34"
5位	立教	19'20"
6位	松山	19'41"
...		
50位	越谷北	2°35'21"

1区	10km	天野敦仁	35'47"
2区	3km	茂呂宏幸	10'13"
3区	8.1km	鈴木祥嗣	30'10"
4区	8.1km	丸橋真一	32'17"
5区	3km	折原孝浩	11'33"
6区	5km	森泉和人	18'11"
7区	5km	関根伸一	17'10"

陸上部の成績 171

サッカー部の成績 172

陸上部

天野敦仁	173
茂呂宏幸	173
鈴木祥嗣	174
折原孝浩	174
森泉和人	175
関根伸一	175
竹林秀之	176

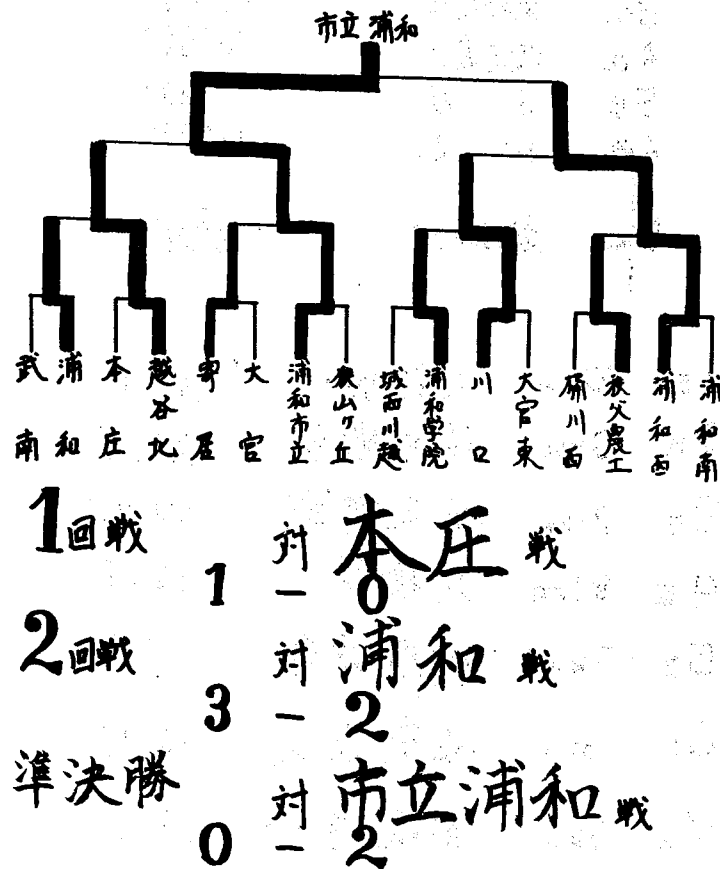
サッカー部

入倉健二	177
若菜健一	177
大塚敦	178
大礼剛	178
小沼信昌	179
荒谷精一	179
峯和義	180
岩崎康子	180

青・春・実・感



第62回 全国高校サッカー選手権
埼玉県大会



行きたかった修学旅行

でもそれ以上に「駅伝」には出なかった。だから、サッカー部みたいに強いわけではないのに、学校に残って、駅伝に出た。僕は走る事が好きだから今回、修学旅行より「走る」事を選んだのだが、それでも、全く修学旅行に関心がなかったわけではないし、ぜんぜん行きたくなかったわけではないし……… それなのに一体全体、何だっただんな旅行委員会は、行かなかった人に、感想を書けだろ 何だっただんなコノヤロー。感想っていったって、何を書けばいいんだ。

でもそれ以上に

修学旅行

の前の日、いきなり行きたくなかった。それまでは「修学旅行なんて」と思っていたけれど、みんなが旅行の用意などをしていると、すごくつらくなった。駅伝の成績は思ったより悪かったけど、やっぱり走ってよかったと思った。

やい！

二年二組 茂呂 宏幸

○月×日 みんなが広島でワイワイやっているとき、僕は、陸上部対サッカー部で、バスケをやって、陸上部は勝ちました。とっても楽しかった。

○月△日 少しでも書けとかいうのか、旅行委員会って所は、残酷で冷酷無比で、そんな委員会なんですね。別に僕は、修学旅行に行かなかったんで、ひねくれているわけじゃない。行かなかった僕が悪かったわけだし、でも、わざわざ、修学旅行の感想なんて、書かせなくたって、プチ、プチ。まあ、それはともかくとして、行かなかった僕らに、色々と気を使ってくれた、クラスやその他のみなさん、どうもありがとうございました。

二年七組 天野 敦仁

P.S. 伝言板、読みました。ただ、ただ感謝。



修学旅行に行かず

とにかく、毎日がつまらなかつた。学校へ行っても何もすることがないし、やろうやろうと思っていた政経のレポートも、結局、一字も書かず、家に帰っても、カセットテープから聞こえてくる音楽を聞いているだけだつた。

でもサッカー部の試合、よかつたなあ。オレ、ラッパ吹いて応援してたけど、あの試合は「感動」以外、何もなかった。試合は前半の二点を返しきれず、浦和市立高校に負けただけど、グラウンドで泣いていたイレブンたちを見て、よかつたなあと思つた。試合が終わつて泣ける人なんて最高だなと思つた。宗村先生や他のサッカー部の人の違つた面も見えた。

オレはというと、11月14日、森林公園で行われた駅伝、もうどうしようもなかつた。三区八キロメートル、もう何が何だかわからないうちに終つていた。苦しかった。くやしかつた、どうしようもなく、ほかのランナーが憎らしく思つた。走り終えた時の、あのくやし涙は一生忘れない。

とにかくオレはやることをすべてやった。何もいうことはない。やれる所までやって、結局、駅伝ではその力がでてこなかつたけど、それでもよかつたと、一人になつてそう思つた。最後に、おみやげどうもありがとう。越谷北高校は一着のテープを切れなくとも、タスキはしっかりとゴールに運びました！！

二年九組 鈴木 祥嗣

高校三年間

で一番心に残るのではないかと思う修学旅行に行けなかつたのは、とても残念だつた？

修学旅行に行けなくなるとわかつた頃は、「どうせ修学旅行なんてつまらないだろう。」と思つて、修学旅行に行きたいという気持ちは、全く起こらなかつた。その後、修学旅行が近づき、みんなが準備を始めるようになった。だが、行きたいという気持には、ならなかつた。しかし、修学旅行が、あとわずかにせまつた頃、先生にもんくを言われたりしながらも楽しんでそうに計画書を書いたり、準備をしている姿を見た時は、さすがに、心がわずかにぐらつた。

みんなが修学旅行へ行っている間の過しかたは、おもしろいものだった。何をしても、誰からももんくは言われなかつた。ほんどの時間を図書室で過ごしていた。

二年七組 折原 孝浩



高校生活

の数多い思い出の中でも大きな比重をしめる修学旅行に参加できなかったのは、ひじょうに残念だが駅伝大会で全力を尽くして果てたので、自分には、いい思い出になつた。

二年八組 森泉 和人



修学旅行を残つて

実は私は、これが楽しみで旅行委員になつたのだつた。一年のときから決めていた事であつた。が、今年の四月に駅伝と重なつていふ事を知つた。はっきり言つて、予想をまるでしていなかつたのである。旅行に行つて騒ぎたくもあり、走りたくもあつた。だが、走りたいという気持ちの方が強かつた。しかし、十月になつてから、駅伝の日取りが変わつた。つまり旅行期間からはずれた。ラッキー！これは行くことができる。と思つたが、過去の事が脳裏を横切つた。これと似たケースで失敗した事があつたのである。同じ失敗を二度繰り返したら、ただのパカである。そこで思いとどまり、残ることにしたのであつた。

そして駅伝当日。朝早く東松山へと向かつた。気合は十分。風もなく暖かい。私は絶好調のコンディションでのぞむことができた。午前十一時。一区がスタートした。が、私が走るまでには、二時間以上の時間がある。……時が刻々と過ぎ、緊張が徐々に徐々にと高まつていく。そして遂に私の走る時間となつた。第六区の森泉からタスキをもらつと、「前の奴を抜くんぞ」という気持ちしかなかつた。抜くとその前を追う。三人の runner を抜き、ラストスパートをかけた。しかし、三人目に抜いた奴がしぶとく付いて来ていた。私も奴も必死であつた。が軍配は私に上がった。沿道の人々、陸上部の連中に迎えられて、ゴール・イン。

二年八組 関根 伸一

もうあいつら

新幹線に乗っただろうな。」「今頃は平和公園だな。」「今頃は広島の旅館か、トランプなんかやって盛り上がったんだろうな。」「みんな京都の街を歩き回ってるころだな。」「今頃夕食か。あいつらさぞうまいもん食ってるだろうな。」「そろそろ琵琶湖で記念写真でも撮ってるんじゃないかな。」「もうみんな東京へ向かっているだろうな。どんな土産を持ってきてくれるのかな。」「図書室で本に目を通しているとき、部活動のとき、家に帰ってTVを見ているとき、さまざまに思いがばくの脳裏をかすめる。だが旅行に参加できなくて残念だとは四日の間一度も思わなかった。ばくは、力及ばず今回の駅伝の正選手にはなれなかった。補欠である。正直言って「補欠なら学校に残っていてもしょうがないや、くそ。」とヤケになりかけたこともあった。しかしこの駅伝は野球で言えば甲子園の予選にあたるもので、高校の長距離ランナー達の大目標なのである。一年半の間、共に練習してきた仲間が、その成果を発揮するときなのだ。それを思うと、そんな卑屈な気持ちはすぐ消え失せてしまった。たとえ試合には出れずとも、最後まで中長距離の連中につき合うべきだ。そう思い直したのだ。

自分の気持ちに悔いは残っていない。だが将来、卒業アルバムの修学旅行の写真に自分の姿のないのを見たとき、ちょっと淋しさが胸をよぎるかもしれない。

二年六組 竹林 秀之



四日間の思い出

十一月十日から十一月十四日までの四日間、三年間の高校生活の中で一度しか経験することのできない修学旅行という一大行事に参加することができなかったことはひじょうに残念でした。第六十二回全国高校サッカー選手権大会の埼玉県大会準決勝に我校の代表として出場することになったからです。まさか本当に行くことができなくなるとは思っていませんでした。準々決勝の対浦和高校戦で三対二と勝ったときはうれしさを修学旅行のことなど忘れていました。しかし、十一月十日修学旅行の当日になるとさすがにそのときのうれしさは半減しました。

二日後の十一月十二日に行われた埼玉県大会準決勝対浦和市立戦では健闘むなしく〇対二で敗れてしまったのですが、その時はとにかく悔しくて……。

とにかく修学旅行へは行けませんでした自分が思っていた思い出に残る四日間となりました。この四日間の思い出は一生の思い出になることだと思えます。

二年二組 入倉 健二



11月10日から四日間

修学旅行があっ

た。けれどもサッカーの大会があるので参加しなかった。しかし自分に行きたくなかったのでもううれしかった。修学旅行に行くと京都などを見学することよりも、自分達にとってサッカーの大会のために残っている方が絶対がいい。サッカー部のみんなもほんとは行きたくないのにしょうがなく行ってきた人がほとんどだったと思う。それだけに準決勝の試合は勝ってほしかったのだが、負けてしまった。あの日はすごく悔しかった。自分は試合に出れず見ているだけだったのでとても悔しかった。しかし先輩はもっとも悔しかったはずだ。3年間の総決算の試合に力を出しきれずに負けてしまったのだから。更衣室で先輩達が泣いているのを見ていて感じたことには、やはり3年間苦しい練習をのり越えてきて、最後の大会にもベスト4に入れた先輩達でなければ味わえないものがあるんだろうと思った。そして来年は自分達の代になって、先輩達のように素晴らしい成績を残すぞという決意をした。

それからサッカー部の友達はいろいろな人が集まっているけれど、クラスの友達とは違ってもっと強い結びつきがあるんだなと感じた。修学旅行に行っている間も旅行先から電話をくれたり、おみやげもたくさん買ってきてくれた。京都では、試合に負けたことを聞いてみんな悔しがり、来年に向けて決意を固めたとも聞いた。

だから修学旅行とかわらないすばらしい経験をしたので残念に思わない。

二年四組 若菜 健一

私は

高校サッカーの予戦で修学旅行へは行くことができませんでした。予戦が始まるまでは勝ってもベスト8止まりだと思っていました。しかし、大会が始まって一回戦で武南が浦和高校に負ける波乱があってこの時からもしかしたら修学旅行に行けないのではないかと思いはじめました。

結果は自分の思ったとおり浦和に3対2で勝って念願のベスト4進出を成しとげました。

準決勝では市立浦和高校に敗退しましたが、修学旅行に行った人たちとはちがった思い出ができてよかったですと思っています。

二年七組 大塚 敦



青春時代の貴重な体験

夢にも見たまさかの出来事が起こってしまいました。ここ数年、県でベスト8止まりだった我々北高サッカー部が、念願のベスト4進出を成し遂げたのでした。準々決勝で浦和高校に勝ってベスト4進出をした時は、とにかくうれしくてうれしくてたまりませんでした。

11月12日、みんながグループ見学している日に、準決勝対市立浦和戦が行われました。負けはしましたが、芝生のグラウンド、観客席付きの大宮サッカー場で、又、北高応援団、生徒の応援の中であつテレビ中継で試合ができて、ほんと、青春実感、そのものでした。二年生ながらサッカー部の代表として、このような大舞台でレギュラーとして出してもらい、今までのケガ、苦しい練習に耐えてきてほんとうによかったと思いました。

というわけで、修学旅行に行けなかったわけですが、ちっとも後悔はしていません。それどころか、サッカー部で修学旅行に行つたやつらが、毎晩、広島や京都から高い電話代を払って電話をかけてきてくれたし、又、準決勝で負けた時、自分もグラウンドで悔し泣きをしたのですが、試合に出ることができずに修学旅行に行つたやつらも、京都で泣いてくれて、真の男の友情を知り、胸がジーンとする思いでした。このように、修学旅行では得ることのできないすばらしいものを得ることができて、修学旅行に行けなくてかえってよかったと思っています。このこと全て、ぼくの一生の思い出になることと思います。熱風青春今、一直線〃 二年八組 大礼 剛

本当の事を言うと

自分自身としては、みんな今ごろどこにいるんだろう。そう思いながら普段と同じように学校に来た。教室にいるのは、サッカー部と陸上部の数人。ばかりしくって勉強なんてする気にはならなかった。しょうがないから、体育館に行ってバスケット・バレー。今一つおもしろくなかった。せめて女の子が二、三人残っていてくれたら、〇〇とまではいかななくても、楽しいおしゃべりぐらいはできただろうに。

県大会準決勝。緑の芝生に、超とはいえないけれど満員のスタンド。少しの緊張感と満足感。相手は浦和市立高校。試合開始からみんなの動きが少し悪かった。後半ががんばったけれど、結果は二対〇で負けてしまった。悔しかった。試合が終わってロッカールームに入ると、三年生はみんな涙。自分も何かこみあげてきた。何だかわからないけど感動だった。これこそ青春実感だと思った。

試合が終わってから思った。修学旅行に行けなかったけれども、旅行では得られなかった何かを、自分はずかんだと思う。今年はずかんだ。でも、来年こそはきつと勝つ。決心はかたい。

(旅館から電話と、おみやげはうれしかったです。)

二年九組 小沼 信昌

楽しかった修学旅行

ぼくは、中学の時に修学旅行に行きました。とっても楽しかったです。

でも高校の時は行けなくてうれしかったです。

あの時の情景が頭に浮かんでくるようだ。私は、でも修学旅行に行けなくてうれしくなかった。

あの時の情景なんて頭に浮かぶもんなか。

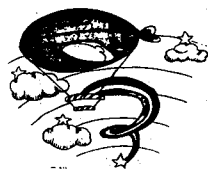
あの夜、宗村先生になぐられたあの痛さを忘れるもんなか。試合に負けた時は、くやしがあったが、おわり

でも、修学旅行に行きたかったです。

こんどの試合には、勝ちたいと思います。

おわり

二年十組 荒谷 精一



自宅待機

自分は修学旅行へ行けなかった。というより行けなかった。「修学旅行へ行かない」とクラスの連中に前日宣言した。皆別に驚きもしなかった。なぜ行かなかったといえ、たいして意味もない。ただつまらなかつたからだ。本当は広島だけは行きたかった。ずっと家で楽をしていた。学校へ行っている人が「あんまりおもしろくなかつた」といったのでそんなものだろうと思つた。またある人が八ッ橋なんかを買ってきてくれたのには感激した。全く自分は無精者だと思つた。

完

二年十組 峯 和義

行けなかつた修学旅行

十一月十日、朝早く東京駅に集まって、みんなは京都・広島などに行つた。私も本当ならば行くはずだった。でも楽しみに待っていた修学旅行だったのに、私は、はりきりすぎたせいか風邪をひいてしまった。そして、十日の朝になつても熱が下がらなかつたので、とうとう行けないことになつてしまった。

修学旅行中のみんなが楽しんでる間、私はずっと寝ていてたいくつだった。でも、友達から電話があつた時は、とてもうれしかつた。また、「京都なら中学校の時に行ったし、広島にはいつか行けばいいや」と考えたりした。しかしみんなが帰ってきて、修学旅行の話をしてくれるのを聞くと、やっぱり後悔してしまふ。

高校生活の中でも、修学旅行というのは思い出深いものの一つだと思ふ。私にはその思い出はないけれど後悔ばかりしていても仕方がない。これからはこんなことのないようにしたい。

二年九組 岩崎 康子

修学旅行

岡島 正幸

我が国における修学旅行の起原は、明治時代に、師範学校の最高学年が数日にわたつて関東平野や房総半島を歩きまわつたことに求められるようです。当時は「行軍」と呼んだそうです。今では、大分、楽な形になっていますが、様々な計画や準備、それに団体ゆえの行動の厳しさなど、つらさは無くならないようです。そもそも旅はつらいものですが、諸君の思い出の多くは、感情的な、または知的な楽しさではないでしょうか。私の、中学や高校での修学旅行では、旅先（京都）が特に面白かつたという記憶もないのですが、その後、何回となく京都を訪れさせるだけの起爆剤にはなつたようです。諸君がみずから、ガイドブックや時刻表、地図を調べて、行先をきめ、計画をたて、時には失敗して、悪戦苦闘している姿を見るにつけ、自分なりの旅を創りあげようとしているのだと感じていました。おそらく、今後、旅先として、私と同じ様に京都や広島を選ぶ者も多いと思います。ぜひ、今回の修学旅行を、諸君の旅の出发点として位置づけて欲しいと思います。その際にはぜひ、五万分の一や、二万五千分の一の地形図（国土地理院発行）を利用したものです。観光地図にはない、地形や土地利用、郵便局や役場といった様々な情報を得ることができます。新聞一頁弱の大きな地図が二百円たらずで手に入り、旅に奥行を与えてくれるでしょう。



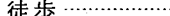
修学旅行雑感

宗村 武雄

私は京都が好きだ。特に紅葉の嵐山から嵯峨野あたりは何度でも訪れてみたい。そして今年には「修学旅行で行ける」期待に胸がおどつていた。生徒を引率してゆかねばならない教師でありながら、そんな大変さよりも数倍その期待の方が大きかつたのである。

「修学旅行」良い言葉であるが、最近は何の意味もないただの旅行に成り下がっている。しかし北高生の今回のそれはそうではなかつた様だ。全員でしっかり計画し何度も話しあい旅行委員の苦勞によつてすばらしいものになつたと確信している。やはりしっかりした準備ができたからこそと思ふ。私個人としてはサッカー部の活躍で前記の期待感を実現することができず、広島・京都・東京とんぼ返りで新幹線に乗っている時間の方が長かつたようだがクラスの者には迷わくをかけたとも思っている。何はともあれみんなの胸にはすばらしい思い出になつたと思ふ。その新しい体験の中に多くの「感動」があると思ふ。美しいもの、すばらしい体験、そんなものに素直に感動できる人間が少ない現在、これからの生活の中で修学旅行で体験したような「感動」を数多く、体験できるように人生を歩んで欲しい。

修学旅行旅程表

① 凡例：国鉄  バス  徒歩 

② 時刻：上段………到着， 下段………出発

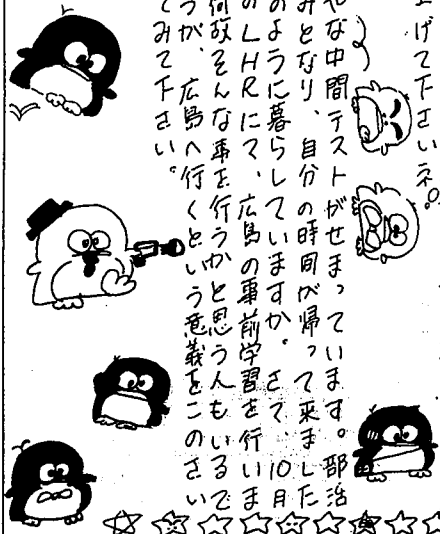
11/10 (木)	東京 8:12 ひかり75号 広島 13:32 広島 13:32 広島 13:32	<ul style="list-style-type: none"> 講演 I (労働会館) 1, 2, 3, 7, 9, 10組 講演 II (YMCAホール) 4, 8組 広島大学原爆放射能医学研究所 6組 放射線影響研究所 5組 	15:55 平和公園 17:45	18:00 旅館
11/11 (金)	旅館 8:00 広島 9:24 京都 11:53 京都 11:53	グループ別見学	12:15 13:00	17:00 旅館
11/12 (土)	旅館 8:00	グループ別見学		17:00 旅館
11/13 (日)	旅館 8:00	クラス別見学	14:00 14:41	17:32 東京 17:32 東京 17:32

修学旅行まで

あと23日です。

まだまだだと思っている修学旅行もあと23日です。各班の準備はどうですか？前日に二計画書の書き方のプリントを配布しました。わかんないところはクラスの旅行委員に聞いて、みんなを分理して10月31日まで必ず仕上げてください。

いやや中間テストがせまっています。部活も休みとなり、自分の時間が帰って来ません。20日のLHRに、広島の前学習を行いまし。何故そんな事を行うかと思う人もいます。もうか、広島へ行くかと思える人もいます。考えてみてください。



さて一日半の班行動を京都めぐりをするのもいいですね。いろいろな歴史を持つ京都には千年の王朝の歴史を持つ京都があり、京都にはいろいろな歴史があります。京都にはいろいろな歴史があります。京都にはいろいろな歴史があります。

おもしろいところたくさんあります。京都にはいろいろな歴史があります。京都にはいろいろな歴史があります。京都にはいろいろな歴史があります。

いよいよ中間テストが近づいてきました。部活も休みとなり、自分の時間が帰って来ません。20日のLHRに、広島の前学習を行いまし。何故そんな事を行うかと思う人もいます。もうか、広島へ行くかと思える人もいます。考えてみてください。

No.2
語ろう平和 ★★
☆☆☆ふれ合い京都
発行 83.10.29 (土)
By 修学委員会

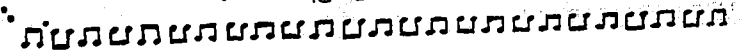
第2次計画書締切は

10月31日!!

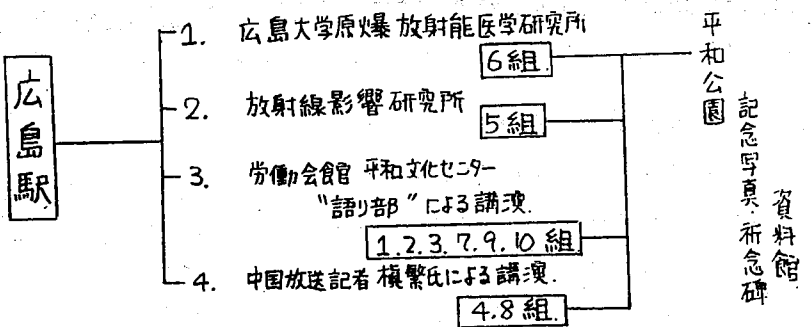
イヤ〜な中間テストもとうとう終わりましたね。結果なんて気にせずに、修学旅行の準備に燃えよう。

本当にっつれてっつてもらえませんか。

このころで...第2次計画書はもうできましたか？
これはちんちんと出さないと...
まだやっていないところってあるかな？
早くはやく準備しよう。



..... 広島の日程



注意!
平和公園では 是非資料館を見よう!! (入場券はあらかじめ配布)
日の暮れが早いので 明るいうちに外の祈念碑を見よう!!
そのあと資料館・記念館にはいるのか かしこ!!!

☆とっせんでっすか。修学旅行まであと12日なんですよ〜☆

○修学旅行は

あさってだ!!

イヤ〜強井大会もとうとう終わりましたね! 稲垣くんが気にせず修学旅行の準備に燃えろ〜!!

○さてサッカー部は **ベスト4** に進出

可憐らしい!!

大会でいけないサッカー部の何人かと陸上部の人たちにはかんばつてもういたい!

みんなからなに気さつげ〜!!

男子は体育のマドでからだをおかしくしないように。

節夫ちゃん愛してる。

サッカー

かたろうの平和
ふれあいの京都

旅行委員会発行
No.4

みなさん楽しく修学旅行に行く
ためには **第二次計画書** を
忘れちゃいけませんよ!
あと集合時間は **7:20** です。
ふだん遅刻しているよこの君 気を付けてね!

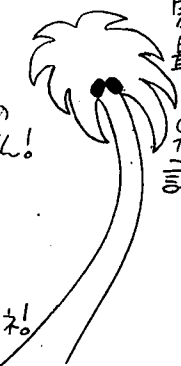
きんがた

またまた
修学旅行

ハズキイトは
高校出立の
記念品を買ったよ!!
by BUNYA



最後にサッカー部 陸上部の
みんな!
あなたたちがいないために
何人の女の子が泣いたと
でしょう。でも試合には
かえられませんが、
ベストをつくしてがんばりな!



宗村先生は
最初の夜は
おまかせです
先生もサッカーの
試合はがんばりな
みんなさん、一番最
初にやのつく自由
業の人にからまれた
まいように気をつけ
なさい!



広島に千羽鶴
を持っていくクラス
はつぶれないよ
うに綱ダナの上の
せておきましょうね
でもそのまわすは
ためだよ。

...事後報告書のお知らせ...

1. スナップ写真 (含. 身合写真一枚) ... 写真をつづる旅行記
2. (1次) 2次計画書添付
3. 感想文 (※広島島の感想、旅行全体について自由に書くこと)
4. 名言集 (一人一言集) ← 5せがきのひびき書く

感想文はスつ考くんだよ
まさかえがないでネロ



...記念文集について...

- 事後報告書をおく。
- クラスごとに分ける。



注意

☆明日はしおりに
必要事項をささ人と
書いて持ってきてもら
い。

☆みんなんで協力して
楽しい修学旅行にし
ましよう。

☆スナップ写真を撮
るの下各班カメラ
は忘れてはいけま
せん。

☆忘れものをしなないように
よくに計画書としましは
気を付けて

修学旅行は
あさってだ!!

中井 宗村先生のイラストです。

思い出は、スライド写真。僕はそう思う。心に浮かんでくるときは、いつも一コマずつであり、その一コマは、鮮かに見ることが出来る。ビデオなどのように始まりから終わりまで連続的に思い出すことはできない。また、スライド写真とは、普通の写真のように、後で修正をするという事ができない。写したものがそのまま作品となる。つまり思い出も、そのまま思い出となる。

とりあえず、僕の思い出の形は、スライドだが、あなたの思い出の形はいったいどんなものですか。人によって考え方が異なるはずだ。若きウエルテルの悩み」という本に、こんな一文があった。

「僕の知っていることなんか、誰にだって知ることのできるものなんだ。——ぼくの心、こいつは僕だけが持っているものなのだ。」

スライドは、手入れをしないと、カビが生えてくる。修学旅行を終えてから、かなりの日が過ぎたが、こころへんで心の中の、思い出の整理をしては、どうだろう。思い出の寿命も伸びるのではないだろうか。

思い出って、なんだと思いますか。

最後に、ご協力いただいた先生方
どうもありがとうございました。

旅行委員長 原 千雪

☆終わってホッとした。

(小野寺)

☆終わったあー。ひたすら疲れた。

(やだの過去形のえび)

☆「編集後記」なんて言われても何もかくことないですね。仕事もほとんどやらなかったし……。Yくんに感謝。(ひろえ&みどり)

☆あー／＼めんどくさい。

(矢口)

☆委員会はずまんなかった。

(麻生)

☆つかれた。

(山川)

☆ブー／＼

(佐藤)

☆やっと終わったー。バンザイ／＼ 腹へったあ。

(マンモ)

☆5万円うれしー／＼

(つる)

☆私は恒に美しさを求めている。

(R・S)

☆帰ろうぜ。

(ECG)

☆部活休みすぎてしまった／＼

(めぐ)

☆もうなんなのりょこういいんかいとかゆってとんでもない。ったくあったまきちゃうわやなやつー／＼

(まき)

☆チェーイ／＼くだいようだがチェーイ／＼

(チェーイ)

☆もー二度と委員会なんかはいんないぞ／＼

(世界史地理)

☆だーいさんげん。

(晋)

☆拍手できまった僕の旅行委員。

(伊藤)

☆あんまんと草加せんべいがおいしかった。

(小田切田小)

☆ペンギンのペンフレンドはみなペンギンだ。世界に広げようペンギンの輪。もしかしてそれギャグ／＼ (I♥LOVEペンギン)

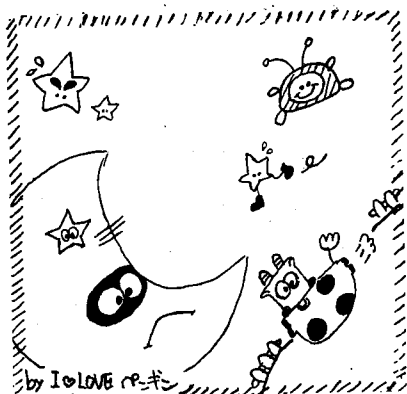
☆いわんや、さて、しかし、おら、あーつかれた。(I♥さて)

☆まったくふざけてます。

(☆やんなった)

☆音楽の中間テスト6点／＼つかん……。

(テツ)



☆音楽の中間マスイの日……

(191)

☆カノエ子集 後記

後記

後記

後記

後記

後記

後記

生徒旅行委員会

- ▶委員長 原 千雪
- ▶副委員長 岸 裕子
- 有 田 知恵

- ▶委員
- 1組 矢口 輝明 岩松みどり 高橋 宏枝
- 2組 伊藤 幸雄 小田切希芳 堀 純子
- 3組 丸山 陽一 森川 雅也 山川 茂
- 4組 国貞 晋 石島 和明
- 5組 麻生 芳彦 佐藤 郁夫
- 6組 嶋村 恭弘 尾堤 由教 大槻 貞徳
- 7組 小野寺節夫 関根 伸一 増本 昌弘
- 8組 川島 哲也 新井 恵 木村 麻紀
- 9組 鈴木 祥嗣 宮田 正吾 依田 仁美
- 10組 柿沼 秀行

☆発行年月日 1984年 2月 10日

☆印刷 前田印刷(株)

☆発行責任者 原 千雪

☆表紙 2年4組 菅原 貞幸

☆裏表紙 2年4組 小栗 秀

旅行委員長 原 (千雪) (191)

委員 (191)

1組 (191)

2組 (191)

3組 (191)

4組 (191)

5組 (191)

6組 (191)

7組 (191)

8組 (191)

9組 (191)

10組 (191)

